

公益  
社団法人

# 誌々會為有沢米





農林水産大臣登録第26号



登録商標第1457084号



## 米沢牛販売店

### 日本橋 日 山

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 日本橋 日 山 本 店             | 中央区日本橋人形町2-5-1<br>TEL 03 (3666) 5257                |
| すき焼き割烹 日 山<br>(予約が必要です) | 中央区日本橋人形町2-5-1<br>TEL 03 (3666) 2901                |
| 日 山 亀 戸 店               | 江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1<br>TEL 03 (3638) 1129        |
| 日 山 池 袋 店               | 豊高区南池袋1-29-1 池袋ショッピングパーク内 B1F<br>TEL 03 (3986) 0290 |

米沢牛銘柄推進協議会  
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合



〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



表紙は、左隻5扇中程（ふる）の場面です。

〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

## 国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12（1574）年に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口は10万人と言われているので、約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7（1995）年国宝となり、上杉家文書が平成13（2001）年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った絵は、珍しく風呂屋の場面が描かれている。この時代の風呂というのは、湯気の出る蒸し風呂のことだそうである。女の人が髪洗いなどを手伝っている。この女性を湯女（ゆな）と言ったそうである。今のような銭湯は、湯屋と言って区別していたと言われている。こうした庶民の生活が描かれており、詳しく見ると面白い民俗が見えてきて、より楽しむことができる。

# 目次

扉	.....	1
ご挨拶	..... 名誉会長 上杉 邦憲	4
コロナ禍下の学生寮経営の現場から	.....	6
創立百三十周年活動ビジョン(進捗状況)	..... 会 長 大滝 則忠	8
創立百三十周年記念事業 地域未来を拓く	.....	12
若人フォーラムin置賜	.....	18
創立百三十周年記念事業協賛金応募者ご芳名	.....	22
本部活動報告	.....	22
第七(通算一三三) 回定時総会の報告	.....	28
本部各部門の主要活動報告	.....	38
本部役員の立候補の届出または推薦の受付について	.....	39
米沢有為会リモート会議のお薦め	.....	40
奨学生だより	.....	43
支部だより	.....	43
東京支部	.....	43
米沢支部	.....	45
仙台支部	.....	48
北海道支部	.....	50
興譲館寮だより	.....	51
東京興譲館	.....	51
仙台興譲館	.....	54
米沢有為会だより号外―育英事業の学生募集―	.....	57
我妻榮記念館だより	.....	58
米沢有為会文化大学	.....	60
第二十九回「光で体を診る」	..... 山田幸生氏	60
置賜市町だより	.....	62
米沢市	.....	62
長井市	.....	66
南陽市	.....	69
高島町	.....	74
川西町	.....	80
小国町	.....	85
白鷹町	.....	87
飯豊町	.....	92
高校生小論文コンテスト	.....	107
会員の広場	.....	107
句会「漆の実」 萬世大路「未来に伝える山形の宝」に登録	.....	117
漆成分の研究に携わった長俊一	.....	117
郷土の本紹介	.....	120
お詫びと年表の訂正・追加のお願い	.....	121
法人賛助会員名簿	.....	123
公益社団法人米沢有為会役員名簿	.....	127
公益社団法人米沢有為会組織一覧図	.....	128
本部・各支部事務所等所在地	.....	129
米沢有為会からのお願い・置賜地区自治体所在地	.....	130
後記	.....	131
広告掲載企業一覧	.....	132
広告	.....	132



## ご挨拶

名誉会長 上 杉 邦 憲

「米沢有為会々誌」第七十号の発刊にあたり、一言御挨拶申し上げます。

平成から令和へと御代替わりのあつた昨年は、鷹山公米沢入部二百五十年、米沢市制施行百三十周年に加え、米沢有為会創立百三十周年という節目の年でした。本会ではこれを祝しての記念式典や「グローバル社会で躍動する置賜の未来への貢献」を目指す百三十周年活動ビジョンが発表されるなど、将来に向けて希望に満ちた一年だったと思います。そして本年一月十一日米沢市市民文化会館において「地域未来を拓く若人フォーラムin置賜」が開催され、記念事業をめたく終了することが出来たのをお慶びしたところでした。

そして今年は、半世紀ぶりの東京オリンピックも予定されるなど、さらに良い年になる事を期待された方が多かつたのではないのでしょうか。それが、僅か〇・一マイクロメ

ーター（髪の毛の太さの八百分の一くらい）の大きさしかないウイルスによって、あっという間に人類全体が脅かされる未曾有の事態になるとは、誰が想像できたでしょう。第一波で外出規制が要請された三月末には「閉門蟄居を命じられた」などと冗談に紛らせていた私も、まさかそれが半年以上の今まで続くとは思ってもみませんでした。東京など第二波が治まりを見せない中、経済活動も勿論必要ではありませんが、重症化率の高い高齢者にとっては辛い状況が続いています。

このような状況下にあつて、理事会や定時総会も東京在住の役員のみによる限定会議にせざるを得ないなど、例年にならない苦勞の多い年となっておりますが、本会の地道な活動の軌跡を記録するため「米沢有為会々誌」が継続して発行されることをお慶び申し上げますとともに、理事、役員の皆様、我妻記念館や興讓館寮の運営に携わっておられる方々、そして百三十周年記念事業に多額の寄付をしてくださっている方達だけでなく、有為会を支えてくださっている会員の皆様に心から感謝いたします。

末筆ながら、会員の皆様、今後とも新型コロナウイルスの感染防止に十分ご留意されながらご自愛の上、ますますご壮健にて過ごされますよう衷心よりお祈り申し上げます。



## コロナ禍下の学生寮経営の現場から

米沢有為会会長 大 滝 則 忠

令和の初頭、二〇二〇年の晩秋、四階建て東京興譲館寮の階段に面した大きな西窓から、富士山の雄姿をくっきりと遠望できました。かつて五十四年前の新築移転の当時、三年寮生としてこの景色を眺めていたことを忘れていました。いま、富士山の姿は相変わらずでも、学生を取り巻く日本社会の状況は激変しています。かつて就職は、終身雇用が前提でした。近年は就労における多様な価値観の実現という美名のもとに、若い人の就職には苦勞が多い時代になっているように見えます。そして、新型コロナウイルス病禍の世界的な蔓延により、社会構造に様々な変化が加速しています。

それにしても、大学生活へのコロナ禍の影響が甚大で、学生寮の日常も諸にその影響を受けています。昨年春は新入寮生ゼロという事態でしたが、今年は十名の新入寮生（うち九名が一年生）を迎えました。新学年早々のコロナ禍の勃発で、キャンパス封鎖の大学も多く、入学しても教室での受講の機会が無く、オンライン授業のみが続く学生もいます。キャンパスでの種々の出会いと寮生活での経験により、個々の学生生活が充実できる日常に早く復旧できるよう祈っているとあります。

東京と仙台の両興譲館寮は、この間、幸いにも寮内に感染者が生じることなく過ごす

ことができています。しかし、春には高熱の寮生が出て部屋に隔離して様子を見るなど、また、夏を迎えて学生の活動範囲が広がって寮生の友人までが濃厚接触者リストに入るなど、感染危機が身近まで切迫する事態も生じています。ここまでの無事は、寮生同士、互いが感染源にならないという努力があり、同時に寮母の奮闘が続いているたまものです。東京と仙台共に、本会の会員、寮のOB、保護者はじめ、様々な方々から物心両面のご支援をいただいていることも含めて、感謝申し上げます。

この秋、東京興譲館寮の二十四の寮室のアルミサッシ窓工事を竣工しました。創立百三十周年記念事業協賛金募集による皆様からのご寄附を財源とする大型改修工事の一部です。一連の工事は、まず昨年度に仙台寮について終了し、続いて今年度は夏期に東京寮の改修工事として、寮室内装の本格リニューアルと同時に外装防水・塗装等の内外一体工事を計画していました。ところがコロナ禍により、短かくなった夏休みにも帰省できないまま寮に留まらざるをえない寮生も多いため、内外工事を分割し、寮生活を継続したままできる外装工事等の範囲に限定して着工しました。来年度以降、コロナ禍の推移を見ながら、できるだけ早期に寮室リニューアル工事をやりたいと考えています。一方、東京寮への女子学生受け入れに関しては、引き続き検討中です。学生寮基本問題検討を進捗させることは、理事会が当面する最大の課題です。

ウィズ・コロナの新生活様式のもとでの日常が定着して、貴重な学生生活の経験がより深まることを祈る次第です。米沢有為会の育英事業の特徴は、様々な集会等の機会を通じて、現役学生と会員との世代を超えた対話が積み重ねられる伝統にあります。コロナ禍下で、それらの直接対話の機会が無い状況は已む得ないことですが、必ずや近々再開できることを望んでおります。末筆ながら、皆様のご健勝をお祈りいたします。

グローバル社会で躍動する置賜の未来への貢献

二〇二〇年十一月現在

公益社団法人 米沢有為会

創立百三十周年活動ビジョン

進捗  
状況

- 印〓活動五か年計画における重点項目
- ※印〓創立百三十周年記念事業
- ★印〓進捗済み
- ☆進捗継続中

## 活動の目標

- \* 未来を担う置賜若人の夢を育英活動で支援します
- \* 置賜の教育・文化・産業等の振興に貢献します

活動五か年計画 二〇一八～二〇二二

## ○ 育英事業

国の内外に雄飛する有為な人材の育成と同時に、特に郷土を担う有為な人材の育成に努めます

男女共同参画社会の実現に向け、女子学生の修学環境を整備します

## ● 若人の置賜定着の推進 ● 女子の社会進出への寄与

※世界に羽ばたく人材の育成に加え、地域を担う生き方の選択や、地元に住住する者を支援

※男女共同活躍時代の実現を促進

## ◇ 学生寮◇

学生寮（東京・仙台の興譲館寮）の施設整備を進め、勉学環境の向上を図ります

- 学生寮の勉学環境の向上
- ※(1)学生寮の充実 ①東京と仙台の学生寮を改修し、勉学環境を一層改善 ②東京興譲館寮への女子学生の受入れ

★仙台寮の居室等改修工事実施（二〇一九年夏）

★東京寮に防犯カメラ設置（二〇一九年秋）

★東京寮外装塗装・防水工事及び居室サツシユ窓工事実施（二〇二〇年秋）

★館長をサポートする東京寮運営チームの配置（二〇二〇年夏から）

☆東京寮の居室リニューアル改修（二〇二二年夏施工予定）

☆学生寮基本問題の検討（東京寮女子学生受入れ課題を含む）

☆コロナ禍で入寮希望者オンライン面接（二〇二二年予定）

## ◇奨学金◇

新たに給付型（返済減免も含む）を加え、従来の貸与型と共に充実を図ります

### ●奨学金制度の充実、特に減免型奨学金の創設

※(2)奨学金制度の充実 ①実質的給付型奨学金制度の創設―卒業後に置賜三市五町内に就職し、地元に住住する者に貸与奨学金の返済を免除 ②女子学生修学支援枠を設け、住宅費負担を奨学金で支援

★二〇二〇年四月採用奨学生から新規の返還一部減免型及び女子学生住宅費支援の新枠を含む新制度による奨学生を募集（以後、毎年度）

★奨学生情報の整備及び返還手続きの容易化（自動振込方式の導入等）

## ○地域振興事業

自治体や地域の諸活動と連携・協働して、活力ある地域づくりに貢献します

### ●地域振興への貢献

## ◇表彰◇

教育・文化・産業等の分野で顕著な業績ある個人・団体・企業等の表彰、小・中・高校生のスポーツ・文化活動等で活躍した生徒の表彰、高等学校卒業生の表彰を通じて、地域社会の活性化に貢献します

★本部表彰と支部表彰の区分を無くして本部表彰に一本化（二〇一九年度から）

## ◇若人交流◇

若人交流の場を設け、意見発表や討論等、地域社会の全体で共に置賜の未来を探る機会を提供します

### ●若人交流と置賜定着の推進

※(3)魅力ある郷土づくりの若人対話―地域を担う生き方の選択を支援し、地域振興の自発的な意見発表の場を設ける。置賜の自治体・各種団体等との連携を重視 ①置賜地方高校生小論文コンテスト ②若人フォーラムの実施

★置賜地区高校生小論文コンテスト「地域と私たちの未来を考える」第一―三回実施（二〇一八年度から毎年）

## ◇文化活動◇

★若人フォーラム開催（二〇二〇年一月）  
文化講演会や文化大学等の活動を通じて、文化振興に貢献します。地域社会における文化諸活動との連携や協働を進めます

### ●文化活動の強化

※(4)米沢有為会の発信―米沢有為会創立百三十周年の歴史を掘り起こして発信 ①電子情報流通環境を活用してネット発信 ②会誌「創立百三十周年記念特集号」の発刊 ③置賜の図書館活動等と連携した展示会の開催 ④明治創刊の有為会誌類のデジタル化

★会誌「創立百三十周年記念特集号」の発刊

(二〇二〇年)

★市立米沢図書館との共催で「有為会百三十年の歩み」展を開催 (二〇二〇年六月)

★ホームページ内容更新と充実

☆インターネット百科事典ウィキペディアに独立項目

「米沢有為会」の掲載

☆戦前・戦後期の雑誌・会誌類等のデジタル化

#### ◆我妻榮記念館◆

民法学者・我妻榮先生の生家を記念館として維持し、大先達の偉業を伝えます

地域振興に資する教育・文化諸活動の拠点として、記念館を活かします

#### ●我妻榮記念館を文化活動の拠点に

★米沢市内小学五年生全員に我妻榮先生の功績紹介冊

子の配布再開 (二〇一九年度から)

☆長期計画のため、米沢市と共同で「我妻榮記念館将来計画検討会」開催 (二〇一八年度から)

### 創立百三十周年記念事業等

創立百三十周年の記念事業・募金活動を通じて、この活動ビジョンの実現を目指します

#### ○創立百三十周年記念式典等

#### ●記念式典・記念講演会・祝賀会

※別途に各支部主催の「祝賀行事」を各地で開催

★記念式典・記念講演会・祝賀会を開催 (二〇一九年六月二十二日、於：米沢)

★仙台支部 (六月一日) と東京支部 (六月二日) で記念講演会・祝賀会、北海道支部 (六月三十日) で祝賀会を開催

#### ○募金活動

(二〇二〇年三月末まで実施。協賛金応募御礼及び成果報告は本誌十八頁参照)

★法人等会員、個人会員、寄宿舎生OB (寄宿舎OB会と連携)、奨学生OB / OGの各対象別に協賛金募集に対する協力を依頼

#### ○会員増キャンペーン

(二〇二〇年三月末まで一区切り。以後も勧誘活動継続)

★「米沢有為会」案内 (創立百三十周年版) リーフレッツ作成

★会員向けに会員勧誘のお願い

★寄宿舎生OB (未入会者) 及び奨学生OB / OG (未入会者) 向けに会員勧誘 (寄宿舎OB会と連携)

★同郷会・同窓会との連携

★本部理事会メンバーへの働きかけ

★活動の成果として、二〇一九年度以降に合計五十九名及び一法人が新入会

## ○ 活動基盤の充実

### ～ 会員の交流と切磋琢磨を基盤に ～

#### □ 会員

- ・ 会員の増強（女性会員増を含む）
- ・ 同郷会・同窓会との連携
- ・ 舎生・奨学生 O B / O G 会員増
- 会員の増強と交流の活性化
- ★ 会員増キャンペーンの項の通り
- \* 新入会員増数を逝去や高齢による退会者数が上回る実態

#### □ 財務基盤

- ・ 財務基盤の強化
- ・ 寄付の促進（税優遇措置の活用等）
- 財務基盤の強化・寄付の促進
- ★ 貸与駐車場料金収入の見直し増（二〇一九年度から）
- ☆ 財務構造の把握と再構築

#### □ 支部活動

- ・ 会の活動の基本単位の強化
- ・ 会員交流の場としての活性化
- ・ 世代を超えた交流の場づくり
- ☆ 各支部の取組みとの相互連携強化

#### □ 会員交流

- ・ ホームページ上の交流増
- ・ 趣味を通じ交流の多様化
- ★ ホームページ上の「会員の広場」中に「寄稿広場」を新設、交流機会増
- ☆ ホームページを通じた交流の深化

#### □ 広報発信

- ・ ホームページの刷新拡充
- ・ 広報活動の強化
- ホームページによる発信の強化
- ☆ 内容の更新・充実を図ったが、引き続き充実して、ネット上の発信を重点に

#### □ 事務局

- ・ 本部事務局体制の整備
- 事務局体制の整備
- ★ 本部事務局担当理事を中心に事務局新体制を構築中
- ★ 事務機器の更新による事務効率化
- ★ 事務室に共有ファイル・サーバ設置して文書管理等。セキユリテイ管理しながら遠隔からの情報共有と事務効率化
- ★ リモート会議（ZOOM方式）の導入
- ☆ 特に東京支部の事務体制との協力・分担の明確化
- ☆ 事務マニユアル化の推進

## 地域未来を拓く

### 若人フォーラムin置賜

本会創立百三十周年記念イベントの最後を飾る「地域未来を拓く若人フォーラムin置賜」が令和二年一月十一日（土）、米沢市市民文化会館と文化複合施設ナセBA市民ギャラリーで開催されました。

このフォーラムは、「あなたの力で置賜の豊かな未来を探ろう!!」をテーマに、ステージ発表とパネル（ポスター）展示で構成されました。

ステージ発表では第一部「置賜若人と高校生によるパネルディスカッション」と第二部「地域と係わる探求型学習成果発表会」が行われました。

オープニングセレモニーで挨拶に立った種村信次実行委員長は「本会の百三十周年記念活動ビジョンに掲げているように、①未来を担う置賜の若人の夢を育英事業で支援すること②置賜の教育・文化・産業等の振興に貢献することの二つの目標の下、活力ある地域振興に貢献

実行委員長挨拶



コーディネーター



若人5名によるパネルディスカッション

していきたい。少子高齢化と人口減少、経済成長鈍化の中で人を育てることは極めて重要で、先が見えないニーズに応えるための発想力や思考力がますます求められている。

今後十年間の人口減少への危機意識の共有や、若者流出に歯止めをかける方策、地方産業の先進高度化推進、歴史や文化をまちづくりに生かす方策を考えるとき、若者が地元で活躍したいと思う地域づくりを進めることができるのではないか。今回のフォーラムがその一助になれば幸いです」と趣旨を述べました。

### パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「若人交流：置賜地域の活力ある未来を目指して」をテーマに、コーディネーターを務めた山形大学大学院有機材料システム研究科卓越研究教授の城戸淳二氏の下で、二人の若人と三人の高校生がパネリストとして参加し、①高校生に期待すること②置賜の魅力③置賜の課題④置賜の若者は何をすべきか⑤大人に何をしてほしいかについて、それぞれの考えを発表しました。

三名の高校生（米沢中央高・長澤亜実さん、南陽高・影山南央さん、長井高・二瓶倭花那さん）は、第二回小

論文コンテストで優秀な成績を収めた代表として、県外への就職や進学による若者流出（人口減少）を身近に感じるが、置賜の魅力を再発見し、地元に残って貢献したい人達への施策に取り組んでほしいと熱心に訴えました。これに応えて二人の若人（NPO法人地域生活支援協会・鈴木大士氏、米沢市役所米沢ブランド戦略課・佐藤功児氏）は、米沢商工会議所青年部の仲間と様々な発想で仕事をしながら米沢の魅力で大規模に発信したり、人口減少を抑制するため米沢ブランド戦略事業に誇りを持って取り組んでいこうとしている、と述べました。

### 地域と係わる探求型学習成果発表会

学習成果発表会では、米沢商業高校、米沢東高校、九里学園高校、米沢興譲館高校、米沢工業高校、置賜農業高校の六校がそれぞれ独自のタイトルの下、日頃の研究と実践を重ねた、思考力・判断力・表現力を養う探求型学習成果を発表しました。

### 地域と係わる探求型学習成果パネル（ポスター）展示

また、ナセBA市民ギャラリーでは、十九日（日）まで探求型学習成果パネル（ポスター）展示が行われ、置賜地区内十三の県立及び私立高校と米沢市内三つの中学校が、特色ある成果を披露しました。

地域未来を拓く若人フォーラム in 置賜

# あなたの力で 置賜の豊かな未来を探ろう!!

【ステージ発表】

日時 令和2年1月11日(土)12:30~16:20

会場 米沢市市民文化会館

趣旨

バブル経済が崩壊した後、長く停滞の時代が続き、加えて少子高齢化と人口減少の影響が表面化する中で、膨大な赤字国債とマイナス金利に依存し続けている。やがて経験しない人口減少が巻き起こすであろう社会の大きな変化が懸念される。この置賜地域にあっても、これから急速に少子高齢化が進み、約21万人の地域人口は2040年には約15万人、高齢化率も41%に達すると言われている。

このような状況の中で、自らの生き方をしっかりと考え地域に残る、あるいは将来地域に戻り郷土を担うことを選択肢とするような人財育成が求められる。

本フォーラムのパネルディスカッションでは、高校生をはじめとする若人が地域未来に関して公開討論することを通して地域の可能性に関心を持ち、あるいは将来地域を担いたいと考える若者の育成に寄与したいと考えている。

タイムスケジュール

12:30-12:40 … オープニングセレモニー 趣旨説明 実行委員長 種村 信次

12:50-14:00 …

## I部 置賜若人と高校生によるパネルディスカッション

テーマ 「若人交流…置賜地域の活力ある未来を目指して」

コーディネーター 山形大学大学院 有機材料システム研究科 卓越研究教授 城戸 淳二氏

パネリスト(6名)

米沢中央高等学校2年	◇ 長 澤 亜 実 さん
県立小国高等学校2年	舟 山 未 羽 さん
県立南陽高等学校2年	○ 影 山 南 央 さん
県立長井高等学校2年	○ 二 瓶 優 花 那 さん
NPO法人地域生活支援協会	○ 鈴 木 大 士 さん
米沢市役所米沢ブランド戦略課	○ 佐 藤 功 児 さん

14:00-14:15 … 休 憩

14:15-16:00 …

## II部 地域と係わる探究型学習成果発表会

変わる高校教育「探究型学習とは？」がわかります

16:00-16:15 … 講 評 城戸 淳二氏

16:20 … 閉 会

## [ 展 示 ] 地域と係わる探究型学習成果パネル(ポスター)展示

置賜地区全域の高等学校の特色ある教育がここでわかります  
米沢市内中学校の魅力的な探究型学習も展示されます

日時 令和2年1月11日(土)～19日(日) 会場 ナセBA市民ギャラリー

若人フォーラム探究型学習ポスター、パネル展示一覧

	参加校	展示パネル、ポスターの内容
1	山形県立 米沢興譲館高校	展示するポスタータイトルは次の通りです。様々な研究領域から地域の課題解決の糸口を見つけようと試みています。 「商品開発による地域振興計画」、「住みよさから見る地域活性化条例」、「既存製品を用いた米沢活性化計画」、「米沢の経済を担う」、「山形県庄内地方、小国地方、内陸地方の方言の相違についての探究」、「リーディングスキルテストからみる学習意識と読解力の関係性」、「高校生の“ワクワク”を向上させる授業形態」、「ウコギの苦味とポリフェノールの相関関係」、「玉庭丘陵の過去を探り、成島丘陵との関連性を突き止める」、「デロビブリオ属細菌を活用した無農薬野菜の可能性」、「ユニバーサルな飲料用缶を」
2	山形県立 米沢東高校	課題探究学習i-Seeプロジェクトや授業で取り組んでいる研究です。テーマは、「地域に育まれた伝統芸能をいかに継承すべきか」、「ユニバーサルなまちづくりをめざして」、「図書館を中心にした地域活性化」です。
3	山形県立 米沢工業高校	学校紹介および機械生産類、電気情報類、建設環境類での取り組みや歴史についての紹介、各類での課題研究における研究成果を発表します。
4	山形県立 米沢商業高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●米沢青年会議所と提携した新しい音楽イベント[YONEROCK]の企画と、今後の運営等について、資料にまとめて紹介します。</li> <li>●「山形日和。」1day trip+コンテストの最優秀旅行企画を活用した台湾におけるプロモーション活動について、資料にまとめて紹介します。</li> <li>●「家庭研究部」の活動の一環として料理コンテストにチャレンジしてきました。応募したレシピの紹介です。</li> </ul>
5	山形県立 置賜農業高校	プロジェクト(探究型)学習で取り組んでいる「豆ガールズの活動」「畜産(乳牛)の研究」「高品質シクラメン栽培の研究」「空気浄化スーパー植物(ニオイ木)の研究」「ダリアのウイルスフリー化による高品質生産の研究」について紹介します。
6	山形県立 南陽高校	<ol style="list-style-type: none"> <li>①南陽高校の学校紹介パンフレット「2020 NANYO HIGH SCHOOL GUIDE」です。</li> <li>②10年後の魅力と未来を追究した「南陽未来新聞」(南陽市SUMMER IDEA CAMPで作成)を紹介します。</li> </ol>
7	山形県立 高島高校	<ol style="list-style-type: none"> <li>①1年次「産業社会と人間」における探究活動成果。グループごと様々な地域学習を通して気づいた地域の課題を設定し、調査を行いました。</li> <li>②3年次課題研究。個人研究で、自分でテーマを設定し、探究活動を行った成果を発表します。</li> </ol>

	参加校	展示パネル、ポスターの内容
8	山形県立 長井高校	山形県探究型学習課題研究発表会に出場した、2年次探究コースと一般コースの7つの班による研究ポスターです。それぞれの発表タイトルは、①「やさしさの度数EQチェック」、②「Motivation UP!」、③「みんなが幸せになるメディアの使い方をしよう」、④「コミュニケーション手段の変遷と私たちの関わり」、⑤「風洞実験装置の自主製作」、⑥「エナジードリンクの効果」、⑦「部活動改革と学習の関係」です。 研究ポスターだけでなく、補助資料（データや調査で使った物品など）も机上に展示しますので合わせてご覧ください。
9	山形県立 長井工業高校	本校では、各科から選抜された優秀な研究活動を、全校生を対象にプレゼンする課題研究発表会を実施し、まとめる力や課題解決力を養っています。その発表ポスター、及び地域と密着した本校教育活動を紹介するポスターを展示します。
10	山形県立 荒砥高校	●学校紹介 ●小規模校サミットに参加して ●2年次就業体験について ●家庭クラブ ①取り組み紹介 ②身につけよう取組力～効率よい調理技術と作業導線～ ●保健委員会 ①ゲートウェイドラッグ ②市販薬乱用 ③身近に潜む薬物 ④きれいな空気で健康白鷹
11	山形県立 小国高校	私たちは地域に浸りながら、「挑め、ともに!」をモットーに楽しく実践的な探究活動をしています。「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の「白い森未来探究学」では、1年生が小国町探検について報告書にまとめ、町内に折込配布しました。その他に、山形県探究型学習課題研究発表会で入賞した「小国町に全国の高校生を呼んでみたら、あれもこれも自分事になって、やる気が湧いて地域との活動が72に増えた件」や、保健環境委員会の「QOS（クオリティ・オブ ▶ 掃除）」などの個性溢れるポスターをご紹介します。
12	私立 九里学園高校	●地域との協働による高等学校教育改革推進事業学校プロジェクト取り組みについて ●(1年)「食と健康」「多文化共生」「子どもの貧困」について ●(2年)「フェアトレードと倫理的消費について」
13	私立 米沢中央高校	●学校紹介(本気の中央)…1枚 ●環境問題…3枚 ・全校課題学習「地球温暖化とごみ問題」…2枚 ・グループ課題学習「地球温暖化について身近なものから考えてみよう」…1枚 ●数学課題研究 グループ活動より「ドラえもんの秘密」…2枚
14	米沢市立 第一中学校	米沢一中の1学年では、9月に米沢めぐりと題して米沢の史跡や観光名所をグループごとに訪問し、米沢名物を食す学年行事を行いました。その際に興味を持った米沢の歴史、食文化、観光などについて一人一人課題を設定し、調べ学習を行い、ポスターにまとめました。
15	米沢市立 第三中学校	1年生の総合学習で「地域に学ぶ活動」を通して取り組んだ「やってみ隊」「米沢めぐり」「中学生デザイン選手権」等成果をポスター5枚にまとめました
16	米沢市立 第七中学校	本校は「生きる」～今、そして未来の自分を輝かせるため～をテーマに総合的な学習に取り組んでいます。一学年では、「米沢学」に取り組みました。私たちが暮らす米沢（上郷・万世地区）の自然・歴史・企業などを学習したことのみをまとめた「個人新聞」を展示します。

## 主催：公益社団法人 米沢有為会

共催：置賜地区高等学校校長会、米沢市教育委員会

後援：置賜総合開発協議会、米沢商工会議所、学園都市推進協議会、米沢・置賜経済人クラブ、公益財団法人米沢上杉文化振興財団  
公益財団法人近野教育振興会、米沢信用金庫、山形新聞・山形放送、米澤新聞社、兼二ニューメディア

## [ステージ発表]

<b>1</b>	<b>山形県立米沢商業高校</b>	<b>タイトル: 持続可能な地域活性化活動を目指して</b>
発表者	井上 朝 安部 紗弥香 熊谷 望 平山 ことみ	発表概要 米沢市には「籠山りんご」がありますが、毎年「色つや」が悪いとか、傷があるなどの理由で廃棄される「規格外」が出ます。その規格外品のりんごを使った商品を開発し、それを籠山りんごのPRに活用する活動に取り組みました。そうして出来上がった商品が「りんごちゃだレッシング」という商品です。このドレッシング開発まで、商品完成まで、完成後の流通などについて一連の流れを紹介したいと思います。
<b>2</b>	<b>山形県立米沢東高校</b>	<b>タイトル: 食品庫の危険なカビをやっつけろ!! ～家族の健康を守る～</b>
発表者	佐藤 希 酒井 那奈 内藤 咲瑛	発表概要 猛暑の影響で食品庫の壁に黒カビ発生。家族の健康を守るため、除去対策に取り組みました。「マゼルナキケン」の表示を参考に、科学的に効果を比較検討し、カビが発生しにくい環境づくりを探究しました。
<b>3</b>	<b>九里学園高校</b>	<b>タイトル: オーガニック食品で地球を救う</b>
発表者	高橋 蒼	発表概要 オーガニック食品を流通させることにより、地球環境問題を解決する糸口をつかむことができるかを考えます。宮城県のアナログレストランやフィリピン、ハワイ等での現地調査を通し、食品流通の具体的な方法を提案します。
<b>4</b>	<b>山形県立米沢興譲館高校</b>	<b>タイトル: 商品開発による地域振興計画</b>
発表者	遠藤 理央 黒金 創一朗 黒田 陽史 鈴木 詩織	発表概要 平和通商店街の活性化をはかるため以前から交流のあった新潟県立国際情報高校とともに、商品開発及び企画の構想を行いました。原価も店に直接出向いたり、電話で聞き取りました。また、道の駅で観光客向けに行ったアンケートの結果から、具体的な商品として両市の特産品を用いた牛丼、アイス(アイス)、鯉丼(恋丼)、ます鯉丼(must恋丼)を考案しました。
<b>5</b>	<b>山形県立米沢工業高校</b>	<b>タイトル: 「コトづくりからモノづくり」の学習をベースとした「ヒトづくり」学習</b>
発表者	我妻 花音 我孫子 みなみ	発表概要 「コトづくりからモノづくり」までを学ぶ生産デザインコースにおいて、デザイン思考を活用した探究的学習をベースに、工業高校ならではのモノづくり、そして、校外活動[EDGE-NEXT(アントレプレナー教育基礎編)・イノベーションキャンパス<山形大学国際事業化研究センター主催>、デザイン選手権<東北芸術工科大>、米沢市まちづくりプランコンテスト<米沢市教育委員会>、Maker FaireTOKYO2019<藤原ライリー・ジャパン>、小中学校への出前講座など]を通して学んだことを発表します。
<b>6</b>	<b>山形県立置賜農業高校</b>	<b>タイトル: 置賜農業高校のプロジェクト学習(探究学習)紹介</b>
発表者	安部 貴音 小川 真奈 井上 桜良 菊地 日和 井上 千華 金王 美紀 志田 亜美花	発表概要 グリアのウイルス病対策による高品質栽培に関する研究と多彩なプロジェクト学習(探究学習)を紹介します。



加藤晴一	加藤公清	勝見正弘	片倉和之	小野野達	小野野庄	小野野信	沖津浩子	岡部泰弘	小形剛弘	小形昌彦	岡田彰伸	岡崎隆樹	大野康之	大友久太郎	大友良治	大武清夫	大瀧達朗	太田建設	太田ひろみ	大関修敬	大久保邦正
菊池彰	神野民夫	菅野修一	神尾良範	川島信一	川崎史郎	川越陽一	川井博	亀岡正和	上村勘二	上村秀夫	鹿股隆樹	金子尚人	(金子建設工業)	金子正美	金子他喜男	金子善次郎	加藤義彦	加藤雄吉	加藤正憲	加藤富士雄	
小出道博	下條友次	下條泰生	下條邦彦	黒田由美子	黒田由美	黒田正隆	栗原裕俊	倉田和子	熊谷芳浩	工藤重芳	榑田幸弘	くさかり小兒科	日下部道雄	金藤泰伸	桐生三郎	木村品子	木村英司	北村清彦	岸順一	菊地広志	菊地隆雄
小森力雄	小松浩繁	小松繁洋	小林洋一	小(株)後藤雄	後藤藤穂	後藤弘仁	後藤健夫	後藤志郎	後藤謙三	後藤喜一	後藤一男	後藤治	後藤敦	小(株)小嶋健本店	小嶋伸一	小嶋邦浩	小嶋久橘	小嶋和雄			
坂本温子	寒河江忠篤	寒河江幸平	寒河江晃	酒井龍太	酒井彰彰	斎藤誠久	斎藤忠男	斎藤勲助	斎藤榮功	西條洋一	紺野洋一	近野正将	近野耕	紺野久左門	近野郁子	今田恒夫	小山猪之助	小谷野泰			
佐藤啓	佐藤久	佐藤憲	佐藤哲	佐藤鐵藏	佐藤毅舟	佐藤政一	佐藤陸三	佐藤俊治	佐藤孝繁	佐藤孝市	佐藤憲一	佐藤彦	佐藤文彦	佐々木英辰	佐々木辰彦	笹木邦明	櫻井泰之	桜井通義	佐久間敬一		

須貝英雄	白石英也	庄司芳彦	島貫壽雄	嶋貫昭雄	嶋津義史	島津博徳	島津眞一	洪谷崇夫	篠宮雅夫	篠原守信	地主憲一郎	塩田広元	山宮光	澤田美根子	(佐野隆一)	医療法人さの医院	佐藤好明	佐藤富士雄	佐藤広明	
高井良尋	平晋策	平昭男	曾根伸之	仙台環境科学(株)	関口眞博	関野紀正	清野誠一	須藤良平	鈴木睦夫	鈴木正弘	鈴木正明	鈴木修治	鈴木哲史	鈴木幸一	鈴木啓一	鈴木幹司	鈴木和美	須崎登志		
田林眺一	田中クリック	竹屋孝志	竹股理志	武田篤祐	瀧澤良新	瀧口政彦	高山征一	高橋胃腸科外科医院	高橋義洋	高橋善彦	高橋幸紀	高橋朋也	高橋節子	高橋源五郎	高橋栄二	高野茂徳	高田和壽	高瀬勝		
仁科英義	仁澤盛之	西方常蔵	西條医正	中島正臣	長澤健一	内藤文徳	富所謙一	戸田直博	(武田誠一郎)	東北警備保障(株)	東北オフィスマシン(株)	東亜熱研工業(株)	手塚宮雄	手塚正修	手塚修	(株)データシステム米沢	(株)堤商店	塚田昌伸	丹野久	
樋口正宏	樋口孝隆	引地和彦	半田邦雄	原常雄	林里子	林慎一	花角利信	長谷部英吾	長谷部千秋	長谷川智治	長谷川憲二	長谷川啓二	羽隅弘宣	羽賀秀一	ハイメカ(株)	野呂圭司	(株)田村邦夫	西山雅俊	西村純	
(株)本多興産	(株)本多建設	本田勝夫	本田貞彦	本田和弘	舟山豊弘	船山敏昭	船山隆寿	船山秀潤	船山国夫	船山完一	船山現人	舟壽	藤波康雄	藤田智次郎	藤田浩一朗	藤倉禎志	福島恵美子	樋渡三保子	廣瀬純	平山和博

本間達三	本間浩二	本間雄二	眞島秀和	町田富保	松井国彦	松岸潔	松寄正芳	松村孝義	松本耕輔	松本則夫	丸山百合子	水野崇	三井修	三原信義	宮崎努	宮島吉亮	深山昭子	宮森昭茂	向田吉広	村上房男	村上晃一	村正運輸(株)
村山晃也	村山浩和	(株)村山商工	元木翠	森田光雄	安田道隆	柳原寿男	(株)山形新聞社	米沢支社	八卷功	山木勇一郎	山岸仁	山口孝太朗	山口昇一	山口尚	山口由藏	山口公彦	山田興司	山田善一	山田隆弘	山田幸生	山本優美子	横井博
横戸隆	吉田健一	(株)米沢牛黄木	米沢市金融団	金曜会	(株)米澤新聞社	米野宗禎	我妻光敏	我妻秀彰	我妻文夫	我妻律子	(株)我妻組	我妻建設工業(株)	若松工業(株)	和田彰造	和田昭	渡部時裕	渡部浩之	渡辺光子	☆匿名 25名			

「創立百三十周年記念事業協賛金」

募金ご協力のお礼

公益社団法人 米沢有為会 会長 大滝 則忠

募金活動実行委員会 委員 長 平山 英三

支部募金活動責任者 東京支部 鈴木 信之

米沢支部 種村 信次

仙台支部 甲 國信

北海道支部 田村 邦夫

米沢有為会の創立百三十周年記念事業に係る協賛金の募集に応じて、会員並びに興譲館寄宿舎及び奨学生のOB・OGをはじめ、多くの皆様から多額のご応募をいただきました。心から感謝申し上げます。

ご寄付金は、募集趣意書で申し上げたとおり、育英事業を中心とする記念事業に用いさせていただきます。その実施状況については、各事業の進捗報告をご覧いただきたく、お願いいたします。

応募者数 四五二名

応募総額 一六九四万〇八五〇円

# 本部活動報告

## 定時総会及び付帯催事に関する報告

### 一．定時総会（第七回、通算一三三回）の報告

公益社団法人米沢有為会の第七回（通算一三三回）定時総会は、令和二年六月二十七日（土）十三時半より、東京興譲館（東京都調布市）にて開催されました。

このたびは、新型コロナウイルス感染症予防のため、例年の米沢ではなく、東京において、関連役員など最低限の出席のもとに、会員は書面による議決権行使で参加する方式で開催しました。この旨は、総会議案書（『公益社団法人米沢有為会会報』第十八号に掲載）の事前送付の際に周知して、各位のご協力をいただきました。

総会は、定款第十七条の規定により、大滝則忠会長が議長となつて開会、はじめに五雲寺卓事務局担当理事より、正会員現在数二六四名のうち、当日出席（九名）及び議決権行使書提出の合計一六五名、議決権行使書の無効は無く、従つて有効出席者数の割合六二・五％が報告されました。これを受けて、議長が定款第十九条の規定による総会決議を行うための定足数の充足を確認し、議事録作成を事務局に指示して、議事に入りました。

#### 第一号議案 令和元年度事業・業務報告（報告案件）

議案書記載の「令和元年度事業・業務報告」について加藤国雄総務部長より報告があり、異議なく承認されました。

#### 第二号議案 令和元年度決算及び監査報告（決議案件）

議案書記載の「令和元年度決算報告」に沿つて鈴木信之財務担当理事より貸借対照表、損益計算書及び同明細書並びに財産目録の説明があつた後、伊藤秀太郎監事より監査報告があり、採決の結果、全会一致で承認されました。

#### 第三号議案 令和二年度事業・業務計画（報告案件）

議案書記載の「令和二年度事業・業務計画」について加藤国雄総務部長より説明があり、異議なく承認されました。

#### 第四号議案 令和二年度予算（報告案件）

議案書記載の「令和二年度正味財産増減予算書」について鈴木信之財務担当理事より説明があり、異議なく承認されました。

#### 第五号議案 理事及び監事選任の件（決議案件）

議案書記載の理事及び監事の候補者について平山英三副会長から説明があり、それぞれ採決の結果、全会一致で承認されました。各任期は、退任する前任者の任期残余期間で令和三年六月まで。

○理事 新任 菅野 憲幸（退任武田篤理事の後任）

本会監事。元日本出版販売(株)勤務。元アマミューズソフト販売(株)社長。東京興譲館OB。東京支部。高島町出身

○監事 新任 片平 善造（退任菅野憲幸理事の後任）

本会諮問委員。元野村証券投資信託委託（現野村アセツトマネジメント）(株)勤務。東京支部。米沢市出身

#### 第六号議案 相談役推挙（承認案件）

議案書記載の候補者について平山英三副会長から説明があり、採決の結果、承認されました。

○相談役 新任 米野 宗禎

元本会理事。東京支部長。文化大学長。現文化大学名誉学長。東京支部。川西町出身

以上により、議長は、総会の議事は終了した旨を述べて閉会しました。恒例の総会後の記念講演会及び懇親会は行いませんでした。なお、産業功労者・特別顕彰の表彰式は次掲のとおり別途、米沢にて行われました。

#### 二、功労者、特別顕彰表彰式

今年の産業功労者、特別検証の表彰伝達式が七月二日（木）米沢市の伝国の杜で行われ、中川勝米沢支部長から賞状と記念品が授与されました。

今年度は一個人に産業功労賞、六個人に特別賞（優秀賞二名、奨励賞四名）が贈られました。この日は平日のため表彰伝達式への受賞者の出席は産業功労者の吉野徹氏のみとなり、六名の小中高生は出席できませんでした。なお、教育文化功労者は該当者がいませんでした。

（以下、学校・学年は令和元年度のものです。）

#### ○産業功労者（個人）

▼吉野 徹氏

平成元年九月、米沢商工会議所議員就任。平成十年九月、常議員就任。平成十六年十一月から三期九年間、副会頭就任。平成二十五年十一月会頭に就任（二期六年間）。米沢商工会議所の運営及び地域経済の発展に大きく貢献された。会頭退任後は、常任顧問として、現在も様々な面で指導的役割を担っている。

会頭就任後は、商工会議所事業の根幹である会員事業所の経営力向上に主眼をおき、山形県では第一号の認定となった「経営発達支援事業」を活用し、会員事業所の

経営課題解決に向けて伴走型支援を強化した。

地域振興においては、米沢栄養大学の開学、長年の悲願であった東北中央自動車道米沢北IC～大笹生IC間の開通、道の駅よねざわの開業など、当地域の発展に資する課題に長年にわたり取り組み、活性化に大きく寄与した。また、米沢市の委託事業「人材確保・定着促進事業」では新卒者の就職マッチングから人材育成・定着まで一貫した支援を行ったほか、無料職業紹介事業（厚生労働大臣認可）を開始し、地域産業の活力維持・向上に努めた。また、商店街活性化策、インバウンドや広域連携を軸とした観光振興策、有機ELのブランド化などにおいて地域の活力強化に取り組んだ。

### ○特別表彰 スポーツ活動

〈優秀賞〉（個人）

▼紺野 稜真さん（白鷹町白鷹中学校三年）

【陸上】 第四十六回全日本中学校陸上選手権大会 共通男子四種競技 優勝

第四十六回全日本中学校陸上選手権大会 共通男子百十mH 準優勝

〈奨励賞〉（個人）

▼菊地 哲さん（九里学園高等学校三年）

【スキー】 二〇一九・二〇二〇年度全日本スキー連盟が主催する日本代表（カテゴリー「U-20」）に選出

将来クロスカントリーのオリンピック代表候補

令和二年二月十八日国民体育大会クロスカンローリ競技少年男子の部 第二位

▼設楽 奏太さん（米沢市立六郷小学校三年）

平成三十一年三月二十四日第十三回全国小学生アルペンスキー大会小学二年生男子 二位

令和元年度特別顕彰スポーツ奨励賞受賞

▼関川 結斗さん（長井市立長井北中学校三年）

【ソフトテニス】 第三十回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会団体第三位、シングルス第三位

### ○特別表彰 文化活動

〈優秀賞〉（個人）

▼小柏 蒼太さん（米沢市立北部小学校五年）

【感想文】 令和元年度第十四回「ごはん・お米とわたし」作文「最優秀賞」受賞

〈奨励賞〉（個人）

▼青木 舞桂さん（米沢市立北部小学校三年）

【作文】 令和元年度第四十四回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール「文部科学大臣賞」受賞

### 三、新型コロナウイルス禍への対応

本年（令和二年）に入り、中国・武漢市に始まる新型コロナウイルスの感染は、全世界に蔓延し、わが国も二月、クルーズ船での集団感染、イベント自粛要請、全国学校の休校要請、三月には東京五輪延期、東京都での週末外出自粛要請、山形県での初感染、四月全国に緊急事態宣言と推移しました。感染者数は四月をピークに一旦減少しましたが、八月には再びピークを迎え、その後一進一退で十一月から急増に転じました。

このような中、当会の活動でも感染防止対策が求められ、本会誌でも各報告でふれていますが、この場で本部、各支部などで取った対応をまとめておきます。

#### 1. 本部活動

##### (1) 理事会

令和二年一月の令和元年度第六回理事会は、従来通り集会方式で実施したが、三月の第七回理事会は新年度事業計画・予算は電子メール方式で決議した。それ以外の議題は、第八回理事会として無理のない参加での集会方式での三月二十九日開催を目指したが、コロナ禍により延期した。令和二年度に入り、二回の理事会は、議長より電子メールで議題を理事・監事へ発信し、質疑応答を

経て決議する方式で開催し、その後の二回の理事会はリモート会議方式（Zoom利用）で開催している。

##### (2) 定時総会

六月二十七日（土）、書面による議決権行使による参加を求め、必要最低限の参加者により東京興譲館での開催（従来は米沢で開催）。例年同時開催する講演会、教育・産業功労者表彰式は延期された。

##### (3) 諮問委員会

例年の集会方式は行わず五月二十日までに、郵送、電子メールまたはFAXにて意見を寄せていただいた。

##### (4) その他

委員会活動などでもリモート（Zoom）会議を採用した。

#### 2. 東京支部

支部総会は、書面にて開催した。例年同時開催の懇親会・新入寮生歓迎会は中止した。理事会は未開催。

・例年十一月実施の園遊会は中止。二月の新年会は未定。  
・本部と共催の文化講演会は当分の間、休止。

#### 3. 米沢支部（米沢で開催の本部活動を含む）

(1) 理事会・支部総会は書面にて開催した。

(2) 高校生小論文コンテスト

実行委員会は、メールや書面にて開催。審査委員会は、

感染防止に注意を払いながら、三回開催。表彰式は、感染防止に注意を払いながら開催し、米沢支部長から伝達していただいた。

### (3) 教育・産業功労者表彰

米沢支部教育部員、産業部員からそれぞれの部長に被表彰者の選考について一任を取り付け選考し、選考結果を米沢支部副支部長に報告、米沢支部長から本部へ上申・決定後、伝達式として七月二日(木)伝国の社会議室において、正副支部長、常務理事、支部総務部長、事務局立ち合いのもと開催した。なお、特別顕彰者には郵送にて伝達した。

### (4) 支部独自事業

感染防止に留意しながら左記にて開催または予定。

- ①支部講演会と交流芋煮会は中止
- ②交流新年会は開催未定
- ③副支部長会議は、二回開催、今後一〜二回開催予定
- ④支部運営会議(副支部長・各正副部長・常務・事務局)一回開催
- ⑤文化広報部会は、一回開催し今後一〜二回開催予定
- ⑥教育部会は、高校生表彰の件で今後一回開催予定

## 4. 仙台支部

理事会・委員会は、四月以来、集会方式の会議の代わりに、メールやファックスを用いて資料を送り、意見を

求めている。定時総会(講演会、懇親会を含む)は中止。支部行事(火花鑑賞会、芋煮会)は中止。

## 5. 東京興譲館

・コロナ感染防止対策 四月に入って、寮内に注意喚起を掲示。「お互いコロナ感染源にならないために!」「持ち込まない、移さない、お互い気づかう」「自分の身は自分で守ろう」「外出時のマスク着用」「手洗いとうがい」の励行」「食堂では、席を離れ、時間差で食事」「対話は、離れてorマスク着用で」「寮内や街での仲間との飲酒の自粛」「来泊や外泊の自粛」等を促した。舎生会では、出来るだけマスクの着用を勧めている。一方、コロナ感染者が出た場合の対応マニュアルを作成した。

現在は、対面式の授業が再開され、実家でオンラインの講義を受けていた学生も寮に戻りつつある。全国的な感染者増の傾向のもとで、気を緩めないように注意喚起をしている

・寮生への支援 寮生を様々に気遣っていただき、会員、寮生OB、寮生実家ははじめ、多くの方々から多様な支援を頂戴している。非常事態宣言で寮生全員が寮内で食事して米の消費量が急増した際、寮生OBからの多量の米の差し入れ等々、個別のご芳名は挙げないが、寮生からの感謝の声と共に、心から御礼申し上げる。本部か

らは寄宿舎OB会と共同でマスクやカップ麺を差し入れ、米沢支部には消毒液を手配していただいた。

## 6. 仙台興讓館

四月始め寮生一名が発熱したときは、寮母と医療系学生の寮長が対応し、支部理事の医師の助言を受けて様子を見たが、幸い翌日には平熱にもどり、それ以降は寮生の発熱の報告はない。会長からの要請を受けて、体温計（非接触を含む）、消毒液、石鹸を備え、館長が掲示を出し注意を促している。半年近く寮母が不在で、寮生の栄養不足からの体力低下を心配したが、寮生は何とか乗り切って無事に新寮母を迎えることができた。なお、有為会本部と支部会員有志からのマスクや食料品の差し入れに感謝する。

## 7. 我妻榮記念館

- ・三月、十月に予定していた運営委員会の中止
- ・令和二年四月五日（日）から六月十七日（水）まで休館
- ・玄関前に「マスク着用」「手指消毒」お願いの表示
- ・玄関に手指消毒液を設置
- ・換気の徹底
- ・見学者退館後に「逆性石鹼」でテーブル、手すり等を消毒清掃

## 8. 事務局

- ・東京及び仙台興讓館長に対し、コロナ注意喚起を事務局から要請（四月一日）
- ・「新型コロナウイルスに伴う興讓館寮生への注意喚起について（依頼）」メール
- ・リモート会議の立ち上げと有為会全役員端末の環境設定を実施

（参考）百年前のスペイン風邪（『米澤有為会雑誌』より）  
・第一波（一九一八（大正七）年八月～一九一九年七月、感染者二一七万人）

仙台寄宿舎では、二、三人に症状があったが、幸い感染には至らなかった。（第二九〇号、一九一九年二月）  
・第二三波（一九一九年八月～一九二一年七月、感染者二六三万人）

東京寄宿舎では、十二名の患者が発生したが、ある寮生の義兄による予防接種により、その後は感染者なし。（二一九九号、一九二〇年一月）  
仙台寄宿舎では、二名の入院者を出したが、一週間で退院した。その後、ボート選手・監督の舎生が大病院に入院中、経過は良好。（三〇〇号、一九二〇年三月）

## ◎本部各部門の主要活動報告

### ○総務部

昨年度の創立百三十周年関連行事を経て、今年度は平常業務に戻りますが、本年に入っでのコロナ禍により感染防止への対応が求められています。

### 定時総会開催と関連行事の中止

例年米沢で開催する定時総会及び関連行事は、書面による議決権行使による参加とし、必要最低限の参加者により東京興譲館で六月二十七日開催しました。

### 諮問委員会の開催

例年の集会方式とせず、理事会がまとめた「最近の活動状況」報告を送付し、五月二十日までに次の分野のご意見をいただきました。

- ① 当会運営に関して
  - ・ 会員増強について
  - ・ 財務基盤について
  - ・ 危機管理（地震など大災害への備え）
  - ・ IT活用
- ② 当会事業に関して
  - ・ 奨学金制度運営
  - ・ 学生寮経営
  - ・ 運営

### 理事会のリモート開催

三月令和元年度第七回理事会より、電子メールを活用した審議方式を採用しましたが、十月より東京・米沢・仙台の全理事・監事を結ぶZOOMによるリモート会議方式としました。

### 委員会活動

昨年度より引続き、次の委員会を継続し、適宜リモート会議を採用しております。

- ① 学生寮基本問題委員会  
女子学生受入れや学生寮運営に関する基本問題を検討しています。
- ② 奨学金制度検討委員会  
奨学金制度や財務面の基本問題を検討しています。
- ③ 学生寮改修委員会  
創立百三十周年記念事業として、特に東京興譲館の改修工事の計画・実施を推進しています。

### 事務局業務基盤の整備

- ① 事務局情報ネットワーク基盤（含む東京興譲館）の構築

従来本部署と寮の二本の光回線を引いていますが、一本化しコストダウンを図ると共に、新設の共通サーバーで情報管理を一元化するシステムを構築しました。これにより当会のテレワーク環境を整備しました。

## ② 情報共有基盤の整備

事務局に新たに共通サーバー（名称…アールリット）を導入し、米沢有為会の各種資料やデータを格納して、会員が自由にアクセスできる情報共有基盤を整備しました。

## ③ リモート会議基盤の整備（ZOOM導入）

コロナ禍の影響で各種集会が中止される状況を改善するため、世の中の動きに習い、当会においてもZOOMを用いたりリモート会議実施のための基盤整備を行いました。

## ○育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集について、例年実施している地元高校の保護者・生徒への説明会は、コロナ禍の影響により、

米沢興譲館高校一校のみで、感染防止のために二日に分けて応募担当理事が説明に当たりました。また、PRに活用する「米沢有為会だより号外」のパンフレットを今年度からカラー版で作成し、保護者や生徒により印象に残るようにしました。それを説明会で利用し、その他の学校には送付して広報に努めました。

令和二年度採用の奨学金貸与生は「奨学生だより」に掲載し、学生寮入寮生選考結果は別表1のとおりです。

## 奨学金貸与生選考の報告と課題

奨学金制度の質的向上を目指し、創立百三十周年活動ビジョンに掲げた新奨学金制度を令和二年四月採用の奨学生募集から実施しました。その新制度の要点は、男女共同活躍社会の実現を後押しするために貸費型の「女子向け住居費補助奨学金」（Ⅰ型）、また、学業を終え郷土に就職して郷土置賜を担う人材の育成を目指す減免型の「地元若者定着奨学金」（Ⅱ型）を新たに創設し、従来の貸費型の「一般貸費奨学金」（Ⅲ型）と共に、より充実した奨学金制度で育英事業を進めることになりました。

定員六名に対し大学生四名の応募（Ⅰ型一名、Ⅱ型二名、Ⅲ型一名）があり、三月二十四日置賜総合文化セン

ターでの教育委員による面接、翌二十五日本部理事会審議を経て、応募者全員が合格となりました。合格者の応募時の作文「私の志」を「奨学生だより」に後掲します。

### 学生寮入寮生選考の報告と課題

平成三十一年四月採用の入寮生〇名の結果を踏まえた総括と対応策により、今回は予約募集を実施しました。今年度の募集定員は東京が八名程度(通常募集四名程度、予約募集四名程度)、仙台が五名程度(通常募集三名程度、予約募集二名程度)で、予約募集に対して、仙台には応募者はなく残念でしたが、東京には三名の応募者があり、予約内定を得た三名全員が合格となりました。進学者はできるだけ早く住居を決めたいという意識が強いので、それに応える予約募集には相当の効果が認められ、来年度も継続して取り組みます。今年度、東京には十名の応募、仙台には二名の応募があり全員選考しました。

また、寮生募集の中長期的な対応策については学生寮基本問題検討委員会を昨年九月から鋭意検討を進めております。この検討委員会の中で女子学生の修学環境を整備するために、東京興譲館に女子学生の受け入れを進め

る事業についても併せて検討を進めているところです。さらに、施設の整備については、創立百三十年周年記念事業として、学生寮の改修工事の取組の一環で、東京興譲館寮の大規模改修工事を実施することになり、教次の工事に入ります。第一段階工事は令和二年十月十二月施工として建物外部からの工事(寮室窓サッシュ取付、外部庇防水・塗装、庇笠木の金属化等)を実施し、勉強環境を一層向上させ、安全・安心の施設環境を増進させることにしております。仙台興譲館については今年度、新しい寮母が決まり、それに対応するようトイレ工事を行います。

### 来年度の募集要項の概要

令和三年度の募集要項の概要は、別表2のとおりです。有為会会員の皆様には、心当たりの学生さんがおられましたら、ぜひ勧誘・推薦して頂ければと存じます。

(別表1) 令和二年度奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 奨学金貸与生：「奨学生だより」(四十ページ)に掲載

2. 学生寮入寮生

① 東京興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校・大学	出身地
10	後藤 洵	東京理科大学基礎工学部	2年	山形東高校	山形市
9	我妻 恵多	東京都立大学理学部数理科学科	1年	高島高校	高島町
8	二宮 渉	電気通信大学情報理工学部	1年	米沢興讓館高校	米沢市
7	土井 匠	日本大学スポーツ科学部	1年	米沢中央高校	川西町
6	高橋 勇輝	東京大学理科一類	1年	米沢興讓館高校	米沢市
5	瀬野 陽生	明治大学商学部	1年	山形市立商業高校	山形市
4	鈴木 龍太郎	東京農工大学工学部	1年	米沢興讓館高校	長井市
3	後藤 壘	東放学園音響専門学校	1年	米沢中央高校	米沢市
2	金田 凌	杏林大学医学部	1年	長井高校	長井市
1	大西 ひかる	明治大学理工学部建築学科	1年	米沢興讓館高校	米沢市

## ② 仙台興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	鹿又桂司	東北大学経済学部	1年	米沢興讓館高校	南陽市
2	鈴木優	東北学院大学経済学部	1年	米沢商業高校	米沢市

## (別表2) 令和三年度育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ

(<http://www.yonezawa-yuukai.org/>) をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生募集要項  
当会の奨学金(無利子)は以下の通り三種類あります。

種類	名称	募集対象者	定員	貸費額等
I型(貸費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学者	2名	月2万円貸費
II型(減免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2名	月4万円貸費、うち2万円減免
III型(貸費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費

応募資格	<p>置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者</p> <p>(1) 令和3年4月大学入学予定者または在学生</p> <p>(2) 健康かつ学業優秀で将来性ある者</p> <p>(3) 経済的理由により就学が困難である者</p>
奨学金の返還	<p>貸費終了翌年度より、Ⅰ型及びⅡ型においては月額1万円を、Ⅲ型においては月額1万5千円を本会に返還する。</p>
面接選考日・場所	<p>令和2年11月7日(土) 午後1時</p> <p>置賜総合文化センター(米沢市金池3-1-14)</p>
採用候補者及び決定通知	<p>令和2年11月に採用候補者を決定し、また、その内の大学又は大学院合格者をもって3月に理事会で正式に決定し、応募者に通知する。</p>

## 2. 学生寮入寮生の募集要項

募集は大学合格前に予約内定する場合(予約募集)と大学合格後に採用決定する場合(通常募集)の二通りで行います。なお、通常募集は合格発表前に応募が可能です。

寮名	東京興譲館	仙台興譲館
所在地	東京都調布市(新宿駅より約40分)	仙台市青葉区(中心市街地まで約3km)

応募資格	<p>東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、または入学予定者（男子のみ）</p> <p>以下の条件のいずれかを満たす者</p> <p>(1) 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟</p> <p>(2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者</p> <p>合格発表前の応募可</p>	<p>仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、または入学予定者（男子のみ）</p>
募集人員	<p>予約募集 3名程度</p> <p>通常募集 3名程度</p> <p>全室個室（定員24名）</p>	<p>予約募集 4名程度</p> <p>通常募集 6名程度</p> <p>全室個室（定員15名）</p>
寮費（月額）	<p>朝夕2食付き（ただし土曜・日曜、祝日を除く）、光熱費・水道代等を含む</p> <p>50,000円</p>	<p>夏季 42,000円程度</p> <p>冬季 44,000円程度</p>
面接日・場所	<p>△通常募集▽</p> <p>1月10日、2月28日、3月11日、3月23日</p> <p>いずれも米沢会場</p> <p>△予約募集▽ 2月28日</p>	<p>△通常募集▽</p> <p>1月10日、2月28日、3月11日、3月23日</p> <p>いずれも米沢会場</p> <p>△予約募集▽ 2月28日</p>
面接方法	<p>コロナ感染防止のため、オンラインによる面接を行う。</p>	

○地域振興部

当部は、創立百三十年活動ビジョンに従い、年次計画に沿って、事業活動を行いました。

まず表彰については、今年度は産業功労者として株式会社エービーエム会長の吉野徹氏で、氏は米沢商工会議所の副会頭、会頭を長年に亘り務められ地域経済の発展に多大な貢献を果たされました。教育功労表彰では山形大学学長を務められた小山清人氏を推薦しましたが、固く辞退されました。特別顕彰者については、スポーツ活動の優秀賞は一名、奨励賞三名で、文化活動優秀賞は一名、奨励賞一名、計六名の表彰がそれぞれ行われました。内容は当誌の本部活動報告の中で詳しく紹介しております。

また、高等学校卒業生表彰は置賜地区内の高等学校十三校から特に優れた卒業生、各校一名の推薦を受けて表彰しました。表彰については、米沢支部教育部長が各高等学校を訪問し校長に表彰状の伝達をお願いして実施しました。

平成三十一年度高等学校卒業生表彰

(令和二年二～三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、

生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。今年度の受賞者は次の通りです。

岩松	里奈	米沢興譲館高等学校	(高畠町)
高橋	愛理	米沢商業高等学校	(高畠町)
手塚	夏菜子	米沢工業高等学校	(米沢市)
高木	龍之介	米沢東高等学校	(米沢市)
橋本	実子	米沢中央高等学校	(米沢市)
赤木	美月	九里学園高等学校	(米沢市)
山口	飛翔	南陽高等学校	(長井市)
鈴木	遥	長井高等学校	(南陽市)
佐原	友夏理	長井工業高等学校	(長井市)
八巻	彩乃	置賜農業高等学校	(米沢市)
加藤	清音	高畠高等学校	(米沢市)
漆山	ひさり	荒砥高等学校	(白鷹町)
今	ひろみ	小国高等学校	(小国町)

第三回小論文コンテスト

次に、第三回小論文コンテストでは、例年どおり置賜地区の高校二年生を対象として、「郷土の未来と私の生き方を考える」をテーマに実施しました。今回はコロナ禍の影響もあり心配していましたが、高等学校校長会の

前向きな姿勢を受けて、総数二二三通の応募がありました。その中から、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点の計十点を選抜し表彰するとともに、『優秀小論文集』を発行し、各高校、関係先に配布しました。

受章者は次の通りです。

最優秀賞

小国高等学校

保科 奈緒

優秀賞

米沢商工会議所会頭賞

米沢興讓館高等学校

星 麟太郎

学園都市推進協議会会長賞

米沢東高等学校

佐藤 萌

置賜経済人クラブ会長賞

米沢興讓館高等学校

二瓶 菜津子

米沢信用金庫理事長賞

米沢中央高等学校

山口 藍果

入選

米沢興讓館高等学校

後藤 優奈

米沢中央高等学校

遠藤 綾乃

米沢東高等学校

市川 萌音

米沢東高等学校

高橋 風夏

米沢東高等学校

奥山 さくら

## ○文化広報部

ホームページの更新と「リモート会議のお薦め」

今年度も引き続きホームページ（HP）の更新が行われました。山形県立米沢工業高等学校専攻科と連携協力の下、時代に即した内容と形式に更新しています。

また、これまでの「ホームページ活用のお薦め」等に代わり、今年度は「米沢有為会リモート会議のお薦め」が掲載されました。これはまさに今年新型コロナウイルス感染症拡大の影響により東京での理事会など諸会議がでさなくなつた結果、七月から導入されたもので、コロナ禍が終息するまで当分の間続きそうです。詳しくは三十九ページをご覧ください。

## 奨学生・寮生募集用号外をカラー印刷

奨学生と寮生募集用の号外は、平成三十一年度の入寮生ゼロを受けて、高校生や保護者へのアピール度を高めるため、「米沢有為会だより」第十一号をフルカラー印刷で発行し、高校の進路説明会で保護者に配布したり、三市五町の高校に送付しました。お陰様で、育英事業部ほか関係者の努力が実り、この四月東京に十名、仙台に二名が入寮し一安心しています。

## 『優秀小論文集』の発行

地域振興部が担当する「地域と私たちの未来を考える」高校生小論文コンテストは第三回目を迎え、置賜地区内の高等学校十校から総数二二三点の応募がありました。厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点が選ばれ、これを『優秀小論文集』にまとめ発行しました。十月三十一日（土）の表彰式で、受賞者や出席者に配布し、後日学校や関係者に送付しました。

## 米沢有為会『雑誌』類デジタル化事業の実施

現在市立米沢図書館に所蔵されている本会創立以来、戦前期の『有為会雑誌』『米澤有為会雑誌』、戦後期の『米沢有為会々誌』は、重要な郷土資料として頻繁に活用されていますが、長年の利用等で紙劣化が進んでいるため、早急に資料保存の対策を講じる必要が出てきました。

そこで、本会では百三十周年記念事業の一環として、この十一月からこれら『雑誌』類のデジタル化事業の実施に取り組むことにより、貴重な記録を保存し、今後の更なる活用の利便性を向上させようとしています。



首都圏の会員が集った東京支部新年会  
令和2年2月8日 於主婦会館プラザエフ

## 本部役員の立候補の届出 または推薦の受付について

来る令和三年六月定時総会において、本部理事及び監事の改選（任期二年）が予定されております。公益社団法人米沢有為会役員選考規程第八条「会員は、活動所信を添えて役員選考委員会の委員長に届けることにより理事または監事に立候補が出来る」の定めに従い、左記の要領で、会員の皆様から役員立候補の届出を受け付けます。また、あわせて役員候補者の推薦を受け付けます。

- ① 受付期間 令和三年一月十日から三十一日まで  
(当日消印有効)
- ② 立候補の方法 活動所信を添えて立候補の届出を郵送または電子メールでお送りください。
- ③ 推薦の方法 推薦理由を添えて役員候補者の推薦を郵送または電子メールでお送りください。
- ④ 立候補の届出または推薦の書式 任意
- ⑤ 送付先 米沢有為会役員選考委員会委員長宛  
(本部事務局気付)

・郵送の場合の送付先  
〒一八二〇〇〇四 東京都調布市入間町一三三六  
東京興譲館内（本部事務局気付）  
・電子メールの場合のアドレス  
jinukyoku@yonezawa-yuika.org  
(本部事務局気付)

役員選考委員会は、受付期間の開始日までに理事会の決議により発足し、五名の委員の互選により委員長が選出されます。皆様からの上記の立候補の届出または推薦は、委員長のもとで厳重に扱われて、その他の候補者とともに、委員会の審議が行われます。委員会は、規程により総会に推薦する理事及び監事の候補者を選考して、理事会に提案しますが、理事会はこれを受けて、総会に提案する役員候補者を決定いたします。この理事会の提案をもとに、総会において理事及び監事の選任に関する決議が行われるという手続きとなります。  
なお、役員は正会員から選出されます。

令和二年十二月十日  
公益社団法人米沢有為会 理事会

## 米沢有為会リモート会議のお薦め

二〇二〇年はコロナ感染者の発生と世界的拡大で、歴史に残る重大な年となりました。その影響は政治、産業、医療、交通、スポーツ等の幅広い分野に及び、その結果人々の生活様式も大きく変わりました。

米沢有為会の活動もコロナ禍により大きな影響を受け、昨年まで当たり前であった色々な活動が制限されるようになり、中でも会員同士が一同に集まり話し合う会議がほとんど開催出来ない状態に陥りました。毎年六月米沢市で開催される当会の定時総会も米沢開催は中止となり、代わりに東京で規模を極端に縮小して少人数参加の下で行われました。また定期理事会も集会を避けるために、メールを中心に意見のやり取りを行う形式に変更しました。上記の方法でも何とか会員間の意思疎通は図られましたが、面談による会話に比べ十分ではなく意思伝達に時間もかかり、臨場感に乏しい状況でした。そのためメールと電話の併用で乗り切る場面も多くなりました。

この様な状況の中、世の中ではビジネス界を中心にリモート会議（Web会議）が普及し始めました。元々テレワークのツールとして以前から使用されていました。ところが、コロナ禍を機に急速に広がりを見せました。そこで

有為会もこの機会を生かしリモート会議を始める事になりました。リモート会議とはインターネットを通して行う会議のことです。その特長は以下の通りです。

- (一) インターネット環境下どこでも会議ができる。
- (二) 交通費と移動時間を削減できる。
- (三) 低コストで運用ができる。
- (四) 意思決定がスピードアップする。

リモート会議は現在十を超える種類がありますが、用途に応じて使い分けています。それらの中で当会は、現在最も普及が進み、使い易いズーム（Zoom）会議システムを導入しました。ズーム会議システムは四十分以内であれば無料で何回でも使用できますが、その都度接続をやり直す必要があるため、当会は時間制限のない有料システムに加入しています。

本年七月から当会内の小さな会議で試行し始め、数回繰り返し、慣れた段階で十月から東京、米沢、仙台を結び十数名が参加する理事会に使用しています。また今後は用途を広げ、育英事業（奨学金貸与や寮生募集の面接等）や文化活動および地域活動等にも使用範囲を広げて行く予定です。直接面談して会話する会議と比較すると不足感がありますが、十分実用に供するシステムであると思います。皆様にもご利用をお薦めします。

# 奨学生だより

## 一、今年度の新奨学生

次の学生が新奨学生に選ばれました。

I型 佐々木りこ（米沢中央高等学校）

宮城教育大学 教育学部特別支援教育教員養成課程

II型 大西ひかる（米沢興譲館高等学校）

明治大学 理工学部建築学科

II型 高橋 翔（米沢東高等学校）

東北医科薬科大学 薬学部薬学科

III型 小関 杏実（九里学園高等学校）

青森大学 総合経営学部経営学科

（I型は月額二万円の貸与、女子向け住居費補助奨学金。

II型は月額四万円の貸与、地元若者定着奨学金。卒業後

地元に着し、規定の条件を満たせば返済が半額減免。

III型は月額四万円の貸与。）

大学の授業は、長引くコロナ禍の影響で対面式の授業は一部に限られ、オンラインの授業が多くなっています。

これまでの学生生活からは想像もできない状況で、その閉塞感も相当なものと思われれます。新奨学生には心身ともに気をつけて、充実した勉学生活を送っていただきたいものです。

## 二、奨学生の現況―新奨学生と返済開始奨学生

以下は、新奨学生が自分の決意を述べた「私の志」と、今年度より返済に入った奨学生の「奨学金の思い出」と題する文章です。なお、今年度から奨学金返済においても新制度が導入され、返済は「ゆうちょ銀行」口座からの自動引き落としとなりました。

### 「私の志」

令和二年度奨学生

佐々木りこ

私には特別支援学校の先生になるという夢がある。私には障がいをもつ友達がいるが、支えてあげようと思ひ、何でも代わりにやろうと思っていた。しかし、これは間違いだど気づいた。特別支援学校の先生は必要なこと以

上に手出しはしていなかった。ただし、それぞれのニーズに応じて対応する姿があり、その姿に魅力を感じた。

その夢を実現するために、教育学部のある国立大学への進学を目指している。毎日の勉強は計画を立て、部活動後疲れているときでも、また夜遅くなっても実行し続けた。クラスに困っている人がいたら、その子のために何ができるかを考え行動し、手助けすることを積み重ねている。私はそれぞれ違った障がいを抱える子どもたちに対応できる先生になる。そして、その子供たちが、社会に出て、周りの人と協力して物事を考えられるような大人になるようサポートしていきたい。

## 大西 ひかる

私は将来、幅広い種類の建築物に関わる一級建築士になることを目指しています。大学在学中はより早くその試験に合格するために、試験で必要となる知識を意識して身に付け、卒業後は例えば法隆寺のような日本の木材を利用した地震に強い建築物を設計していきたいと考えています。木材の利用には、他の工法より環境負荷が少ないことや人間の精神を落ち着かせる効果等がありま

す。しかし、木材を利用すると耐久性が低くなることやデザイン・安全性などの難しい点もあると思います。そのような難点を克服するためにも多くの方々との協力は必要不可欠であり、大学生活では人脈を広げ、さまざまな情報を活用しながら、使用する人に喜ばれる建築物を造っていく努力をしていきたいと考えています。そして、卒業後は地元に戻り、ぜひ地域に貢献したいと考えています。

## 高橋 翔

私の将来の夢は薬剤師になることです。将来米沢に戻り、人々の健康を薬で支えられるような薬剤師になりたいと考えています。大学で地方創生医療やジェネリック医薬品などを学び、コミュニケーション力を培いたいです。そして、大学で学んだことを地元の人々の健康を支えるために生かしていきたいと思います。さらに、コマースシャルなどにもあるように、かかりつけ薬剤師という新たな立場を確立して、地元へ貢献したいと思っています。患者の疑問や不安には納得が得られるまで対応し、理解を深め合っていきます。地域に根ざした身近な存在にな

ることで信頼関係を築き、安心して任せてもらえる薬剤師になり、地域を活性化させていきたいと考えています。

### 小 関 杏 実

私は大学に進学したら、学業だけでなく、幼少期から続けてきたアルペンスキーに力を入れ、日本、世界で活躍できる選手になりたいと考えています。高校に入学する時は、金銭的な面などから三年間でスキーを辞めようと考えていました。しかし、スキーを続けているうちに、もっと高い場所で戦いたい、今より大きいステージに立ちたい、という気持ちになりました。二年生のシーズンが終わる頃に、青森大学のスキー部の監督から推薦をいただき、両親からも応援を貰い、三年生に進級する時に進学を決意しました。大学に入学できたら、世界で活躍できる選手になるために、毎日の学校生活、私生活の時間の使い方を大事にしていきます。冬は国内外の試合を転々とし経験を積みみます。スキーを始めてからずっと応援してくれている両親に恩返しができるよう、四年間何事にも全力で取り組みます。そして、オリンピック出場という夢を果たしたいと思います。

### 「奨学金の思い出―新たな価値観」

神奈川県立松陽高校生物教師 渡 邊 志 保

奨学金の思い出は、ベトナムに国際ボランティアに行ったことだ。私は、海外の文化や生活に興味があり、時間に融通が利く学生のうちだ！と思いき立ち出発した。首都ハノイからバスで五時間の山間に住むタイ族の小さな村に行った。仕事内容は、①トイレ建設②子供たちと遊ぶ③村の人と食べて飲むだった。その中でもひと際私に衝撃を与えた出来事は子供たちとの遊びだ。まず、子供たちが持つスマホのゲームより魅力的な遊びを提供して欲しいというリクエストを受けたことが衝撃だった。日本の折り紙、水風船バトルなど様々な遊びで子供たちと楽しんだ。二つ目に、子供たちが川で安全に遊ぶために、ルールを決めていたことに衝撃を受けた。大自然の中でたくましく生きる力を目撃した。現在の日本と似た課題や日本が忘れていたことを体感し、新たな価値観を得ることができた。私の人生に大きな影響を与えた旅を支えてくれた有為会の奨学金にとっても感謝している。

# 支部だより

## 東京支部

令和元年度秋以降の東京支部の活動状況を報告します。

### ▲芋煮と地酒を満喫の園遊会

小石川後楽園の涵徳亭は、改修工事後全館貸切中止となりました。そのため、主婦会館プラザエフで令和元年十一月三日に開催されました。定刻に林常子理事の司会で始まりしました。ご来賓は、上杉邦憲様ご夫妻、下條泰生名誉会員、和田豊やまがた育英会業務執行理事でした。県民歌「最上川」を斉唱後に、上杉邦憲名誉会長、大滝則忠会長よりご挨拶をいただきました。下條泰生名誉会員の音頭で乾杯をして懇談に入りました。置賜から材料を取り寄せて実行委員の方々が調理した芋煮や玉コンニャクと地酒やワインを味わいました。郷里の物産の販売は、出席者のご協力で完売でした。お楽しみ抽選会では、会員の羽隅弘宣様が壺等賞を獲得しました。その後には、全員で唱歌「ふるさと」を斉唱して、川合勝雄副支部長

の閉会の挨拶と一本締めで散会しました。出席者の人数は寮生四名を含めて六十名でした。寮生は、大学の学園祭のため出席者が少なく、開催時期を検討したいと思えます。同伴者数が十五名で今年も大変多かったです。実行委員の皆様のご協力有難うございました。

### ▲第二十九回文化大学講演会

令和元年十一月三十日（土） 東京興讓館

テーマ：「光で身体を診る」

講師：山田 幸生

電気通信大学名誉教授 東京大学特任研究員

### ▲支部新年会・予饗会

令和二年二月八日に、主婦会館プラザエフで、出席者四十名の会合となりました。菅野憲幸理事の司会で鈴木信之支部長の挨拶の後、上杉邦憲名誉会長と大滝則忠会長よりご祝辞を頂きました。館長より今年の寮生の卒業生は、三名の報告がなされました。十一月に入寮した高橋智博くんを抱負を述べてもらいました。その後名誉会員下條泰生様のご発声で乾杯し祝宴に入りました。宮坂孝夫副支部長の中締めと挨拶で終了しました。

▲コロナ感染防止のため平成二年度支部総会・新入生歓迎会は中止

このため東京支部の「定期総会」で議決すべき令和元年度の事業及び決算報告、令和二年度の事業計画（案）及び予算（案）は監事の監査報告書を以って承認されたことにしました。東京興譲館は十名の新入寮生を迎えました。各大学の入学式も軒並み中止となりました。残念ですが、支部の新入寮生歓迎会も中止としました。

▲コロナ感染防止のため園遊会も中止

会員やそのご家族・お友達の方が楽しみにしている園遊会もコロナ感染防止のため中止としました。

▲東京支部会員数（令和二年十月現在）

正会員数 一〇五名  
個人賛助会員数 一五二名  
法人賛助会員数 六法人

▲東京興譲館の第一段階の改修工事について

米沢有為会創立百三十周年記念事業として東京興譲館の改修工事を始めました。

勉強環境の改善のために、寮室のサツシユの交換と固定式網戸を可動式にします。

外部庇防水・塗装。庇笠木の金属化。外壁タイルの劣化調査を実施。

その結果、タイルの浮きの割合が高く、追加のタイル落下防止の補強工事を継続して実施することを決めました。

工事は、十月一日より開始して年内には終了します。寮生室内のリニューアル工事は、コロナ禍のため次年度以降に延期します。

▲訃報会員

ご生前のご協力に感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

（ ）内は命月

高田 和壽 様（令和元年十二月）  
林 直司 様（令和二年 二月）  
後藤 健夫 様（令和二年 十月）

川合 勝雄 記

## 米沢支部

令和二年度米沢支部における上半期活動状況を報告します。

米沢支部においても本部や他の支部と同じように、新型コロナウイルス禍により殆どの会議を書面や電子メールで開催、事業は規模縮小や中止となり特筆すべき報告内容はありません。

### ○教育・産業功労者選考会議

教育部員・産業部員からそれぞれの部長に被表彰者の選考について一任を取り付けて選考し、選考結果を米沢支部副支部長に報告、五月十一日米沢支部長から本部へ上申しました。

### ○五月八日 米沢支部監査

午後一時から米沢市役所にて実施。令和元年度支部会計決算と同年度我妻榮記念館会計決算を監査していただきました。

### ○五月九日 第一回理事会

書面にて開催し、令和元年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、我妻榮記念館に関する庶務・事業報告・決算報告・事業計画(案)・予算(案)を了承。また、令和二年度事業計画(案)及び予算(案)を支部総会に提案することで了承を得ました(提出期限：五月二十五日)。

### ○五月二十二日 第一回副支部長会議

午後二時から我妻榮記念館にて開催。支部理事会の書面表決の結果と、産業功労者表彰対象者の辞退により本部への推薦取り下げの報告と、支部理事会における意見の取り扱い、高校生小論文コンテスト、「米沢有為会だより号外」の印刷、支部諮問委員の補充について協議しました。

### ○六月六日 第二回理事会・支部総会・本部総会資料の発送

支部理事会は書面にて開催し、支部諮問委員の補充について支部総会に提案することで了承を得ました。支部総会も書面で開催し、令和元年度米沢支部事業

報告及び決算報告を承認、我妻榮記念館に関する庶務・事業報告・決算報告・事業計画(案)・予算(案)を了承。また令和二年度事業計画(案)及び予算(案)は提案どおり可決いただきました。

また、同時に本部総会関係資料を発送いたしました(提出期限：六月二十三日)。

### ○七月二日 令和二年度産業功労者表彰 表彰状伝達式

例年、本部定時総会開催の折に表彰式を開催していましたが、今年度はコロナウィルス禍により本部総会が書面にて開催されたことから、表彰状伝達式として午後二時から伝国の杜で開催。米沢支部長から産業功労者・吉野徹氏に伝達いたしました。また、特別顕彰者には郵送にて伝達いたしました。



### ○七月二日 第二回副支部長会議

令和二年度産業功労者への表彰状伝達式終了後、伝国の杜で開催。支部理事会及び支部総会の書面表決結果報告と今後の事業の開催について協議し、当分の間、集合しての各種事業は開催しないことで支部運営会議に諮ることとしました。

### ○七月十四日 第一回支部運営会議

午前十時から伝国の杜で開催。支部総会の書面表決結果報告と今後の事業の開催について協議し、当分の間、集合しての各種事業は開催しないこととしました。

### ○七月二十一日 第一回文化広報部会

午後二時から我妻榮記念館にて開催。支部日より第四十一号の発刊、有為会誌復刊第七十号について協議しました。

### ○九月四日 令和二年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会①

午後二時から米沢市西部コミュニティセンターにて

開催。第二次審査の分担を決定しました。

○九月六日 支部だより第四十一号封入作業

○九月七日 支部だより第四十一号発送

○九月九日 令和二年度置賜地区高校生小論文コンテ  
スト審査委員会②

午前十時から米沢市西部コミュニティセンターにて  
開催。第二次審査二回目の分担を決定しました。

○九月十五日 令和二年度置賜地区高校生小論文コンテ  
スト審査委員会③

午前十時から我妻榮記念館にて開催。第二次審査の  
集計結果をまとめ、第三次審査へ提出する小論文を決  
定しました。

○十月三十一日 令和二年度置賜地区高校生小論文コン  
テスト表彰式

午後三時から伝国の杜にて開催。

遠藤善則 記



産業功労者・吉野徹氏とともに

## 仙台支部

新型コロナウイルス禍により、仙台支部の活動も支障をきたしています。六月初めに予定した仙台支部の総会と講演会、懇親会は、仙台での三月末からの急速な感染者の増加により無期延期となりました。四月末から六月の間は感染者が無く、収まったかに見えましたが、夏に入っでぶり返し、十月二十五日には仙台で三十名と、これまでで最多の感染者が出ています。会合を開ける状況ではなく、今年度の一切の支部行事は中止します。

### 仙台興譲館の近況

#### 令和二、三年度の寮生募集

昨年春の募集は東京、仙台ともに入寮者ゼロの結果に終わり、事態を重視した育英事業部は、置賜三市五町の広報誌に「寮生募集」の掲載を依頼するなど周知を図るとともに、合格が未定の段階で応募ができる予約募集を採り入れ、受験後直ちに住居を決めたい受験生と親に対応できるように対策を取りました。その結果、仙台寮の場合は予約募集への応募はありませんでしたが、五名募集

のところ二名の新入寮生を迎えることができ、現在の寮生数は、定員十五名に対して十名です。来春は五名が卒業する予定なので、定員までには十名の空きが出る運営上厳しい状況になります。有為会がこれだけの寮を用意しているのに、利用しないのは勿体無さ過ぎます。會員の皆様、特に置賜在住の會員におかれましては、ご自身のご子息はもちろん、周囲の受験生のいる家庭にも有為会の育英事業の目的と興譲館寮の存在をご案内いただき、応募を促してくださいようお願いいたします。

#### 新型コロナウイルス禍の寮生活への影響

七都府県に緊急事態宣言が出された四月七日の前日、一人の寮生が発熱し、寮母と寮長が対応し、隔離して様子を見ましたが、幸い翌日には平熱に戻り、その後感染が疑われる事態は起きていません。

多人数がまとまって暮らす寮は、一旦感染者が出てしまえば、感染拡大を防ぐのが難しくなります。四月末に福島大の寮で感染が発生、十月末には仙台の自動車学校の寮で生活する留学生を中心に、百人を超えるクラスターの発生が報道されました。他人事ではなく、警戒を緩めることなく感染の収束を待たねばならない状況が続いています。

寮生のアルバイトにも影響が出ていますし、就活中の寮生には大きなストレスがかかったことと思います。それでも、一部は就職先が決まったと聞いています。早く全員の行先が決まり、就職という人生における一大イベントが、コロナ禍と重なってしまった不運を無事乗り切ってくれることを願っています。

昨年秋に、館長・副館長と寮担当委員が、寮生と寮生活の問題点について懇談したときに、寮生間のコミュニケーション不足が話題になり、その解消と寮生と会員間の交流の機会を増やす目的で、寮生と会員が話題提供者となり、気楽に語り合うミニ談話会の開催が委員側から提案されました。残念ながらコロナ禍で棚上げになっています。

### 寮母の退職と新寮母の着任

十四年に亘って仙台興譲館の寮母を勤めた小野寺眞知子さんは、三月限りで退職したいとの意向を昨年末に表明していました。退職時期を若干延長し四月上旬で退職されました。新型コロナウイルス禍により、直ちに新寮母の募集に入れずにはいきましたが、四月末から感染者のない日が続いたので、寮生と協議して募集案の作成に入り、六月に入って案ができました。この案は学生寮基本

問題検討委員会で審議され七月中旬に承認されました。

募集には求人誌の冊子体と新聞折り込みチラシを利用しました。いずれも八月十六日号で、冊子体は宮城県全域のスーパーや生協などの店頭で置かれ、チラシは仙台市全域と周辺に配布されました。二十一日に申し込みを締め切るまでに応募した三人を館長と支部長が面接し、桶川幸江さんを最も適当と判断し、九月十日に業務委託契約を結びました。契約の際は館長、支部長に加えて、前寮長（現会計担当）が同席しました。

桶川さんは六十三歳、調理師、食生活指導士、看護助手の資格を持ち、住み込みで勤務しています。十月五日から出食が始まり、寮生は安堵の色を浮かべています。

新寮母受け入れに当たって、滝口館長が寮母室を整備してくれました。また、これまでなかった女子専用の洋式トイレを設置しました。この工事を行うに当たっては加川理事にご尽力いただきました。お二人の労に感謝します。

甲 國信 記

## 北海道支部

未曾有の新型コロナウイルス禍の影響により、世界中が混乱しております。

北海道も二月初めの札幌雪祭りの開催が感染を拡大する機会となり、全国的に注目される事態となっております。

本年は有為会に於いても、色々な企画を進める事も憚られ、只々コロナ禍が治まる事を願うばかりであります。

会員の平均年齢も高くなり、若い年代の加入もなかなか困難な状況でありまして、支部存続の危機も感じられる昨今であり、抜本的なコンセプトの改革が必要なのはと思っております。

(田村邦夫 記)



# 興讓館寮だより

## 東京興讓館

高橋 智博

日頃から寮の運営、寮生への支援等にご尽力を頂いております米沢有為会の皆様に、今年度の東京興讓館寮の近況を報告させていただきます。

三月には、三名の寮生が巣立ちました。就職先は、東京の民間企業が二名で、一名が山形に戻り新たな環境で生活しています。

四月には、当寮は十名の新入生を迎えてスタートしました。東京での生活に期待を寄せて上京して来た一年生です。しかし、四月の緊急事態宣言により、全員が集まる機会がほとんど無く、そのまま山形に在住している寮生もいます。当初は緊張感が非常にあり、ストレスを感じるが多かったのを覚えています。十月末現在では、今のところ一人も感染者を出さず、寮生全員が健康でいます。あらゆる対策を講じて、クラスター感染を防ぐ事が出来ているからだと考えられます。具体的には、帰館

した際の手洗いの徹底、風呂や食事では間隔を空けること、換気を頻繁に行うことなど、当たり前の事の積み重ねが重要だと感じています。コロナ禍の中で大変ですが、寮生はとも協力的で、団結力が上がっているように感じています。寮長としてとても円滑に進めることが出来ました。

勉強に関しては、このような中で、学校の授業はオンライン、大学へ行かずに、PCやタブレットなどを見続ける生活が続いています。前期はほぼ全員がオンライン授業を受ける形となり、今までにない状況となりました。課題や提出物も提出できるため、嬉しい一面もあります。大学の友人に会う機会が減少し、寂しい気持ちも在るのが本音です。日常でも、新しい生活様式が定着しつつあります。マスクの着用、ソーシャルディスタンスといった、今では聞き慣れたワードになってしまいました。人の多い東京で、これからも寮生が健康に暮らしていくよう、体調管理に気をつけて生活して行きます。

室内の改修工事では、窓のアルミサッシと可動式の網戸の取付がなされました。また、各階のガスコンロや給湯器が新しくなって利便性が高まり、寮生一同大変嬉しく思っています。窓のサッシ工事業によって防音性が

上がり、隙間風が入らなくなって、以前よりとても過ごしやすくなりました。来年度の夏には部屋の残りの部分の工事が実施されるということで、期待が更に高まっています。

この様な素晴らしい寮生活が出来るのは、寮母の福田さん、そして米沢有為会の皆様の支えがあるからです。その感謝の気持ちを私達が行動で示し、さらに努力してまいります。

最後に寮生の紹介をさせていただきます。

### ○四年生

梅津 琉也〔法政大学文学部〕

(米沢興讓館高校)

後藤 弘樹〔城西大学理学部〕

(米沢中央高校)

坂本 啓輔〔早稲田大学先進理工学部〕

(米沢興讓館高校)

瀬野友太郎〔中央大学経済部〕

(山形市立商業高校)

富取 俊馨〔東京都立大学都市環境学部〕

(米沢興讓館高校)

### ○三年生

野呂 岳志〔玉川大学教育学部〕

(昌平高校)

井上 太陽〔帝京大学経済学部〕

(西山学院高校)

木村 周幹〔東京工科大学コンピュータサイエンス学部〕

(米沢興讓館高校)

近野 清正〔学習院大学法学部〕

(長井高校)

鈴木 皓大〔東京学芸大学教育学部〕

(米沢興讓館高校)

高橋 智博〔法政大学経営学部〕

(米沢興讓館高校)

山本隼太郎〔早稲田大学先進理工学部〕

(米沢興讓館高校)

### ○二年生

後藤 洵〔東京理科大学基礎工学部〕

(山形東高校)

### ○一年生

大西ひかる〔明治大学理工学部〕

(米沢興讓館高校)

金田 凌〔杏林大学医学部〕

〔長井高校〕

後藤 塁〔東放学園音響専門学校〕

〔米沢中央高校〕

鈴木龍太郎〔東京農工大学工学部〕

〔米沢興讓館高校〕

瀬野 陽生〔明治大学商学部〕

〔山形市立商業高校〕

高橋 勇輝〔東京大学理科一類〕

〔米沢興讓館高校〕

土井 匠〔日本大学スポーツ学部〕

〔米沢中央高校〕

二宮 渉〔電気通信大学情報理工学域〕

〔米沢興讓館高校〕

我妻 恵多〔東京都立大学理学部〕

〔高島高校〕

○寮母

福田 富子〔長野市出身で就任五年目〕



東京支部園遊会 笑顔の記念写真  
2019年11月3日

## 仙台興讓館

小形 祥史

常日頃より、寮の運営、寮生へのご支援等にご尽力いただいております米沢有為会の皆様には、この場をお借りして深くお礼申し上げますとともに、仙台興讓館寮の近況についてご報告させていただきたく思います。

今年の三月には、一名が寮を巣立ち、自身の目標に向かって新生活を歩み始めました。一方、今年の仙台興讓館寮では、新入寮生が二名入寮し、新しい顔ぶれでのスタートとなりました。自分が入寮したときには、期待と不安でいっぱいであったことを覚えています。そんな中、先輩という存在がとても心強かったことも同時に覚えています。そのため、今年度寮長を務める身として、新入生のお手本、そしてサポートができるようにと努めたいと思います。しかし、現在寮生は十人と未だ寂しい状況であります。来年度も、新入生の獲得を目指して勧誘に尽力していきたいと思えます。

今年度は、寮母さんの退職やコロナウイルスの蔓延など多くの出来事が起こりました。コロナウイルスが蔓延

した際には、米沢有為会の方々には、多くのご支援をいただいたこと、改めて深くお礼申し上げます。インスタントの食糧やマスクなど多くの寄付をいただき、寮生皆が大した不便なく生活できたのではないかと思います。現在でも、コロナウイルスが蔓延している状況でありますので、ぜひ有為会の先生方や寮を支えてくださっている皆様はご自愛ください。寮生におきましては、コロナウイルス対策として、新入生歓迎会や花火大会など大きな行事を行うことができず、交流を深めることができなかつたためとても残念ではあります。その分、コロナが落ち着きましたら、寮生で絆を深めていけるよう努めたいと考えております。学業に関しては、リモートであったり、就活であったりと、大変な時期ではありましたが、目標に向かって各々努力していたと思います。後期になると、対面での授業を行う学校も増え、外で活動することも増えてきます。寮でも感染対策をしっかり行い、感染予防に努めます。

また、今年度は寮母さんが四月に退職なされました。寮生としては、食事が出ないことに加えて、心の支えとなつてくださった寮母さんが居ないということでもとても不安でした。しかし、寮生同士協力しあい、生活を工夫

して過ごしてきました。寮母さんのいない生活は、多くの苦労がありました。寮母さんの存在のありがたみを再確認することができました。いままで勤めてくださっていた小野寺寮母さんには改めて感謝をしたいと思いません。また、今年の十月より新たに、桶川寮母さんが赴任しました。新しい寮母さんと協力しながら、よりよい寮生活が送れるように日々精進したいと思えます。また、寮母さんには、常日頃から感謝の気持ちを忘れず生活していきたいと思えます。

このように振り返ってみると、今年度は、困難なことの多い年となりました。しかし、それよりも寮で生活を送る利点はたくさんあると思えます。学校のみならず、家に帰ってからも先輩や同級生と同じ時間を過ごし、一緒に語ったり笑ったりと、人生においてとても価値のある時間を過ごせます。それに加えて、朝と夜には温かい食事が用意されており、勉強やバイトで疲れた夜や忙しい朝には本当に助かっています。このような魅力を発信し広報活動に良い影響をもたらしてくれればと思います。

最後になりますが、私たちの素晴らしい寮生活は、有為会の先生方をはじめ、寮母さんや寮を支えてくださっ

ている皆様のおかげによって成り立っています。寮生一同、そういった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、勉強や社会活動に勤しんでまいります。今後とも、仙台興譲館へのご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

#### 寮生名簿

#### ◎令和2年度前期・後期寮長

小形 祥史 (東北福祉大学健康科学部リハビリテー

ション学科3年)

梅沢 謙吾 (東北大学経済学部4年)

〔米沢興譲館H29卒〕 米沢市出身

佐藤 大貴 (東北工業大学工学部情報通信工学科4年)

〔米沢工業H29卒〕 高島町出身

渋谷 拓 (東北大学工学部機械知能航空工学科4年)

〔米沢興譲館H29卒〕 米沢市出身

島貫 英佑 (東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科4年)

〔米沢東H 29卒〕 川西町出身

伊藤 真蒼 (東北大学工学部化学・バイオ学科4年)

〔米沢興譲館H 28卒〕 米沢市出身

二瓶 太陽 (東北福祉大学総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科4年)

〔米沢東H 28卒〕 米沢市出身

坂本 雄哉 (東北大学歯学部6年)

〔米沢興譲館H 27卒〕 南陽市出身

鹿又 桂司 (東北大学経済学部1年)

〔米沢興譲館R 2卒〕 南陽市出身

鈴木 優

(東北学院大学経済学部1年)  
〔米沢商業R 2卒〕 米沢市出身

■寮母 桶川 幸江さん



米沢有為会 育英事業の

**学 生 募 集**

公益社団法人

米沢有為会だより号外

米沢支部 第11号

米沢市金池5丁目2番25号(米沢市役所内秘書広報課内)

置賜3市5町の在住者・出身者のおさんを対象に募集しています。

## ★奨学生募集 (令和3年4月採用奨学生)

奨学金制度の概要 当会の奨学金は3種類あります。いずれも無利息

種 類	名 称	募 集 対 象 者	定 員	貸 費 額 等
I 型 (貸費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学の者	2名	月2万円貸費
II 型 (減免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2名	月4万円貸費、うち2万円減免
III 型 (貸費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費

◆応募締め切り 令和2年10月30日(金)

◆面接選考日 令和2年11月7日(土) 午後1時

(現在の奨学生の出身高校:東北高、興譲館高、長井高、九里学園高、米沢中央高、山形東高、米沢東高)

## ★寮生募集 (令和3年4月入寮生) &lt;予定&gt;

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資 格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在生者、又は入学予定者(男子のみ)で次のいずれかの者 (1) 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 (2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者	仙台市内及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在生者、又は入学予定者(男子のみ)で次のいずれかの者 (1) 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 (2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者
寮費(月額)	(2食付光熱費含) 50,000円程度	(2食付光熱費含) 夏季:42,000円程度 冬期:44,000円程度
募 集 人 員	6名程度(定員24名)	12名程度(定員15名)
面 接 選 考	1月~3月に4回実施予定	1月~3月に4回実施予定
面 接 場 所	東京興譲館、米沢	仙台興譲館、米沢

※今回は暫定的なもので、正式には10月下旬に募集要項、ホームページに掲載します。

◆大学合格前に予約内定する予約募集と大学合格後に採用決定する通常募集の2通りで行います。特に仙台興譲館では今年度末に卒業生が多いので、来年度は大募集(12名)をいたします。専門学校入学者も大歓迎です。

(現在の寮生の出身高校:東京興譲館…米沢工業高、高畠高、米沢中央高、興譲館高、長井高、西山学院高、山形東高、山形商業高、昌平高 仙台興譲館…米沢東高、興譲館高、米沢工業高、米沢商業高)

\*募集の詳細は公益社団法人米沢有為会ホームページを是非ご覧ください。

<http://www.yonezawa-yuikai.org/> (最新情報はCTRL+F5で更新してください)

# 我妻榮記念館だより

## ○開館の経緯等

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入學されるまで過されました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越しされ、大友家を買って昭和三十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建築物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月二十一日に開館しました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）

二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）  
三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）  
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～二十九年六月）  
五代館長 矢尾板操（平成二十九年六月～）

## ○令和元年度の運営報告

・年間開館日  
通常開館日…毎週月・木・金・日曜日の午後一時～四時 二〇六日開館

臨時会館…六日開館 合計二十二日開館

・入館者数 三六四名（平成三〇年度は四八八名）

・記念館の利用 四八六名（平成三〇年度は五〇五名）

米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会

・施設整備等

除雪機格納庫設置工事、樹木の刈込及び消毒等を実施

・施

・資料整備 著作を（株）ジーエスデザインがPDF化

・備品購入・整備

・除雪機の定期点検

・印刷出版

「我妻榮記念館だより」第二十四号発行（十二月十八日）市内各施設、弁護士会、法学部のある大学など四七八ヶ所に送付

・その他

・\* 県立米沢興讓館高校の自願財団奨学生と保護者の清掃奉仕と館長講話（六月十六日生徒十二名、保護者十二名他）

・\* 運営会議 十月三十日開催。三月は新型コロナウイルス感染症防止のため中止  
イルス感染防止のため中止

・\* 興讓小学校の見学来館 三月に予定されていたが新型コロナウイルスの影響で中止

### ○令和二年度の運営計画

・開館日は、毎週月・木・金・日曜日の四日間  
午後一時～四時

・記念館の補修整備

・記念館の資料整備（著作）

・「我妻榮記念館だより」の発行（第二十五号 十二月頃）

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を米沢市内小学校

・五年生全員に配布

・運営委員会（年二回）

### ○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長・管理人・運営委員を置き、管理運営しています。

名誉館長 我妻 学（新任）

顧問 問 上村 勘二

館長 矢尾板 操

運営委員 本多 和彦、安部 敏、

佐野 隆一（新任）、高橋 節子、

柿崎 悦子、山崎 公彦（新任）、

佐藤 繁

管理人 手塚 正



我妻榮記念館

# 米沢有為会『文化大学』

## 第二十九回文化大学

令和元年十一月三十日(土)

於・東京興讓館

### 「光で身体を診る」

電気通信大学 名誉教授・東京大学 特任研究員

山田 幸生



X線断層撮影(X線CT)や磁気共鳴イメージング(MRI)など、非侵襲で身体の中の状態を調べる技術が日常的に利用されていますが、光を使ってより簡便に外から身体の中を調べ、る技術も発達しています。

本講座では光、特に近赤外線を使った生体診断技術の現状と研究を紹介しました。

光、いわゆる可視光(波長四〇〇ナノメートルnm(紫色)から七〇〇nm(赤色)まで。1nmは百万分の一ミリメートルmm)は、血液により強く吸収されるため体表から数mmより深いところには届きません。ところが、血液による光の吸収は波長が長くなり、赤色に近づくにつれて弱くなります。赤色よりも波長の長い光が赤外線ですが、中でも赤色に近い近赤外線(波長七〇〇nmから一五〇〇nmぐらゐまで)では血液による吸収がさらに弱くなり、身体のおよそ5cmの深さまで届くという特徴を持っています。身体が透明でないのは光が吸収されるだけでなく強く散乱されるからです。散乱とは光が微粒子などに当たって進行方向が変わる現象です。

一方、酸素が多い動脈血は鮮紅色で、酸素が少ない静脈血は暗赤色ですが、色の違いは可視光を吸収する強さが波長によって異なるからです。近赤外線に対しても動脈血と静脈血では吸収の強さが波長によって異なり、色が違います。体内の血液の色を体外から近赤外線を使って調べることができれば血液中の酸素の量が分かり、血液の状態や脳活動などを調べることが出来ます。「光で身体を診る」技術は、生体の深部に到達する近赤外線を用い、その色を調べることが原理となっています。

この原理を利用しての小型の機器がパルスオキシメーターです。「パルス」は脈拍を、「オキシメーター」は酸素計を意味し、指に挟むと動脈血の酸素飽和度と脈拍数を表示します。酸素飽和度は血液が含むことができる最大の酸素量に対する実際の酸素量の割合で、動脈血の酸素飽和度は九十五%以上が正常とされ、肺が十分に機能して血液に酸素が与えられているかどうかを判定できます。新型コロナウイルスに感染して肺機能が落ちているにも拘わらず自覚症状が無い場合でも、パルスオキシメーターで動脈血の酸素飽和度を測ると九十五%以下になっていて治療が必要と診断されたことが報道されていました。パルスオキシメーターは街の医院から大病院まで、救急車や介護施設でも広く使われており、青柳卓雄氏が一九七十年に世界で初めて開発した日本が誇る機器ですが、残念ながら広く実用化させたのは米国の企業でした。

同じ原理に基づいて脳活動を画像化するのが光トポグラフィです。頭部表面の一点に近赤外線を照射すると、近赤外線は皮膚、頭蓋骨を通して脳に達します。その一部は散乱により進行方向が変わり頭部表面に戻ります。脳の一部が活動するとそこには血液が多く流れて近赤外線がより強く吸収され、頭部表面に戻る近赤外線の強さ

が少し変化します。その変化量を頭部表面で計測すれば脳活動を画像化することができます。この技術は一九九五年ごろに日立製作所によって世界で初めて開発され、脳機能の研究、子供の脳の発達、脳障害からのリハビリテーション効果など、色々な分野で応用されています。

近赤外線が生体組織により散乱される現象を利用した技術も開発されました。光干渉断層法（OCT）と呼ばれる技術で、網膜の深さ方向の画像を瞬時に撮影することができ、眼科では欠かせない診断装置になっています。この技術は一九九〇年ごろに日本（山形大学工学部丹野直弘教授グループ）と米国でほぼ同時に発明されましたが、残念ながら実用化は米国が圧倒的に先んじました。ほかにも近赤外線を用いた新しい診断技術が研究開発されつつあり、人々の健康維持・増進に大いに貢献すると期待されています。

（講演の詳細は米沢有為会のホームページに掲載）  
（プロフィール）

一九六六年米沢興讓館高校卒。一九七三年東京工業大学大学院修了。一九七四年工業技術院機械技術研究所。

二〇〇一年電気通信大学教授。二〇一三年定年退職。主に生体医用光学の研究に従事。

# 置賜市町だより

## 米沢市

「郷土をつくる人材育成が育つ、教育と文化のまちづくり」

生きる力を育む学校づくりを目指して

令和三年度、関根小学校と松川小学校、関小学校と南原小学校が統合され、それぞれ松川小学校、南原小学校として新たにスタートします。

本市では、平成三十年三月、子どもたちの生きる力を育むべく、新たな「米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画」を策定しました。

この計画は、近年の少子化に伴い本市小中学校の小規模化が進行する中、将来にわたって義務教育の水準の維持・向上を図り、「子どもたち一人一人が社会の変化に対応し、これからの時代を担う『生きる力』を育み、望ましい人間形成を図る」ことができるより良い教育環境の創出と教育の質の充実を目的としております。



米沢市立関根小学校

計画期間は、令和十九年度までの二十年間としておりますが、この計画を進めるにあたっては、地域との丁寧な協議が必要であり、ある程度の時間が必要であるとの考えからです。

関根小学校は、明治八年に山上小学校普門院内に設立され、今年で創立百四十五年を迎えます。上杉鷹山公とその師である細井平洲先生が再会した「敬師の里」と呼ばれる山上地区にあり、紅花づくりや敬師太鼓などの活動を通じ、地域との深い関わり合いの中で先人への敬意や感謝の心を育んでいます。

関小学校は、明治十四年に関学校として創立され、今年で創立百三十九年を迎えます。児童数が十名と極めて小規模な中、地域に支えられ様々な活動を行っています。その中でも五十四回となる「吾妻清掃登山」は内外から大変注目されており、青少年育成国民会議や日本善行会全国表彰など様々な表彰を受けております。

統合に向けては、両校とも地域の核として住民から親しみを持って支援されている学校であり、地元住民からは統合による地域に及ぼす影響が極めて大きいという意見が多くありました。しかし、学校は子どもたちが社会に出ていくために必要な力をつけていく場であり、集団



米沢市立関小学校

の中で切磋琢磨してほしいという保護者の願いに地域が寄り添う形で統合に向けて進むこととなりました。

具体的には、それぞれ統合準備委員会を組織し、学校を統合するにあたっての様々な課題について協議を行い、子どもたちのためにより良い教育環境を提供できるように準備が進められました。

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため両校児童の交流事業がなかなか実施できませんでした。少しずつ取り組みを進めているところであります。

今後は、統合後の子どもたちに十分配慮しながら、充実した学校生活を送られるよう引き続き支援を続けてまいります。

### 【挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり】

#### 西吾妻山×天元台×白温泉エリア

#### リポーンプロジェクトについて

本市の山岳観光拠点である西吾妻山・天元台高原・白布温泉エリアは、古くからの温泉地として、また、冬のスノースポーツ、夏の登山・トレッキングなどのレジャー施設として、これまで本市の観光誘客において大きな役

割を担ってきました。しかし、人口減少やレジャーの多様化などの影響により、年々観光客の減少が進み、個々の組織による経営努力だけでは、それに歯止めをかけることが難しい状況となっていました。

この状況を打開するため、地元及び関係団体・行政が一体となり、このエリアを次世代に残せる魅力あふれるエリアに再生（リポーン）するためのプロジェクトに取り組むこととなりました。国の地方創生推進交付金を活用しながら、令和二年度から五か年をかけ、ハード・ソフト両面から事業を展開し、地域の魅力を磨き上げ賑わいを取り戻すことで稼ぐ力をつけ、五年後には継続的・発展的に自走できる体制の構築を目指します。

具体的な事業計画としては、広報宣伝プロモーションを最も重要な柱と位置付け、初年度に事業全体の羅針盤となる戦略策定を行います。その上で、エリアの魅力を広く発信するため、SNS等も活用しながら効果的な広報プロモーション活動を展開し、継続的な誘客拡大に繋がっていきます。

西吾妻山・天元台高原エリアでは、パノラマ遊覧用圧雪車キャビンの導入等の拠点整備事業により、周年を通じて様々なアクティビティを満喫できる高原リゾートを

目指します。

白布温泉エリアでは、古き良き日本に魅力を感じる日本人が、「これが落ち着いた懐かしい温泉街の理想だね」と感じる白布温泉をコンセプトとし、地域の文化・歴史・伝統（遊び）を伝承し、お客様と繋がりを持ちながら魅力を伝える人材「白布遊人」の養成事業や、統一した景観形成を図る事業を行います。あわせて、温泉街の新たなシンボルとなる源泉かけ流しで回転する「湯車」の整備や、電動アクティブレнтаサイクルの導入等、これまでにはない大胆な発想のもと、積極的に誘客事業に挑戦していきます。

これらの事業の取り組みにより、このエリアに再び賑わいを取り戻すことができれば、他の地域・事業にも波及し、本市全体の活力のあるまちづくりに繋がることが期待されます。試行錯誤を繰り返しながらも、地域の方を存分に発揮し、地方創生のモデルケースとなれるよう、関係者一体となり事業を進めてまいります。



天元台高原

# 長井市

## オンライン成人式の開催について

長井市では、例年お盆時期の八月十五日に成人式を開催しています。コロナ禍である今年は、山形県内の三十五市町村のうち夏時期に成人式を実施してきた二十二市町村で延期が決定される中、長井市では、ウィズコロナ時代に生きる成人としての自覚と地域に対する感謝の気持ちを醸成することを目的に、オンライン成人式を開催いたしました。

例年、長井市の成人式は、長井市民文化会館を会場として実施し、内容としては、新成人の代表者挨拶や市長及び来賓の激励の言葉で構成されています。また、会場をタスパークホテルに移して、参加者が一堂に会して酒席を囲み、学び舎での思い出や将来の夢について語る場としての新成人のつどいも併催していました。

令和二年度の参加対象者は二百八十六名。オンライン成人式第一部の式典では、参加者が、ビデオ・ウェブ会議が可能なオンラインツール「Zoom」を利用して参加

することとし、第二部では、別のオンラインツールである「Renju」を利用し、少人数毎のテーブルを自由に行き来しながらの交流会を楽しみました。

当日の様子をご紹介しますと、まず式典開始前に、新成人が生まれた年である平成十二年から、現在に至るまでの長井市の歩みをまとめた映像と、長井市長や市民からのお祝いメッセージの映像、そして長井市の未来をイメージした映像を配信いたしました。式典の本番は、令和元年度から大規模改修を行い、約一年間の工事期間を経て、令和二年七月十七日に完成したばかりの長井市民文化会館からの映像配信となりました。初めに、長井市出身のオペラ歌手である梅津碧さんが、市民歌を斉唱。その後、オンライン上での成人者代表二名による市民憲章唱和、成人者全体に対しての成人証書授与、画面を会場に移し、市長の式辞、祝電をいただいた方の名前の披露、来賓・主催者の紹介と続き、最後に、オンラインによる新成人代表者の挨拶で締めくくりとなりました。

新成人の代表者挨拶は、現在東京都で学生生活を送る代表者が、東京都中野区の自宅からモニター越しに決意を語りました。「先が見えない状況に不安を覚える一方で、一歩ずつでも前に進む努力が試されている。それぞ



れの夢へ確実に歩んでいきたい」という言葉は、このコロナ禍で新成人となる者を代表した、力強いものとなりました。

また、閉式の前には、オペラ歌手の梅津碧さんに再度ご登場いただき、新成人へのエールとして、歌唱による歌のプレゼントをいただき、その後閉式となりました。

この式典の様子は、動画共有サービスであるYouTubeでライブ配信を行い、新成人のご家族や一般の市民にもご視聴いただきました。

第二部の交流会は、前段でも述べた「Reno」というオンラインツールを利用して行いました。このツールは最大六名毎のグループに分かれ、グループ間を自由に移動して懇談することができ、市から事前に送付された、地元のお酒やおつまみを手元に、新成人と恩師とがオンライン上で、思い出話に花を咲かせました。



この度のオンライン成人式に際して、長井市長からは「皆さんにはウイズコロナの時代にもたくましく歩む力が備わっていると信じている。大いなる志を持ち、輝かしい未来を切り開いてほしい」と新世代への期待の言葉が述べられるとともに、「挑戦する心構えを持ち続け、自分の人生を切り開いてください」と、新成人一人一人の未来に対してのエールが送られました。

この度の成人式では、式の中止や延期を求める市民からの意見もあったところですが、多くの新成人がオンライン上で参加し、また、YouTubeでのライブ配信によって多くの市民の皆様にもご覧いただき、共に成人式を祝う事ができました。今後、新型コロナウイルスの感染が落ち着いて段階で、改めて新成人が集う機会を設けることとし、この度の成人式を終了いたしました。

## 長井市のデジタル化推進における取組について

令和二年度を初年度とする今後五ヶ年の目標や施策の方向を策定した、国の第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「未来技術は、まち・ひと・しごと」のあらゆる分野において、住民の生活の利便性と満足度を高める上で有効であり、地域の魅力を一層向上させることができる。そして、どの地域にも未来技術の活用がチャンスがある。特に課題を抱える地方においてこそ、導入を進めることが重要であることから、地方における未来技術の活用について、「強力に推進する」とされており、本市の第二期長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略では未来への取組において、「未来の新技术を活用するとし、ICTを最大限に活用することによって、人々に豊かさをもたらす社会 Society5.0の実現」を目標にAI、IoTといった最先端のデジタル技術や、超高速・低遅延・多数同時接続を特徴に持つ、第五世代移動通信システム5Gなどの最新の通信技術の活用が不可欠であり、これらの未来技術を行政でも民間でも活用していくこととする機運づくりと、実際に活用できる場となる環境づくりを努めていき、未来技術によってたらされる豊

かさを実感できる取り組みを展開していきます。

本市の Society5.0 を実現するため、令和二年七月一日から、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の派遣制度を活用し、月四回程度、東日本電信電話株式会社からデジタル専門人材の派遣を受けており、派遣される人材と連携し、同社山形支店からも本市の取組を支援いただいております。

併せて、長井市総合政策課内に若手職員中心のデジタル推進室を設置し、デジタル専門人材と一緒に、本市のデジタル化に資する活動をしております。

デジタル推進室の会議では、デジタル化への検討と共にICTに関する勉強会も実施し、先進事例などを学習した上で、従来の視点では到達できなかったアイデアの創出を推進しております。また、デジタル化の一環として、Web会議やペーパーレス化にも積極的に取り組んでおり、若手職員からICTの活用を推進しております。

今後は、新市庁舎建設に伴う AI-OCR や RPA (Robotic Process Automation) を活用した業務の効率化や5G、ローカル5Gの導入などを検討していきます。

引き続き、Society5.0の実現に向けて、デジタル専門人材と共に活動してまいります。

## 南陽市

### 子育て環境が充実！

公益社団法人米沢有為会の皆様には、常日頃本市、市政発展にご協力いただきありがとうございますことに、衷心より感謝申し上げます。

今年開園した沖郷双葉保育園、来年度にオープン予定の多機能型重症児者通所事業所「まなびのへやバンビーナ南陽」のほか、公式LINE等の情報発信、都市計画道路赤湯停車場線（三間通工区）事業認可、主要地方道山形南陽線板宮工区事業着手決定についてご紹介いたします。

### 沖郷双葉保育園開園

令和二年四月一日、南陽市の玄関口である赤湯駅西側の閑静な住宅地の一画に、南陽市の新たな保育施設である沖郷双葉保育園が開園しました。

この保育園が設置された場所は、土地区画整理事業により従来の農村集落から一変し、子育て世代の方々の転居・転入が多く見られる住宅街となった地域です。この

地域を含む沖郷地区には、保育を必要とする子どもたちのための施設として市立こぼと保育園がありました。三歳未満の児童を受け入れる施設ではなかったことから、現在の保育需要にどう対応するかが喫緊の課題となっていました。

この課題を解決するため様々な検討を行ったところ、公募により同地区に民間保育園が設置されることとなり、それに伴いこぼと保育園を閉園することにいたしました。これにより、0歳児からの一貫した保育を提供し子育て環境の充実を図る施設が整備されることとなりました。

沖郷双葉保育園は、延べ床面積一四〇一・一一㎡で定員一三〇名の認可保育園であり、鉄骨造ながらも内装にはふんだんに木材を使用した木のぬくもりが感じられる建物です。子どもたちがのびのびと自由に遊べる遊戯室をはじめ、ロフトや広々とした落ち着きのある絵本コーナーなども備えています。そして、特筆すべきは園舎の南側に設けられている園庭で、専門家の指導のもと、単に遊びの空間というだけでなく、子どもたちが小さな経験を積み重ねながら、必要な能力を自然に身につけられるよう工夫を凝らした園庭となっております。

また、この保育園には、地域子育て支援センター「こぼとキッズ」を併設し、子育ての不安や孤立化を防ぐための保育士等による相談の場や、親子同士の交流を図れる場の提供を行っております。

今後、この保育園と子育て支援センターが、本市の新たな地域の子育て支援の拠点の一つとして、子どもたちの笑顔があふれ、地域の皆様方にも末永く愛される施設となることを期待しております。



沖郷双葉保育園

多機能型重症児者通所事業所「まなびのへやバンビーノ南陽」

近年、医療の進歩により、出生時に疾患や障がいを抱える多くの子どもの命が救われるようになった一方で、気管切開からの痰の吸引や、胃ろうからの経管栄養など、医療的ケアを必要とする子どもたちも増えてきており、その適切な支援が自治体に求められております。

現在、南陽市を含む置賜地域では、重度障がい児、とりわけ「医療的ケア児」を受け入れる環境は十分とは言えず、保護者の中には、その施設を求めて長時間の送迎をしなければならぬ状況にあり、受け入れ施設の整備を求める声が多く出されておりました。

そのため、本市では、医療的ケア児の通所事業に積極的に取り組まれている社会福祉法人ヴォーチェ様に施設の誘致を打診し、施設整備の支援を行ってまいりました。

現在、建設が進められている多機能型重症児者通所事業所は、定員が二十五名で、障がいのある未就学児童が、生活の自立のための支援を受ける「児童発達支援」と、十八歳以上の障がい者に対し、日中、施設での入浴・排泄・食事等の介護など身体機能や生活能力の向上のための援助を行う「生活介護」、そして、学校に就学している障

がい児の学童保育といわれる「放課後等デイサービス」、これら三つの機能を併せ持つ置賜で初めての施設であり、令和三年四月に開設予定となっています。

施設が整備されることにより、子どもから大人まで、切れ目のない医療的ケアが可能になり、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、これからも障がい福祉の充実に努めてまいります。



まなびのへやバンビーナ南陽 外観イメージ

### 公式LINE等の情報発信について

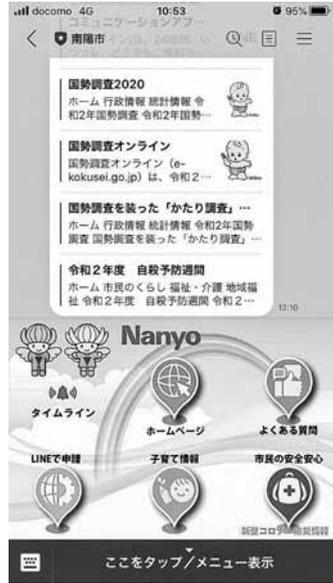
南陽市では行政情報発信の新しいプラットフォームとして、令和二年三月一日からLINEアカウントの活用

を始めました。

行政からの情報発信はどの自治体でも苦勞しているかと思いますが、本市においても同様です。市報は「重要な情報がある」のに、「行政の情報は面白くなく」、「常に必要な情報があるわけでない」のでなかなか読んでもらえないというジレンマを抱えています。さらに、紙ベースの情報にはタイムラグがあり、全世帯に配布されても、世帯員全員が市報を見るところは限らないという避けられない課題があります。つまり、行政情報の発信は「市報」だけでは不十分であると考えます。

そのような状況から、段階的に情報発信ツールを増やしてきた経過があります。私たちが情報を得る為に利用するツールで一番身近になったものは何だろうかと考えた時、多くの方が「スマートフォン」と答えると思います。今や個人における所有率は六十四・七％であり(出典:総務省「通信利用動向調査2018」)、当然ながら行政広報においてもスマートフォンの利用を念頭に考えなければなりません。

この背景から、平成三十年度にホームページ(以下「HP」)をスマートフォン対応へ改修し、合わせてフェイスブック(以下、「FB」)記事をHPでアーカイブ化しました。



南陽市公式LINE

HP内にFB記事の目次を作り、情報をすぐに取り出せるようにしました。

次に取り組んだのが、多くの方がコミュニケーションツールとして利用しているLINEに着目し、公式アカウントを開設しました。市側としてのLINEの有効性は、伝えたい情報をプッシュ型で送ることができることにあります。詳しい情報はHPを作り、LINEではリード文、リンクを載せるだけです。市民に知って欲しい情報を直接送られることが、最大のメリットです。LINEの中にHPを埋め込むことで、より手軽に市の情報にアクセスできる環境を構築したことにより、HPのアクセス数が倍増しました。また、タイムラインで随時更

新し、FBと同様日々の出来事をLINEでも発信しています。

LINEは一見ハードルの高い市の情報を、友達、家族とのやり取り同様の身近な感覚で伝えることができるツールであるため、引き続き情報発信のプラットフォームとして活用していきます。

**都市計画道路赤湯停車場線(三間通工区) 事業認可について**

都市計画道路赤湯停車場線は、本市の玄関口であるJR赤湯駅から中心市街地を通り赤湯温泉、一般国道十三号を結ぶ極めて重要な幹線道路であり、山形県で街路整備事業を進めていただいております。

平成二十六年五月には東側である赤湯工区(L11六六〇m)が完成し、例年本道路を活用したワインフェスティバル等のイベントには多くの観光客が訪れ、賑わいをみせております。

現在、整備を進めていただいております二色根工区(L11四六六m)は、平成二十五年、二十六年と二年連続の豪雨により吉野川が氾濫し甚大な被害が発生したため、花見橋の架け替え工事を優先して進めていただき、令和



都市計画道路赤湯停車場線

元年十一月に開通し、着実に安全で快適な街路整備と魅力ある街並み形成が進んでおります。

また、今年四月にはJＲ赤湯駅までの整備計画延伸となる三間通工区（L＝三九三m）の新規事業化が認可され、市民の期待され、市民の期

待も大いに高まっており、新工区の早期整備実現へ向け、地元協議会の立ち上げに向けて準備を進めているところです。

今後とも、山形県と地域との連携を密にしながら整備促進に努めてまいります。

### 主要地方道山形南陽線（板宮工区）事業着手決定

主要地方道山形南陽線は、山形市を起点に国道三四八

号と重用し、本市北部地区を縦貫し、国道三九九号に接続する総延長三十一kmの幹線道路であり、沿線住民の唯一の生活道路としてのみならず、国道十三号の代替路線として緊急輸送道路に指定されている重要な路線です。

しかしながら、金山地内の板宮集落及び吉野地内の居残沢集落の現道は、未だに幅員が狭小で歩道もなく、交通安全上極めて危険な箇所となっております。

昨年三月に山形県県土整備部で策定していただいた「山形県道路中期計画2028」において、金山・板宮工区が二〇二三年までの事業着手を決定していただき、一日も早い着工を切に望んでいくところです。



主要地方道山形南陽線板宮工区

## 高 畠 町

### 人材育成

「夢や志を持ち、活躍する若者を増やすために」

～ 東京外国語大学スタディツアー ～

東京大学フィールドスタディ ～

近年、若者世代において、近所付き合いや世代間交流の減少により、地元のことを深く知る機会が年々減ってきています。その結果、高畠町のがよく分らない、地元にはやりたいことがないと思いつき込み、都会に進学、就職し、地元を離れてしまう若者が多い現状にあります。将来の生き方や働き方等、人生をどう過ごしたいのかというキャリア形成には、本人の意思はもとより、周囲の大人の考え方が大きく影響すると考えられ、周囲の大人が地域に対する価値感を改めて見直し、伝えていくことが大切です。ずっとここに住み続けたい、町外に住んでいても高畠町を応援したい、いつかは帰ってきたいと思う若者を増やすため、高畠町の良さを伝え、誇りや愛着を持ってもらおうと、大学と連携したフィールドス

タディツアーを実践しています。ほんの少しですが、その取り組みについてご紹介いたします。

平成三十年にスタートしたこの事業は、東京外国語大学・東京大学の学生を受け入れ、地域住民や地元学生、町内企業と協働学習を通し、地域づくりを牽引する人材育成へと結びついています。また、当町に継続的に関わる「関係人口」の創出を図ることも目的としています。具体的には、連携協定を締結している東京外国語大学留学生と日本人学生）や東京大学の学生を受け入れ、地域でのフィールドワークや企業見学を通して、地方が抱える地域課題や魅力を探求し、持続可能な将来像について考察を行いました。

産業活性化及び海外展開に向けたアプローチとして、JETRO山形の協力も得ながら、町内の食品製造業の企業を何社か訪問し、輸取出引の現



ワークショップ

状のヒアリングと製造過程を見学させていただきまし  
た。それを受けて、斬新な視点で輸出戦略の立案を行い、  
受入企業に対しプレゼンテーションを行いました。今後、  
更なる海外輸出への後押しに繋げていきたいと考えてい  
ます。

また、その他にも同様に、商店街活性化のためのフイ  
ールドワークとして、いわゆる「商店街のキーマン」と  
呼ばれるような「名物店主」にお話を伺い、現状の課題  
をヒアリングし、商店街活性化プランを提案しました。  
こちらも実現に向けて今後の取り組みが期待されるとこ  
ろです。

そして更に、大学  
生と地元中高生との  
交流する時間（本事  
業のプレゼンテーシ  
ョン発表や特別授業  
等）を持ち、東京か  
らあるいは留学生の  
目から見える地域の  
魅力を伝えること  
で、地域を見直す契



企業訪問

機にも繋がりました。

本事業に取り組む中で、大学生は地域の魅力や課題に  
ついて学び、自分のふるさとについて考える契機となっ  
ているようです。また、町民は自分たちだけでは見落と  
してしまふ町の魅力、価値を大学生のプレゼンテーショ  
ンから再認識し、まちづくりへの関心を高めることに繋  
がりました。残念ながら、コロナ禍の影響で現在は一時  
休止の状態です  
が、今後は台湾国  
立海洋大学のスタ  
ディツアーを計画  
しております。よ  
りグローバルな視  
野から地域が抱え  
る課題に挑戦し、  
そして地域の魅力  
を発見すること  
で、夢や志を持ち、  
活躍する人材育成  
に繋げていければ  
と考えます。



報告会

## 川西町

### 川西町新庁舎整備

現川西町本庁舎は昭和三十四年に建設され、六十一年が経過しました。この間、昭和四十五年川西町中央公民館内に教育委員会を設置したほか、昭和五十七年に第一分庁舎（旧川西町農業共済組合）を、平成五年に第二分庁舎を、平成二十八年に川西町交流館内に生涯学習課を設置し、町民サービス機能の維持に努めてきました。

一方、現本庁舎は、平成二十六年度に実施した耐震診断において「震度6強で崩壊、倒壊の可能性が高い」との診断結果が示されました。

平成二十三年の東日本大震災、平成二十八年の熊本地震では、自治体の庁舎が損壊し機能が低下する事態が発生し、発災時において業務継続が困難となる可能性が改めて認識されました。

加えて、施設や設備の老朽化による安全面への影響、施設の分散化やスペースの狭隘化による町民サービス機能の低下、高齢者や障がい者等に配慮した機能の不足など、多くの課題を抱えています。

これらのことから、新庁舎の整備は、重要かつ喫緊の課題であるとの認識のもと、町では平成二十七年年度から

庁舎建設基金の積み立てを行ってまいりました。

そのような中、国では平成二十九年年度に発災時に業務継続に支障が生じる恐れがある市町村役場の建替えに対する支援制度として「市町村役場機能緊急保全事業」を創設しました。

平成三十二年度までの期限付き制度であることから、町民の生命と財産を守る拠点となる役場庁舎を整備しつつ、将来の財政負担の軽減を図るため、本町ではこの制度を活用して新庁舎の整備を目指すこととしました。

平成二十九年十一月に「川西町新庁舎整備基本計画」を策定し、基本理念を

「町民の安全・安心を守り協働のまちづくりを推進す



建設中の川西町新庁舎（令和2年7月撮影）

## る拠点」

と定め、理念を具現化するため、基本方針として次の四項目を設定しました。

- 一 町民の暮らしを守る庁舎
  - 二 町民にひらかれた利用しやすい庁舎
  - 三 ひとと環境にやさしい庁舎
  - 四 効率的で機能性・経済性の高い庁舎
- また、基本方針に則した基本的機能も定め、具体的な内容を定めました。主な内容は、次のとおりです。

- 一 町民の暮らしを守る庁舎
  - (1) 耐震性・安全性の確保
  - (2) 防災機能の確保
- 二 町民にひらかれた利用しやすい庁舎
  - (1) 行政機能の集約
  - (2) 情報発信・交流機能の充実
  - (3) 議会の機能の向上
- 三 ひとと環境にやさしい庁舎
  - (1) ひとにやさしい機能の充実
  - (2) ユニバーサルデザインの導入
  - (3) 省エネルギー・省資源への配慮
- 四 効率的で機能性・経済性の高い庁舎
  - (1) 執務環境の効率化
  - (2) 建設・管理コストの縮減

また、同計画では、新庁舎の建設計画も定めており、新庁舎の配置計画、新庁舎の規模、新庁舎の構造、新庁舎の建設地を示しています。特に、新庁舎の建設地については現在地から移転し羽前小松駅からの距離、交通アクセスの利便性、フレンドリープラザとの一体性及び将来の川西町全体の発展が期待できるJR羽前小松駅東側にある川西町フレンドリープラザ隣接地となりました。

平成三十年には、新庁舎整備実施設計が完成しました。概要は次のとおりです。



川西町新庁舎完成イメージ

(1) 敷地概要

① 敷地面積 一一、四五三、八九<sup>二</sup>m<sup>2</sup>

(2) 建物概要

① 新庁舎

・ 構造階数 鉄筋コンクリート造地上三階建

・ 建築面積 二、〇三五、一二、三<sup>二</sup>m<sup>2</sup>／延床面積四、四三四、三六<sup>二</sup>m<sup>2</sup>

② 車庫・エネルギー棟

・ 構造階数 鉄骨造平屋建

・ 建築面積 五八八、七五<sup>二</sup>m<sup>2</sup>

③ 防災倉庫棟

・ 構造階数 鉄骨造平屋建

・ 建築面積 一五三、〇〇<sup>二</sup>m<sup>2</sup>

新庁舎整備における、これまでの主な経過は次のとおりです。

(1) 平成二十九年年度

① プロポーザル方式による新庁舎建設の基本設計

・ 実施設計の事業者の決定

② 外部等の委員による新庁舎整備検討委員会の設置

(2) 平成三十年年度

建物設計関係

① 計三回の町民ワークショップ等行いながら、

様々な意見を反映した新庁舎建設の基本設計・実施設計の完成

土地関係

① 測量・造成設計の完成

② 地盤調査の実施

③ 建設地の取得

④ 造成工事の開始  
建物建設関係

① 新庁舎等建設事業者の決定

(3) 令和元年度

土地関係

① 造成工事の完成

建物関係

① 新庁舎、車庫・エネルギー棟、防災倉庫棟の建設開始

② 外構工事実施設計の完成

新庁舎等は、令和二年度中の完成に向けて工事を進めております。新型コロナウイルス禍が新庁舎整備に影響を及ぼすのではないかと危惧したところですが、現時点においては、大きな影響は無く順調に進んでいるところです。

今後は、外構工事、初度調弁の整備等を行い、令和三年五月初旬の開庁を目指してまいります。

## 【川西ダリヤ園六十年】

川西ダリヤ園は本年で六十年を迎えました。本園は、昭和三十五年九月二十一日に現在の置賜公園ハーブガーデンの場所で開園し、平成十一年に現在の敷地内でリニューアルしました。今では、約4haの敷地内に六百五十種十萬本のダリアの花が咲き誇る日本最大規模の観光ダリア園となりました。

六十周年を迎える本年は、本園が開園した日である九月二十一日に「ダリヤモンド・ジュビリー・シンボルデー」と称し、記念セレモニーを開催しました。セレモニーは、事前にダリアを使った特大のアレンジで会場を装飾した上で行いました。このアレンジは、制作過程において来園者にも参加いただきました。セレモニーでは、本園の開設にご尽力された故高梨萬吾氏をはじめ、川西町ダリヤ会や県立置賜農業高等学校、歴代のダリヤ園栽培主任など本園の運営に貢献された個人や団体に感謝の意を込めて顕彰や表彰を行いました。川西ダリヤ園の六十年は、多くの方の支えによって迎えられたと改めて認識しています。

本園では、ダリアの普及にも力を入れています。毎年

数々の新品種が誕生し、現在、四十種類以上の川西産ダリアが園内に咲き誇っています。近年では、それらの品種を川西町のオリジナル品種の切り花として流通させる取り組みが始まりました。市場・農協・生産者・行政等の関係機関が一体となって取り組み、ブランド化する品種が選定されました。今後は選定された品種の本格出荷に向けて事業が進められます。

本園は、六十年の歴史の中で多くの方の協力と歴代の関係者による尽力により、今では六万人程の来園者を迎えられる施設となりました。今後もダリアの普及に努め、たくさんの方々に愛される川西ダリヤ園を目指して参ります。



60周年記念表彰者

## 小国町

### 白い森ブランド構想の発展

#### 町全体で稼ぐ仕組みづくりの広がり

本町が有する豊かな自然、生活文化、多様な人材などが生み出す農林水産物や伝統文化、町内企業の生産品や教育、子育て、福祉、防災などの暮らしやすさという視点を含め、町全体をまるごとブランド化し、住民満足度の向上と町外における小国町の認知度の向上を図り、地域経済の発展を目指す「白い森まるごとブランド構想」。この町民一体となって推進している取り組みを紹介します。

#### ○小国町地域総合商社設立

町では、「白い森まるごとブランド構想」を展開する戦略的な機構となる地域総合商社の設立準備を進めてきました。地域総合商社は、まだ眠る地域資源を掘り起こし、既にある地域資源を磨き上げながら、小国町の魅力ある地域資源を上手く活用して「みんなで稼ぐ」ための新しい仕組みです。

平成三十年度に、その中心となる経営戦略責任者を全国から公募し、応募総数三百九十六名から渡邊創一氏を

選考し、これまで魅力ある商品づくりや販路の確保、多様な事業者や生産者との連携など「稼ぐ仕組み」づくりに取り組んできました。このたび地域総合商社の経営戦略を確立したことから、株式会社小国町地域総合商社を設立し、代表取締役に渡邊創一氏が就任されました。

六月二十六日には設立総会を開催して事業計画の報告等を行い、いよいよ商社事業が動き始めています。

小国町地域総合商社で力を入れている新商品をご紹介します。

「白い森の白いわらびもち」(次ページ①)

小国町産のわらび粉を使用し、白い雪をイメージした白いきな粉を振りかけています。そのまま食べてもアイスなどにのせても美味しい素朴な甘さです。

「ホワイトチョコの雑穀ソフト」(次ページ②)

町に降る雪をイメージし、ホワイトチョコベースのソフトクリームに町内産の雑穀パフを振りかけました。雑穀の香ばしさと食感、ホワイトチョコとのハーモニーをお楽しみください。

「白い森のきのこハウス」(次ページ③)

椎茸やきくらげなど、その時期にあったきのこを菌床で栽培するキットです。白い森をイメージした可愛い段ボールハウスで、椎茸は五日ほど、きくらげは二週間ほどでのきのこが出始めます。

「大宮神社 産魂（むすびだま）」（同ページ④）  
 神社境内の木々を使用し、町内の木工加工所、毛糸作家とコラボレーションで完成した、安産を願い、にぎり、お祈りする御守りです。



「赤パンツ」（同ページ⑤）  
 東京巢鴨のマルジとコラボレーションしたパンツ。縁起のいい赤パンツに白い森のロゴマークをデザインしており、プレゼントにぴったりなパンツとなっています。これからも続々新商品が発売される予定です。ご注目ください。

### ○白い森まると塾

町では、「白い森ブランド構想」を町民一体となって推進し、町民の皆さんに稼ぐ力をつけていただくために、全国各地からビジネスや特産品開発、マナー、販売促進など、さまざまな分野の一流の講師を招きながら、これまで「白い森まると塾」（以下「まると塾」という）を開催してきました。

まると塾はこれまで計十三回開催しており、延べ四百人を超える方々に受講していただいています。テーマは商品開発や販売促進、ソーシャルネットワークサービス（SNS）を使った宣伝など多岐にわたっています。また、「働く」ことを社会人と一緒に考える高校生向けの講座を開催するなど、幅広い年代の方々を対象にしています。次ページにこれまでの講座を掲載しています。

平成二十九年十月に開催した第一回目では、白い森まると塾ブランド構想の推進に向け、小国を訪れたお客

## これまでのまるごと塾の演題と講師

- ①あなたの気づきが…おもてなし！ アスクE.S 渋谷寿子 氏
- ②OGUNI・de・フレンチ～フレンチレシピ講座～  
Bistro COLORIS オーナーシェフ 川瀬彩 氏
- ③小国のたからものを売れる商品に (株)生産者直売のれん会 伊藤拓哉 氏
- ④地方創生の要となる地域商社 (株)日本政策投資銀行 中村郁博 氏
- ⑤商品開発と販路拡大について (株)生産者直売のれん会 伊藤拓哉 氏
- ⑥単なる安さに頼らない!! 納得価格のつくり方  
河合中小企業診断士・社会保険労務士事務所代表 河合正尚 氏
- ⑦ソーシャルメディア・動画の活用で売上げをグッと伸ばす！  
イーンスパイア(株)代表取締役 横田秀珠 氏
- ⑧働トーク (株)ジョブウェブ 新田卓 氏
- ⑨小さくても強い会社になる方法 意食充(株)取締役会長 石井宏和 氏
- ⑩今日からできる！手書きPOP講座  
手書きPOPデザイナー 遠藤みさき 氏
- ⑪ブランディングのためのPDCAサイクル  
(株)ファームフェス 取締役CEO 岡崎慎祐 氏
- ⑫クラウドファンディングをやってみよう！  
(株)CAMPFIRE キュレーター 竹内一平 氏
- ⑬地元食材が輝く商品開発と全国にファンをつくる仕組み  
(有)寿々瀧 代表取締役 鈴木将 氏

様に対して、町民一人ひとりがおもてなし役であるという意識を醸成するため、おもてなしをテーマにまるごと塾を開催しました。講師の渋谷寿子氏からは「小国に訪れた人に小国を好きになってもらうためには、町民の皆さん一人ひとりのおもてなしが大変重要になる。一人ひとりの仕事ぶり、応対こそが白い森の商品である」という話をいただきました。

また、今ある商品をどのように販売していけば売れる商品になるのかといったことについて、(株)生産者直売のれん会コンサルティング事業部長の伊藤拓哉氏から講演をしていた際には、「小国には美味しいものがあるのに、知名度が低い」、「どこで誰に売ればいいのかわからない」、「新商品を開発しても売れない」などといったさまざまな悩みを抱える方々に対するヒントやアドバイスもいただいています。

まるごと塾では先に紹介したテーマのほか、消費税増税に向けた対策、販路拡大に向けたヒント、商品やサービスの価格設定の方法、SNSを用いた集客方法などすぐにビジネスに活かせるようなテーマを設けています。



高校生を対象にしたまるごと塾も開催しています

道の駅では、数多くの商品で手書きPOPを活用



また、幅広いテーマを扱う中で、これまでで出会うこと  
 のなかった考え方や発想など、新鮮な話を聞くことで事  
 業経営の視野を広げていただくとともに、それを自らア  
 レンジしながら実践していくことで、それぞれの知識や  
 経験が積み重なり、町全体の発展につながっていくので  
 はないでしょうか。

道の駅白森おぐくに駅長の竹内健太さんは、「まるごと

と塾は、販売者にとっても役立つことが多くあります。手書きPOPは、実際に道の駅の直売所などで実践しています。以前はパソコンで作っていましたが、味のある手書きでPOPをつくることで、それだけで差別化ができます。また、まるごと塾を受講したことで、値段を下げて勝負するのではなく、商品そのものの良さをいかにお客様に伝えていくかが重要だと学びました。今後は、小国のいい商品にいかにつ加価値を付けて販売していかれるかが、重要になると思います。新直売所ができ、道の駅も少しずつ変わり始めています。道の駅は、町民と来訪者の交流が生まれる施設だと思います。町内外の人たちの交流の拠点になれるように頑張っていきたいと思いますので、ぜひ皆さんも道の駅に足をお運びください」と話してくださいました。

まるごと塾に参加して、講演で聞いたことや体験したこと全てを実行に移すのは難しいかもしれません。しかし、このように少しずつ実践していくことで成果も出てきています。

### ○町経済の振興・発展のために

まるごと塾を町と共催している小国町商工会の佐藤勝則商工振興課長は、「小国の人はものづくりや、食品等の生産に長けている一方、販売促進やPRが不慣れだと

感じています。商工会では、そうしたPRのきっかけづくりとして、それぞれの事業者の売り出したものをまとめた『自慢の逸品カタログ』の製作に取り組んでいます。それが、それらを消費者に買ってもらう地域の潤いにつなげていけるかが重要になります。自分の強みを明確にし、それをどのようなチャネルで売り込んでいくか。また、地域で買い物をするのが地域の活性化や地域振興につながりますので、町民の皆さんが地元経済循環を考えた。きっかけにもしてほしいです。事業者と町民が、それぞれの立場で地域の振興を図っていければと思います。商工会では、これまで同様に、事業者に寄り添いながら経営支援を行うとともに、新しいチャレンジに対しても支援を行っていきたいと思います」と話してくださいました。

まるごと塾を通して得た学びや気付きを実践されている事業者も多くいますが、やるかやらないか、最後の一步を踏み出すのはビジネスを展開する方々の決断になります。

町では、町内事業者に稼ぐ力をつけていただくため、まるごと塾を含めたさまざまな取り組みを展開しながら、住民満足度の向上と地域経済の発展を目指していきます。

## 白鷹町

白鷹町は、山形県の西部、置賜盆地の北部に位置し、東西約十七km、南北約十六kmのほぼ正方形に近い形をしており、町の中央部を南から北に貫流する最上川をはさみ、西は朝日連峰、東は白鷹丘陵に向けて盆地が形成されています。

本町は昨年十月に生誕六十五周年を迎え、その記念すべき年の五月に「白鷹町まちづくり複合施設」の供用が開始されました。本施設は構造材から仕上材までふんだんに町産材を使用しており、全使用木材数量一、七一二㎡のうち、約



七十五％（一、二七七㎡）が町産スギ材です。町産材は冬季間の降雪による根曲がりのため、調達可能な寸法が限られています。しかしながら、長年、豪雪地帯の厳しい環境に耐えてきたためか、強度・剛性には全く問題ないどころか優位性があることが確認されています。この町産材を最大限有効活用するため、調達可能な材の寸法から逆算し、大部分に平角材の合わせ梁を取入れるという工夫を凝らしています。

### 【完成に至るまでの経緯】

この整備事業は、昭和三十九年に建設された旧役場庁舎、昭和四十八年に建設された旧中央公民館の老朽化に加え、東日本大震災で浮き彫りとなった耐震上の問題など災害時への対策機能の確保と、町産スギ材の活用による森林・林業の再生の三つの観点により進めてまいりました。平成二十五年、二十六年に発生した豪雨災害で、荒廃が進んだ森林が土砂とともに市街地へと押し寄せたことを教訓に、単なる施設整備にとどまらず、戦後植林したスギ材の活用や町内製材業の復興など、町が推し進める「森林・林業の再生」に向けた一大プロジェクトとなりました。

整備にあたっては、町民ワークショップを開催するなど、多くの町民の皆様からご意見をいただき、取入れ



ながら進めてきました。町民の皆さんに伐採現場を体験してもらい、実際に町産材に触れることにより、幅広い年代層の方々へ町産材の特性や活用方法について、理解を深めるとともに、森林の持つ多面的機能の重要性についても再認識するきっかけとなりました。

また、本施設整備に先駆けて、地元企業の出資により、「おきたま木材乾燥センター株式会社」を設立。乾燥センターの整備により、安定して町産材を利用することが可能な体制が整えられました。製材・加工に至るまですべての工程を町内業者が請け負ったことにより、町内業者の技術力の高さが再認識され、大工などの職人の育成に繋がるとともに、新会社の設立により新たな雇用創出にも寄与することとなり、町内全体の活性化に繋がりました。



施設に入ると、町民ラウンジを中心に、図書館、中央公民館、庁舎が繋がります。まるで森の中にいるようなぬくもりを感じながら、子供たちが集まり、遊んだり、勉強をしたりしています。新しい図書館の利用者も順調に増えております。今後も、長く多くの町民の方々に愛着を持って使っていただける施設になることを願っております。

結びに、これまで施設整備に当たり、ご指導・ご協力をいただきましたました林野庁、山形県をはじめとした関係各位、設計者、工事関係者の皆様、そして事業にご理解いただきました町民の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 飯 豊 町

### ◆ながめやまバイオガス発電所始動

令和二年七月、飯豊町添川地区に家畜排せつ物等を使用した「ながめやまバイオガス発電所」が完成しました。この施設は、東北おひさま発電株式会社（長井市）が運営し、バイオマス原料となる家畜排せつ物は、隣接する眺山地内の五畜産業者が提供します。肉用牛の家畜排せつ物による発電所としては全国初となります。

### ◇バイオマス産業都市とSDGs 未来都市

平成二十九年十月、飯豊町は家畜排せつ物を使用した「バイオガス発電」、および町内の豊富な森林資源を活用した「木質バイオマスの熱エネルギー」の取り組み目標が認められ、国が推進する「バイオマス産業都市」に認定されました。平成三十年六月には、「SDGs 未来都市（※1）」にも選定され、エネルギーの自給自足を含めた「持続可能なまちづくり」に向け、取り組みを進めています。



全体図（写真提供：東北おひさま発電株式会社）

## ◇バイオマス発電プロジェクト

日本三大黒毛和牛「米沢牛」の四割を生産する本町において、家畜排せつ物等を原料とした「バイオガス発電事業プロジェクト」は、畜産振興や自給エネルギーの側面だけではなく、環境保全、改善、地域資源の活用、循環型社会の実現において、重要な取り組みです。原料となる家畜排せつ物は、隣接する肥育牛舎、繁殖牛舎、酪農牛舎からパイプラインで原料槽に搬送されます。バイオガス発電は嫌気性発酵（※2）であることに加え、家畜排せつ物を畜舎からパイプラインで直接搬送することで、外気との接触を最小限にし、排せつ物の臭いの抑制を図る周辺環境に配慮した仕組みとなっています。また、副産物として生じる液肥は、隣接するがめやま牧場で活用し、発酵の残りかすは畜舎内の敷料として再利用できることから、資源の循環利用となります。

## ◇バイオマス発電の仕組み

隣接する畜産農家の牛舎から地下パイプラインで牛ふんを原料槽に投入し、液肥に処理する過程で発生するバイオガス（メタンガス）をガスエンジン発電機に送り、それを燃料として発電します。発電能力は五〇〇キロ

ワットで、発電量は年間約三六〇万キロワット時（一般家庭の約九〇〇世帯分）になり、町内の半分から三分の一を賄えるため、今後、町内の家庭での電力利用が可能になれば、畜産業者と電力会社の連携が町おこしにつながり、米沢牛の品質の向上と生活・住環境の向上、経済効果、社会的効果、さまざまな面で効果が見込まれます。

※1. 二〇一五年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、二〇一六年から二〇三〇年までの国際目標

※2. 空気（酸素）を必要としない状態で活動する微生物の働きによって発酵する過程のこと

## ◆いいで型エコハウス完成

町の移住定住促進事業の一つとして、樺地区内に整備され昨年十一月に分譲を開始した「エコタウン樺」。その一画に、高い水準の高断熱・高気密性能を備え、飯豊町での暮らしに合った「飯豊型エコハウス」のモデル住宅が完成しました。町内の資源や人材を活用し、持続可能な地域経済の循環を目指します。

## ◇いいで型エコハウスの特徴

### ◎家計に優しく環境に配慮した家

国が示す断熱基準の住宅より高い断熱性能と気密性能を備え、年間の暖房の使用量で比較すると約半分で過ごせるレベルです。少ないエネルギーで冷暖房の効果を得られるため、全国的に見て家庭の年間エネルギー支出が高い山形県においても、家計に対するエネルギー支出を抑えることができません。



### ◎身体に優しく家族の生命を守る家

空気が循環する構造になっているため、リビング、寝室、お風呂場、トイレなど、家の中の温度差が少なく、どこにおいても快適に過ごせます。寒い日にお風呂に入ることなどによって起こる「ヒートショック」(血圧の乱高下や脈拍の変動)の予防や高血圧の予防など、家族の生命・健康を守り、末永く快適な暮らしを提供します。

### ◎資源と伝統技術、地産地消の家

県産木材をふんだんに使用し、素材や気候を熟知した地元工務店が施工にあたる地産地消の住宅で



す。この地で育まれてきたモノ、技術を取り入れた「飯豊型エコハウス」を通じて、地域の資源と経済の循環を促進します。

◎飯豊町の景観にマッチした家



飯豊町は田園散居集落景観を特徴とし、「日本で最も美しい村」連合に加盟する自然豊かな美しい町です。飯豊型エコハウスは屋根の形状、外壁の色彩や県産木材の使用率などを定めたガイドラインを設けることで、高性能住宅でありながら飯豊町の自然に溶け込み、未来にわたってその美しい景観を守り、次の世代に残します。

◆新型コロナウイルス感染症に関する町の独自事業

昨年十二月に中国で感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、わずか数カ月で日本を含む世界全体に流行が拡大しました。県内でも三月三十一日に県内一例目となる感染者が確認されて以降、七十八名（九月末現在）もの感染者が確認されています。不要不急の外出の自粛、小中学校の長期間の休校など今までに経験のない対応を余儀なくされ、「人との距離の確保」や「マスクの着用」、「手洗いの徹底」は現在も継続されています。

飯豊町では、新型コロナウイルス感染症流行に伴い、外出や企業活動の自粛要請により町民の所得減少や消費の低迷が予測され、業種職種を問わず多くの方に影響を及ぼしていることを踏まえ、町民や町内企業が安心して暮らしているよう支援策を提供しています。今回は実施済みの一例を紹介します。

◇学生生活支援事業・いっぴのりひんぐの推進事業

学生生活支援事業では、県外に居住する飯豊町出身の大学生や専門学校生等五十二名へ、五、〇〇〇円相当の

町内産の食材を中心とした食料品を発送しました。受けた学生からは、後日「思いがけない贈り物が届いて大変うれしかった」、「同封の飯豊町プロモーション映像のQRコードから早速映像を見て、より一層故郷への帰省が楽しみになりました」とメッセージをいただきました。

また、いいでゆりの里づくり推進事業では、町内全戸にゆりの球根を配布しました。町内にある「いいでどんでん平ゆり園」が今年度は開園しないことになったため、自宅でゆりの花を楽しんでもらおうと企画しました。八月中旬には、各家庭のゆりが色とりどりの花を咲かせました。



### ◇「ユズ」のマルシェの開催

新型コロナウイルス感染拡大により売上が減少している農家等を支援するため、ユズコロナ時代に対応した朝市を継続的に開催していくことで町の経済を循環させ

ていくために、いいで朝市等プロジェクト事業を企画しました。公募で選ばれたNPO法人みらいいで（堀江守弘代表）が主催し、七月二十六日と九月五日に「いいでみらいマルシェ」が開催されました。七月の開催では町内農産物の販売を中心に十三店舗が出店し、二〇〇人を超える来客があり、距離を保ちながら人と人とのふれあいや賑わいを感じられるイベントになりました。九月の開催では、町内外から町内農産物やハンドメイド小物販売、楽器演奏など二十九店舗のブースが並び、前回以上にお客様と出店者の掛け合いを楽しむ姿が見受けられました。



## 二〇二〇年度 置賜地区高校生

### 「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

私たちの住む置賜地域は人口が次第に減少していき、そのまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、「地方消滅」さえ懸念されます。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか、二年後に進学・就職を迎える高校二年生にとっては、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。

このような趣旨から「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第三回小論文コンテスト」を高校二年生を対象に実施いたしました。応募された生徒の皆さん、そしてご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。今年にはコロナ禍の影響で夏休みも短縮され、応募者減が心配されましたが、応募総数は二二三点とこれまでで最も多く、大変喜んでおります。小論文を読みますと、資料編を活用し自分の体験や知見を基にして、郷土の未来や自分の生き方を個性豊かに表現し、趣旨に沿

った小論文を書いてくれました。

ここでは、審査の結果、受賞された最優秀賞一点、優秀賞四点を掲載します。

令和二年十月二十五日

高校生小論文コンテスト実行委員会

### 二〇二〇テーマ

「郷土の未来と私の生き方を考える」

## 優 秀 小 論 文

最優秀賞 山形県立小国高等学校 二年 保科 奈緒

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

山形県立米沢興譲館高等学校 二年 星 麟太郎

米沢商工会議所会頭賞

山形県立米沢東高等学校 二年 佐藤 萌

米沢・置賜経済人クラブ会長賞

山形県立米沢興譲館高等学校 二年 二瓶葉津子

米沢信用金庫理事長賞

米沢中央高等学校 二年 山口 藍果

## 小国町と私の未来

山形県立小国高等学校 二年

保科奈緒

中学生の頃の私の夢は、高校卒業後、早くこの町を出て行くこと。まさに、資料2の県外転出者の一人になることだった。また、資料1からは自治体消滅の可能性が示唆されている。最も可能性が高いのは小国町だ。当時の私は、小国町の少子高齢化の問題は、全くの他人事で関心が無かった。

しかし、今の夢は、この小国町で若者が盛り上がれる野外フェス（フェスティバル）を復活させて地域を活性化すること。真逆だ。私が激変した理由は何か。そこに活性化の糸口があるはずだ。

野外フェスを初めて知ったのは、小学校一年生の時だ。自然豊かな峠の広場で、音楽と飲食と交流を満喫するこのイベント。私は、親戚に駆り出されて渋々行った。し

かし、そこで衝撃を受けた。町外・県外・海外から来た人・人・人。大人たちから次々と話しかけられる。私は、話すのが苦手だったはずだが、フェスが終了した頃には、このイベントに魅了されていた。特に人と関わる楽しさと大切さを強く感じた。小国町は最高だと思った。

それが、いつの間にか、「人・地域・自然」よりも「覚えること」「町外に出ること」が私の中で重要になった。中学三年の時に、野外フェスがなくなると聞いても、残念だな、でも自分には何もできないな、としか思わなかった。

これが、大きく変化したのは、小国高校の「白い森末来探究学」がきっかけだ。授業時間だけでは足りず、課外でもフェスの運営者に話を聞いてみた。また、小国町はおもしろい町なのに、なぜ町外に出て行くのか、調査した。そこで出た課題がいくつかあった。解決の鍵は「若者が楽しめること」なのではないか。そう考えた私は、小国町の人も都会の人も楽しめる野外フェスを復活したいと思った。

しかし、高校生の私一人では、実現するのは困難だ。だから、大人に私の夢を話してみた。そしたら、たくさんの人が賛同し、協力を約束してくれた。不安が強い希

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

私と地域の将来をより良くするために

山形県立米沢興譲館高等学校 二年

星 ほし

麟太郎 りんたろう  
麟太郎

望に変わった。「地域みらい留学365」のオンラインフェスタで、このことを発表したところ、参加してくれた高校生からも共感を得られた。嬉しかった。

この経験から、地域活性化のためには、自分の夢を地域の大人と実現できる環境や、オンラインで全国の高校生と繋がる必要があると考えた。オンラインと直接対面を併用するのだ。その環境は、誰かが創り出すものではない。自分自身が行動して創り出すものだ。

今年、感染症流行の影響で、研修旅行の中止も懸念された。しかし、熊本県立小国高校との交流が実現しそうだと聞いた。九月中旬には、オンラインで交流が始まると言う。お互いの地域探究について、刺激し合えるのが今から楽しみだ。

このコロナ禍において、小国町は、高齢者を守るため、若者の感染予防の意識は高かったと思う。高齢者を大切にできる小国町をますます好きになった。繋がりを大切にする小国町で、イベントを復活させ、みんなの笑顔を見て、私も幸せに生きていきたい。

徐々に人口が減少する置賜地区。分析によると、二〇四五年の人口は二〇一五年と比較して三十八パーセントも減少するということだ。このまま人口減少が進めば置賜地区の市町が単独で残れなくなってしまうかもしれない。私達の地元を守り抜くために何ができるだろうか。

資料から、高校卒業者の約五割が進学就職のために県外に出ていくこと、若年層の県外転出者数が人口減少の大きな要因になっていることが分かる。都市部と比較すると、大学も就職先も非常に少ないこの土地に住む高校生が、県外へ行きたいと考えることは、もっともな考え方であると思う。「田舎に居ても、進学先も就職先も無い」

と。しかし私は、進学等で都市部で学んだこと、実際に都市部で生活して得た経験や考え方を基に、地元で新しい企業を立ち上げたり、教師としてさらなる未来を担う子供達を育てたりすることなど、自分の得たものを地元で活かしていくことが、人口減少に歯止めをかけることにつながると考える。

私は中学校二年生の時に職場体験をした。自分が思っていた以上に、米沢には多くの就職先があるということに気づいた。置賜地区に就職先がないわけではないのだ。職場体験終了後、自分達の体験を発表する機会があり、多くの人から「とても温かく接していただけた」、「米沢のために少し貢献できたように思う」などの感想が挙がった。私は職場体験を行ったり、産業や企業の説明会を開いて、置賜地区にはどれくらい就職先があるのか、地域に残って仕事をやる利点などを多く紹介して自分の住む地域への関心を高めてもらったり、地元で就職することの不安を払拭してもらうことがとても大事であると思う。また、私たち若者自身も積極的に地域を知ろうと関心を持つことも大切だ。

私は将来、県外の大学に進学し、卒業後教師として米沢に戻ろうと思っている。県外での暮らしを経験したか

らこそ気づく地元の良さが必ずあると思う。私は、教師として勉強だけでなく、そのようなことも伝えられるようになりたい。しかし、自分の将来のために県外へ進学、就職することは仕方のないことだ。このようなことも考慮して、地元就職を一つの選択肢にしてもらえようように郷土愛を育んだり、地域の現状を確認して関心を深める学習展開や実際に地元に戻り就職している方々に、地元就職の良さを聞く機会を設けるなど、教育現場から若者に地域貢献をアプローチしていきたい。

私はこの文章を書くまで、地元について深く考えることが無かった。少子高齢化の影響で人口減少が進んでいることに気づいてはいたが、具体的な減少数値は分かっていたしなかった。私は、今まで県外の大学に進学して県外で教師になろうと考えていたが、県内で教鞭を執るという新しい考えを持つことができた。地方消滅に歯止めをかける、人口減少を食い止めるために、私たち一人一人ができることは非常に小さなことであると思う。しかし、地元を守る意識を多くの若者が持てば、地元を守ることでできる可能性は大きくなる。自分と地元の将来の両方をより良いものにするのは容易なことではないが、小さな一歩でも少しずつ地元へ貢献していきたい。

## 郷土の未来と私の生き方を考える

山形県立米沢東高等学校 二年

佐藤 萌

私は今、将来看護師になるべく日々勉強に励んでいる。私の住む置賜地方は少子高齢化の影響により、労働人口が減る一方で医療を必要とする高齢者が増えている状況である。故郷の先の見えない状況に危機感や不安を持ち始めた今、将来少しでも地元へ貢献するためにはどう行動すべきなのかを考えることにした。

現在、県外へ流出する若者の割合は五十%以上と高くなっている。流出する主な理由は、今の山形県では学ぶことができないシステムや環境が県外に充実しているためである。この先の日本の将来を担う若者が先進的な技術や知識を学ぶために県外に出ていくのだ。しかし、この状況はデメリットだけではない。県外には学ぶ環境が多く整っているからこそ、県外で学んだことを地元を持ち帰ってきてもらい地域を活性化させるチャンスになると思う。だからこそ、これから力を入れ取り組むべきな

のは、子育て支援の拡充、交通の整備を進め、県外へ進学・就職した人たちが帰って来たい、住み続けたいと思える街づくりを行うことだ。

また、少子高齢化が進む山形県を充実した環境にしていくには、教育や医療など様々な活動を支援していく必要がある。例えば、私たちに一番深く関わる教育では、授業の一環で地元の良さや特徴、歴史を学ぶ機会を設けて郷土愛を強めて意識してもらおう活動をする。幼い頃から慣れ親しんだ故郷だからこそ、良さを十分に理解してもらうことで地元を大切にしたいと思う心を養うことが可能になると思う。他にも、医療は山形県にとって、避けては通れない分野である。少子高齢化の問題によって看護や介護を必要とする人口も増加していくと考えられる。また、最近流行している新型コロナウイルスなどの感染症の点から考えても医療体制について、しっかりと対策を取らなければいけないと思う。具体的には、医療従事者の人数を増やして個人の負担を軽減させたり、全ての地域で子供の医療費を免除して子育てしやすい、早期治療しやすい環境を作っていくことが必要だと思う。高齢者にはかり目を向けるのではなく、地元に残った若者への支援についても忘れてはならない。充実した環境

にするには、そこに住む全ての人が住みやすい街にすることが大切だ。

私はこれからの山形県に必ず必要になる「医療」の分野に携わる看護師として、また山形県の未来を担う若者として、今ある山形の良さと課題を自分なりに考えながら生活していきたい。そして、自分の考えを心に留めておくのではなく、周りの人や他の地域の人と互いに話し合い、また時には、自分なりにアクションを起こしてみたいと思う。少子高齢化、若者の県外流出はすべて悪として認識してしまうのではなく、山形県としての課題を見直す機会だと前向きに捉え、山形県のさらなる発展につなげていけるよう他人事と思わず県民全体の問題として取り組んでいきたい。また、私自身は県外・県内どちらに進学しても、身に付けたスキルを大好きな地元で発揮できるように精一杯勉強に励んでいきたい。



米沢・置賜経済人クラブ会長賞

## 地方創生で拓くふるさとの未来

山形県立米沢興譲館高等学校 二年

二瓶菜津子

年々日本では出生率が減少しており、少子高齢化が問題となっている。また、地方では、若者の流出が続き、人口減少に拍車を掛けている。この置賜地区も例外ではない。資料から、二〇一八年の山形県における十八〜二十四歳の転出超過は二六九八人であり、全体の転出超過の約八割を占めていることがわかる。この現状に歯止めを掛け、私たちの地域を守っていくにはどうすれば良いのだろうか。

私は、まず地域振興による雇用の充実に着目した。米沢興譲館高校では一年時からそれぞれ興味のある分野の研究活動を行っていて、私は米沢の観光の現状や魅力を考える活動をしている。この活動を通して、米沢市は食を中心とした特産品、上杉神社など歴史的な観光地やイベントが多いことを知った。しかし、それを活用した店

などはあまり知られていない。住んでいる私たちですら調べてみて初めて知ったものも多い。また、駅から観光地までの交通が不便で、観光スポット同士の間の距離も離れているため、観光客が足を運びづらくなっているのではないかと推測した。そこで、まず宣伝に力を入れて米沢の魅力を広める。そしてイベント期間中にバスの増発、タクシーやレンタカーなどの思いきった割引を行い、交通機関を充実させて交流人口を増やしていくことが課題解決への一歩になると考えた。観光業や特産品に関わる産業における雇用の拡大につながり、若い力を得て企業活動が活発になり、新たな集客スポット、イベントなど観光事業に着手しやすくなるなどの好サイクルが生まれるのではないだろうか。

次に、進学・就職による若者の流出に着目した。現在、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえてオンライン授業が行われる大学が多い。これを活用し、地方の学生が自分の地域にいたまま都会などの学びたい大学の講義を受けられるようにすべきだと考えた。もちろん、大学内での研究を行う人が多いので、それぞれの学生のニーズへの対応が必要となる。同時に、地方と都市部の大学、企業の連携を強化させることも、課題解決に効果的であ

る。また、働き方の観点でも、便利だが通勤などの弊害を抱える都会に対し、地方ならではの豊かさをアピールすることで若者のUターンの促進が期待できる。このようにして東京など都市部への若者流入・人口集中を防ぎながら、多くを学び、かつ地域密着型の活動も行いやすくなる。その結果、将来的に地域で働く人材確保につながるのではと考えた。

若者流出を避けることは、高齢化が進む地域社会の大きな支えとなり、「地方消滅」の抑止に貢献するはずだ。私たちがすべきことは、まず、既にある道をただ歩むのではなく、自分たちの手で切り拓いて創っていくという志を持つことだ。一人ひとりが自分の地域の魅力や課題を知ろうとし、できることは何かを考えなければならぬ。また、地域のボランティアや行事に積極的に参加し、学校などの枠を越えて若者で地域を盛り上げようとすることも大切だ。この置賜が将来も永久的に誇れる場所であり続けるために、私たちがから行動を起こしていこう。未来は少しずつでも変えていける。

米沢信用金庫理事長賞

## 郷土の未来と私の生き方を考える

米沢中央高等学校 二年

山<sup>やま</sup>口<sup>ぐち</sup>藍<sup>あい</sup>果<sup>か</sup>

少子高齢化に伴って私たちが住む地域も人口が減ってきている。その要因の一つに若者の流出があげられているが、若者の県外への進学などは止める術がなく、制限されるものではない。そのため、若者のUターンを促すような取り組みに力を入れるべきである。

資料3を見ると、県外への進学者数が圧倒的に多く、半分以上の割合を占めていることが分かる。私の周りにも県外への進学を考えている人は多いと思う。地元の大学では取得できない資格を取ることができたり、より多くの人と関わることで経験や知識を得ることを考えると、自分の将来へのメリットがいくつもあると感じる。だからこそ、それらを身につけた上で、知識や経験を地元発信して生かしていくことが技術や産業の発展につながり、地域全体の活性化を実現させることができる。

考える。

現状として若者の回帰率が低下している理由を考えると、半ば一方的に都会の生活が楽しく魅力的だと考えてしまう人は多いだろう。そこで、若者に地元で働きたいと思ってもらえるような取り組みを考える必要がある。

例えば、地元にはどんな仕事があるのかを知ってもらうことが重要だ。地元でも意外と知られていない仕事がある。その仕事の明確な情報、仕事での自分の役割ややりがい、どのようにして社会に貢献しているのかなどを伝えることで、地元の仕事についての具体的なイメージや興味をもってもらえると思う。

次に、地元企業や仕事と関わりを持つことだ。職業体験などを通して企業、仕事と接点を持つことで職業の視野が広がるため、より多くの企業、仕事に魅力を感じてもらえると考える。私も学校で行われた「ワクワクワーク」という職業体験の場を通して様々な職業について実際に作業してみたり、仕事の内容を聞いたりして初めて知ったことがたくさんあった。自分が知らなかった職業を体験することで、選択の幅が広がりとても良い経験をする事ができたと思う。また、地元企業の方々が講師として来て交流することでさらに地域間のつながりが

深まり、初めて見る県外の職場よりも安心感があり、なじみやすい環境を作ることができると思う。

資料5にあるように、現在山形県で行われている若者の定着、回帰に向けた取り組みの中には、山形県と首都圏大学とのUIターン就職促進協定があることを知り、このような取り組みがあることも視野に入れて考えていきたいと思う。特に就職活動時の交通費支援や住居費補助などが充実していくと、興味を持ってもらえるはずだ。もっと多くの人に様々な制度があることを知ってもらいたいと思う。

私は将来地元に戻り、働きたいと考えている。自然が多く、支え合って生活し、優しさと温かさが溢れる人々が山形県の魅力だと感じる。お互いに知らない人々でも道ですれちがったら自然と「おはようございます」や「おかえり」、「ただいま」といった挨拶が交わされるような和やかな雰囲気がとても好きだ。そんな地元をこれからも守り続けるために自分に何ができるかを考え、今も将来も地域に貢献できるように生活していきたい。

### 第三回小論文コンテスト表彰式

第三回「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』小論文コンテスト」の表彰式が十月三十一日（土）、伝国の杜置賜文化ホール大会議室で行われました。

今回は新型コロナウイルス感染症防止のため、大滝則忠審査委員長をはじめ東京・仙台在住の理事は出席せず、米沢支部の役員・会員が参加しました。

表彰式では、まず小論文コンテスト実行委員会の種村信次実行委員長が挨拶に立ち、「今年はコロナ禍の中実施できるか懸念したが、幸い置賜地区高等学校校長会のご快諾をいただき、応募者が二三名とこれまでで最大で大変ありがたく思う。置賜地区の人口減少が続く中、若い人たちに地域の将来や自分の生き方を考えてほしい」と趣旨を述べました。

表彰は、厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選五点が選ばれ、中川勝米沢支部長から受賞者十名に賞状と副賞が授与されました。

続いて、中川支部長が祝辞を述べ、「今後地域社会はどうなるのかしっかりと把握し、自分の人生の夢や目標に向かって一歩ずつ努力し実践してほしい。それが地域の

活性化に結び付いていく」と激励しました。

最後に、伊藤和夫副実行委員長が審査講評として「多くの意欲的な小論文作品を寄せていただいたことを大変意義深く感じた。コンテストの応募を契機に、地域が抱える問題状況を初めて知り、地域の未来や自らの今後の生き方について初めて考えたと述べる作品が多くあった」と述べ、併せて小論文の書き方について特に内容と表現力が重要で、資料を参考にテーマに即してしっかりと構成で書くとともに、提出前に誤字・脱字や不明の箇所がないか見直すことに注意を促しました。

なお、十名の受賞小論文は、審査講評・募集要項・資料を含めて、特別の別冊として発行され、出席者や高校など関係者に贈られました。



種村信次実行委員長挨拶



中川勝支部長より表彰

また、本号とホームページには最優秀と優秀の五点が掲載されていますので、ぜひご覧ください。



受賞者記念写真

## 審査講評

第三回小論文コンテストに、多くの意欲的な小論文を寄せていただいたことを、大変に意義深く感じました。郷土の現状と未来における課題は多く、その解決策を考えることはとても難しいものです。その中でも、自分の体験や知見を土台として、資料編を参考にしながら地域活性化の取組や郷土の良さの自覚・発信、Uターンの促進等々、様々な事例・提案が述べられています。それと併せて、希望の職業を考えながら、この地域で貢献したいとか、一度県外に出て学んで戻ってくるなど、今の段階で辿り着いた自分なりの解決策を提示し、まだまだ練り上げなければならぬとしても、そこに至った思考は価値あるものと思います。

コンテストへの応募を契機に、地域が抱える問題状況について初めて知り、地域の未来や自らの生き方について初めて考えたと述べる小論文が多くありました。この応募を機に生じた問題意識の灯を消さずに、今後何度となく繰り返し、どうすれば地域に貢献できるのか、住みたいと思える環境はどんなものか、考えてみて欲しいと思います。

審査を通して感じたことは、「いかに思いをきちんと伝えるか」を意識して書いているかどうか、その度合いによって論文の魅力や評価に大きな差が出てしまうことです。高校二年生がこのコンテストに取り組むこと自体が自分を磨く学習です。書き手の豊かな創造性にも関わらず、誤字・脱字、主語・述語の乱れなど、提出前に読み返す習慣があれば防げるものや、文字が薄く、また小さい文字で書かれて読みにくいものも見られ、他人が読むものと考えれば改善できるものも少なからずあったことを、念のため記録しておきます。

結びに、真摯に取り組んでいただいた応募者に敬意を表し、今後のご活躍ご精進をお祈りします。

# 置賜地区高校生「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

## 募集要項

### 一、趣 旨

少子高齢化と共に近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が確実に減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、「地方消滅」さえ懸念されます。様々な要因の一つに、高校生が進学・就職で県外に出て戻ってくる人が少ない「若者流出」があげられています。地域と私たちの未来はどうなるのか、二年後に進学・就職を迎える皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。本コンテストは高校生の皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願います。

「郷土の未来と私の生き方を考える」

### 二、20テーマ 三、対象者

### 四、募集小論文

置賜地区高等学校二年生  
募集要項の資料編を参考にして、テーマについての各自の考えを二二〇〇～一四〇〇字にまとめてください。(使用鉛筆はHB又はB)

各高等学校の担当者まで

各学校から主催者への提出締切 八月三十一日(月) 必着

最優秀賞一点 優秀賞四点 入選五点 及び副賞

十月下旬の予定 ホテルモントビュー米沢(米沢市門東町)

米沢有為会会長 大滝則忠 (元国立国会図書館長)

公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会

置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校長会 米沢商工会議所 米沢・置賜経済人クラブ

米沢新聞社 NCV 米沢信用金庫

### 九、審査委員長 十、主催・共催 十一、後援・協賛

第 3 回小論文コンテスト 資 料 編  
2020 年テーマ 「郷土の未来と私の生き方を考える」

はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、30年の長期的スパン（資料1）と、  
2018年時点（資料2）の二つの視点から見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口（10年毎）

西暦	2015	2025	2035	2045	人口変化率 2015～2045（%）
山形県	1,123,891	1,015,910	897,075	768,490	-31.6
米沢市	85,953	77,483	67,817	57,720	-32.8
長井市	27,757	23,918	20,160	16,377	-41.0
南陽市	32,285	29,017	25,494	21,762	-32.6
高畠町	23,882	21,131	18,214	15,115	-36.7
川西町	15,751	12,783	10,148	7,655	-51.4
小国町	7,868	6,059	4,517	3,220	-59.0
白鷹町	14,175	11,918	9,839	7,797	-45.0
飯豊町	7,304	5,956	4,755	3,620	-50.4
置 賜	214,975	188,265	160,944	133,266	-38.0

＜出典 国立社会保障・人口問題研究所＞

**置賜地区では、2045年の人口が2015年と比較して38.0%減少します。**

資料2 山形県の年齢別移動者の状況＜2018年(平成30年)山形県の人口と世帯数から＞

○表1 全年齢層の県外転入・転出者数 (人)

	県外転入[a]	県外転出[b]	転出超過[a-b]
2018年	14,763 (6)	18,018 (△215)	△3,255 (△221)

※ ( ) は対前年増減を表す。△表示はマイナス。

「県外転入」は県外からの転入を、「県外転出」は県外への転出を表している。

**2018年の本県の県外転入、転出状況は、3,255人の転出超過になっています。**

○表2 若年層の県外転入・転出者数 (人)

	県外転入	県外転出	転出超過
18歳	386	862	△476
19歳	587	1,060	△473
20歳	425	666	△241

21 歳	497	816	△319
22 歳	709	1,205	△496
23 歳	821	1,311	△490
24 歳	594	795	△201
計	4,019	6,715	△2,696

<出典 山形県統計企画課>

**18～24 歳の転出超過は 2,696 人となり、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因になっています。**

**資料 3 山形県の高校卒業者の県外への進学・就職状況 <出典 山形県統計企画課>**

	卒業者数	大学等進学者数 (うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の割合
2018年度 (平成30年度)	9,943 名	4,501 名 (3,227名)	2,994 名 (704名)	7,495 名 (3,931名)	52.4%
2019年度 (令和元年度)	9,849 名	4,390 名 (3,038名)	2,933 名 (648名)	7,323 名 (3,686名)	50.3%

**高校卒業者のおよそ 5 割が進学・就職で県外に出ていきます。**

**人口減少の一因である「若者流出」の状況を統計データで見ましたが、これに歯止めをかけるさまざまな対策が講じられています。最後に、それらの取組を紹介しましょう。**

**資料 4 置賜圏域の将来像・・・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例**

置賜圏域は、歴史的背景や地理的要因から、行政区域を越えて生活圏を共有し、経済、教育、文化などの面で深いつながりを持ちながら発展してきた。これまで圏域内の各市町は、それぞれが活力ある地域づくりを実現するため、様々な取組をしてきたが、人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後もこうした傾向は続くものと予測される。この状況下で、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要である。こうした認識のもと、置賜 3 市 5 町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指す取組を行う。それが「置賜定住自立圏」というもので、米沢市が「中心市」、2 市 5 町が構成市町となり協定を締結し、共生ビジョンに基づいて連携事業を推進する。具体的な取組として①生活機能の強化（医療、福祉、教育、産業振興、環境、水道、消防・防災）、②結びつきやネットワークの強化（交通、移住・定住・交流）、③圏域マネジメント能力の強化（職員等の交流）の 3 つの政策分野で取組を行う。

<米沢市「広報よねざわ」 2019.5.1より>

## 資料5 若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

### 事例1 山形県と首都圏大学とのUターン就職促進協定 20大学と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一层の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。  
〈協定締結大学〉 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、国土館大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学

〈出典 山形県雇用対策課〉

### 事例2 山形県若者定着奨学金返還支援事業の実施

大学等へ在学の方又は進学予定の方を対象として、県と県内市町村が連携して、奨学金の返還を支援する事業。米沢有為会も市町村枠で実施。平成27年度から始まり今年度も継続。要件は日本学生支援機構の第一種奨学金（無利子）の貸与を受けている方又は受ける予定の方、米沢有為会の奨学生。大学等を卒業後6か月以内に、山形県内に居住かつ就業し、山形県内の助成対象分野に通算して3年間就業した後、申請し、助成対象者に認定された時点で返還金の一部の助成を受けることができる。

〈出典 山形県産業政策課〉

### 事例3 米沢三大学〈山形大学工学部・米沢栄養大学・米沢女子短期大学〉保護者対象の「米沢地域産業見学会」の実施

米沢商工会議所主催。保護者の方に米沢の産業・企業を知ってもらい、この地で生活する不安を払拭してもらうことによって、大学卒業後、地域に残り就職する選択を後押ししてもらうことを意図した企画。昨年度は17名参加。

### 事例4 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては地域学習の展開、職場見学・体験、インターンシップの実施など郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

### 事例5 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関〔米沢市・南陽市・高島町・川西町〕やハローワーク等との緊密な連携のもとに、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校3年生対象）や大規模な就職説明会（高校2年生420名参加、出展企業50社）、新規学卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。また、高校1年生を対象とした職業体験会の開催など、進学者を含め地元にいるうちに地元企業を知ってもらう事業についても展開している。（昨年度は2校計362名の高校生を対象に実施）

## 会員の広場

### 「句会・漆の実」の活動

当句会も、新型コロナウイルスの猛威のため低調に終了しました。二月までは開催しましたが、三月以降は状況が一変のため休会とし、六月に一旦再開したものの、会員の安全を考慮し年内は休止としました。それでも今年の三回の句会には次のような句が注目されました。

道着肩に現わるる娘や初稽古  
 (氏名・五十音順)

大田 甘美  
 片山 丹波

水切りの七八連や青葉風  
 小山八州史

柚餅子みな土の色かな春一番  
 佐野 眞

ときのけの街に卯の花腐しかな  
 濱田 扇風

一筆箋めいて紫陽花ひと葉散る  
 松原 薫子

笑む地藏四葩の径の青の濃さ  
 なお、長年にわたり力作を発表され、当会に絶大な尽力を下さった池田弁之助氏は体調管理のため一時休会

中。登坂かりん氏は所用が重なったため欠席されました。今年の特筆することは、「二〇一九年度・自選句集」が五月に刊行されたことです。

鈴木淳一主宰のご逝去のあとは、小山八州史がアドバイザーとして会員の協力のもと今日まで継続してきました。この自選句集から次のような佳句をご紹介します。

富士登頂風に諦め夏終る  
 大田 甘美

陽春や羅漢五百の人のいきれ  
 片山 丹波

縛りある缶の銭箱冬菜売る  
 小山八州史

夏の暮影法師追いてけんけんば  
 佐野 眞

檀家代表空席のまま彼岸寺  
 登坂かりん

枝渡る寒の小鳥の重みかな  
 濱田 扇風

嵐過ぐ港一変月凄し  
 松原 薫子

なお、本年二月、かつて句会の連衆として飄逸な句風、評論をもって楽しませてくださった松坂六儀氏ご逝去の知らせがありました。

ご冥福をお祈り申し上げます。  
 昼日中プールサイドで一寝入り  
 松坂 六儀

【小山八州史・報】

## 萬世大路が

## 「未来に伝える山形の宝」に登録

梅津 幸保

はじめに

令和二年二月五日、山形県庁において、吉村美栄子知事から萬世大路が「未来に伝える山形の宝」としての登録証をいただきました。萬世大路保存会として誇りに思っています。

改めて萬世大路のすばらしさを紹介します。栗子山の大自然の素晴らしい魅力と、明治の土木偉業の偉大さが感じられます。三島通庸山形県初代県令の土木県令と言われる所以でもあります。昨年とうほく街道会議が福島県担当で開催されました。そのときの講師平沼氏から廃道の聖地であると紹介され、廃道マニアはここを訪れなければマニアとは言えないとの指摘がありました。今年十月に萬世大路に関わる明治十四年開通の馬車の通れる隧道、昭和十二年の自動車道の大改築、昭和四十一年の冬季も通行可能な栗子ハイウェイ、平成二十九年開通の東北中央自動車道（高速道路）と四代の映像を取り入れ

たDVDを山形の宝登録を記念して制作しました。大好評で、二〇〇部は完売しました。今追加の手続きをしています。少し時間がかかると思いますが、希望者は事務局の万世コミセンにご連絡ください。（TEL・・・二三八―二八―五三八一。一部一〇〇〇円＋送料一八〇円振込用紙を入れて送ります。）

### 一 「萬世」という地名について

明治二十二（一八八九）年七月八日市町村制施行により、周辺の梓山村、桑山村、金谷村、堂森村、片子村が合併して萬世村となった。昭和二十九（一九五四）年米沢市と合併して米沢市万世町となる。平成十一（一九九九）年に片子地区が東部地区に編入され、刈安、梓山、桑山、牛森、堂森、金谷地区が万世地区となる。

### 二 「萬世」の由来

中国の古典に四書五経と言われる書籍があり、その中の尚書（教書）の一部に「萬世永頼惟汝功」という文章がある。これは明治天皇が三島通庸山形県令の栗子隧道開鑿の業績を大変良くできているとお褒めになった言葉である。明治天皇から明治十五年一月に新道を「萬世大路」と命名された。萬世という地名が明

治二十二年に初めてできた。

### 三 萬世大路の長さ

米沢市の相生橋から福島市まで約四十八キロメートルある。トンネルが三か所、橋が七か所ある。栗子山の高さは一、二一六メートルあり、標高八八四メートルのところには八六七メートル（四八二間）のトンネルを掘った。これが栗子山隧道である。その他に刈安洞門と二つ小屋隧道がある。橋は相生橋、吾妻橋（万世橋）、瀧の小橋、瀧岩上橋、杭甲橋、大平橋、烏川橋がある。

### 四 栗子山隧道について

明治九（一八七六）年十月十五日から一週間高木秀明土木課長らが現地調査。明治九年十一月二十五日工事着工する（完成予定は明治十年十一月とする）。当時のトンネル掘は手掘りであり、鉄のノミと金づちであった。幅三間（約五、三メートル）、高さ二間（約三、六メートル）であり荷馬車が通れる道路とした。勾配は平均九％であった。手掘りの工事は難航して進まなかったもので、三島県令は、世界に三台しかなかった蒸気削岩機を買い入れてダイナマイトを仕掛けて工事を進めた。結果は工事が進み、明治十三年十一月十九

日に貫通した。

その後一年をかけて沿道を整備し、明治十四（一八八一）年十月三日、明治天皇が東北御巡幸の時ここをお通りになり開通式を行った。今年で二一九年、初代の隧道。

### 五 宿場と交通の状態

栗子山隧道が完成したことにより、梓山に一軒、刈安に三軒、瀧の澤に一軒、栗子山隧道前に二軒の宿屋ができて繁盛した。当時の記録では、一日の交通量は人七十〜一二二人、荷車十〜二十七台、馬五〜十七匹で当時としては相当の賑わいであった（電気のない時代の真つ暗なトンネルをどのようにして通ったか）。

道路の補修や雪道の雪ふみには囚人たちが作業に当たった。それも西南の役で投獄された鹿児島の子島の先輩たちであった。三島県政を助けたといわれる。

### 六 鉄道の開通

福島〜米沢間の鉄道が開通したのは、明治三十二（一八九九）年五月十五日であった（栗子山隧道開通後十八年）。人、物資の輸送は鉄道に代わってしまった。それからは栗子山隧道を通る人はいなくなった（汽車賃のない人が歩いて通る程度）。宿も廃業となっ

た。

七 自動車の普及による道路改築

昭和八（一九三三）年になって自動車が普及したので、栗子山隧道の幅を広げて自動車が通れる道路に大改築した。昭和十二（一九三七）年三月に完成し自動車を通れるようになり便利になった（三十八年ぶりに栗子隧道が通れるようになった）。しかし、冬期間は除雪が間に合わず不通であった。二代目のトンネル。

八 現栗子ハイウェイの建設

米沢市にとっては冬期間も通れる道路が必要となった。国に働きかけて昭和三十六年から東栗子トンネルと西栗子トンネルを持つ現栗子ハイウェイの建設を進めた。五年の歳月がかかり昭和四十一（一九六六）年五月二十九日に開通した。今年五十四年目。三代目のトンネル。

九 東北中央自動車道の開通

現在の高速道路は東北中央自動車道として建設された。福島県相馬市から米沢、山形を通って秋田までの道路で、平成二十九年十一月四日に福島～米沢間が開通した。時間は今までの四十分から二十分で行けるようになり、無料の高速道路である。栗子トンネルは、

八九七二メートルあり全国で五番目の長さである。四代目のトンネル。

十 萬歳の松公園について

万世小学校の校歌の歌詞二番に「いにし明治の十四年十月三日の駐輦（ちゅうれん）をおおぎまつりしみ跡にていともとうとき庭なるぞ」がある。又、明治天皇が御休憩されたこの観音原（元万世小学校の庭）に、町村合併を記念して明治天皇御休憩跡地に明治二十二年、松の木を植えた。これが平成二十一年三月十七日に山形県景観重要樹木第一号に指定された萬歳の松である。平成三十年十一月四日市が都市公園として整備した。明治二十八年四月には『駐輦の碑』が建立された（輦は鳳輦と云って天皇のお車である）。

十一 記念碑公園について

平成二年十一月に開園された萬世大路記念碑公園（国道十三号刈安地区）には、萬世大路に立てられた明治天皇に関わる記念碑や工事改築の記念碑、栗子神社碑が移設されている。また、隧道の手掘りの跡のレプリカなどがある。そして、栗子隧道西口にあった「栗子隧道碑記」の碑は、平成三十年四月二十日に道の駅米沢に移設した。



※1 散策マップについて  
 萬世大路散策マップは萬世大路を楽しみながら散策できるよう、たくさんのお樹木や珍しい山野草も紹介しております。  
 (歴史の道土木遺産萬世大路保存会会長)



昭和12年大改築の栗子隧道西口



高橋由一画 栗子山隧道西口図  
 山形大学付属博物館蔵



平成29年11月4日開通の東北自動車道西口(米沢側)と避難坑口(左)



昭和41年5月29日開通栗子ハイウェイ西口

### 萬世大路 散策マップ

**日本の道路トンネル順位**

1位	山手トンネル	約16,300m	中央自動車道
2位	尾瀬トンネル	約11,000m	深谷自動車道
3位	黒川トンネル	約10,700m	東海北陸自動車道
4位	経路777トンネル	約9,600m	東京湾横断道
5位	栗子トンネル	約8,800m	東北自動車道
6位	栗子トンネル	約8,600m	東北自動車道

### 散策の魅力

- 明治の土木技術の粋がみえる
- 土木情令三島漁港の和歌が物語る
- 明治初期の人材が見えてくる
- 明治の隧道と植物のトンネルが並んで歩ける歴史
- 登った人同志の共有の景観
- 古道を歩く樹木・草花がすばらしい
- 全国内外からの来訪者との交流が図られる
- この道あつて栗子ハイウェイがあり、東北中央自動車道とつながって行く

**散策の魅力**

- 一山一川の美しさを堪能できる
- 明治の土木技術の粋がみえる
- 土木情令三島漁港の和歌が物語る
- 明治初期の人材が見えてくる
- 明治の隧道と植物のトンネルが並んで歩ける歴史
- 登った人同志の共有の景観
- 古道を歩く樹木・草花がすばらしい
- 全国内外からの来訪者との交流が図られる
- この道あつて栗子ハイウェイがあり、東北中央自動車道とつながって行く

**散策の魅力**

- 明治の土木技術の粋がみえる
- 土木情令三島漁港の和歌が物語る
- 明治初期の人材が見えてくる
- 明治の隧道と植物のトンネルが並んで歩ける歴史
- 登った人同志の共有の景観
- 古道を歩く樹木・草花がすばらしい
- 全国内外からの来訪者との交流が図られる
- この道あつて栗子ハイウェイがあり、東北中央自動車道とつながって行く

## 漆成分の研究に携わった長俊一

甲 國 信



横浜国立大学付属図書館蔵

日本の有機化学の黎明期における研究として、「漆成分の研究」が有名である。日本発の最初の本格的有機化学研究といつてよい。この研究は明治三十八年に東京帝国大学理科大学化学教室で、眞島利行助教（当時）と米沢出身の学生長俊一氏によって始められた。長俊一氏については、松野良寅著『興譲館人國記』<sup>(1)</sup>に紹介されているが、ここでは、そこに語られていない研究とその周辺を紹介する。

平成五年十一月、眞島利行東北帝国大学教授<sup>(2)</sup>を記念するシンポジウムが仙台国際センターで開催された。日本

の有機化学の黎明期における歴史的な研究と言え、「漆成分の研究（ウルシオールの研究）」をはじめとする先生の数々の業績に対しては、昭和二十四年文化勲章が授与され、近代日本の開拓者として高く評価されている。<sup>(3)</sup>

記念講演では、「眞島先生と日本の有機化学の夜明け」との題で、東北大学における最後の弟子である久保田尚志先生（大阪市立大名誉教授、昭和七年卒、学士院賞受賞者）が話された。<sup>(4)</sup> 久保田先生の講演は大変興味深いもので、眞島先生は有機化学を独学で勉強したこと、よちよち歩きをはじめた日本の有機化学が、世界と競争できるようになるには何が必要かを知るために、大研究の研究と称して世界の大家の論文を読み漁ったことなどが語られた。漆を研究対象に選ばれた理由は、日本の漆工芸の素晴らしさは世界に知られているので、世界の研究者から注目を得やすいと思っただけで、他国の研究者よりも材料の入手しやすさの点で有利と考えた点にあったということである。とは言え、精製しやすい結晶を対象にするのが普通の時代、敢えて油状物質を研究対象に選ぶことはかなりの冒険だったはずである。

### 眞島先生と卒業研究の学生長俊一

次に示した括弧内の文章は、久保田先生がスライドで

示した眞島先生の自伝の一部である。このスライドで私は長俊一氏を初めて知ることになった。

「私は明治三十九年の卒業生の時から、全部の学生が卒業前に必ず何か研究して其成果を発表することを池田教授に進言して其賛成を得て其の以降は之を行うことになった。之が漸次他の大学にも行われて今日に及んで居るのである。併し私の如き若輩の助教授には誰も指導を乞うまいと思ったのに、長俊一君が私の指導を受けることを申出られた。そこで漆の乾留<sup>(6)</sup>を長君の卒業研究として、同君と共に之を行つたのは甚だうれしいことであつた。上記の研究を遂行して、後に長君と連名で獨逸化学会誌<sup>(6a)</sup>、東京帝大理科紀要及び東京化学会誌<sup>(6b)</sup>等へ発表した。これが私の漆に関する最初の報告となつたのであつた。」

眞島先生の自伝の中で、特定の学生についてこれほど詳しく語られた箇所は他にない。

この長俊一という名前に長俊英元米沢市長（講演のあつた平成五年当時は高橋幸翁市長）との関連が頭をよぎつた。元市長の父上は、テレビジョンの研究で有名な浜松高等工業学校の校長をされた方と父から聞いたことがあり、電子工学関係の方と思つていたが、ひよっとする

と化学を専門とされたのかも知れない。講演を終えて降壇された久保田先生に長氏とはどんな方かお尋ねしたところ、東大時代のお弟子さんについては手がかりがなくてよくわからないとのこと。ひよっとしたら米沢の方かもしれませんと申し上げたら、君、調べてくれないかということになった。俊英氏に電話して久保田先生の講演のことを話し、父上かどうかをお聞きしたところ確かにそうだとこのことで、この時点で長俊一氏は私にとって長俊一先生となつた。郷里出身の有機化学の大先輩であるばかりでなく、曾孫世代ではあるが、私も眞島先生に繋がっているからである。久保田先生にはすぐに報告した。

長先生は明治十四年生まれ。明治三十二年米沢尋常中学興譲館を卒業後、仙台の第二高等学校に進み、さらに東京帝国大学理科大学化学科に進学、眞島先生と出会つた。卒業研究が行われた明治三十八年は、前年に始まつた日露戦争が続いており、また、夏目漱石が「我輩は猫である」を発表した年でもある。

長先生は良き指導者を得て、学部の卒業研究が世界の一流雑誌に掲載されるという、研究者としてこの上ないスタートを切り、明治三十九年春の卒業後は、引き続き大学院に進学し研究を続けた。しかし、指導教官の眞島

先生が翌四十年一月から欧州に留学することになり、同年四月に大学院を退学し広島高等師範学校教授として赴任した。

### 広島高等師範学校時代

十一年間の広島高師時代の先生について、資料を探したところ、国会図書館の所蔵資料に六冊の著書があった。<sup>(7)</sup>『普通教育 化学教科書』<sup>(7a)</sup>は広島に赴任して三年後に書かれた。本業の傍ら、中学生対象の教科書を執筆した動機は、自身の中学時代には適当な理系の教科書がなく、理解するのが困難だったことと、化学の先生の熱心な指導により、化学の道へ進むことを決めるに至ったことにあつたと思われる。

教科書を執筆するには、教えたい項目の取捨選択をしなければならぬ。化学の分野全体を俯瞰する目と見識が必要な作業であり、当時弱冠三十歳の先生がこれを成し得たことに驚きの念を禁じ得ない。さらに五年後、教科書の内容を深く理解できるように、千二百ページの参考書「参考近世化学講義」<sup>(7c)</sup>を出版、いかに教育に本腰を入れていたかが窺える。

### ウルシオール研究のその後

長先生との研究により漆の成分の化学構造に見当をつ

けた眞島先生は、留学先でも漆の研究を続けた。さらに、最終的な構造決定に必須になるはずの当時最新の実験法であったオゾン分解、接触還元等の実験法を習得し、実験装置を持ち帰った。明治四十四年一月帰国。東北帝国大学理科大学教授に任命され、化学科の設立に関わり、その業務が一段落した翌四十五年初めウルシオール研究を再開した。先生と共同研究者の奮闘の結果、大正七年までにウルシオールの構造が明らかになった。

### 横浜高等工業学校時代とその後

大正九年、長先生は新設された横浜高等工業学校に応用化学科の教授として赴任した。新任地では研究ができた。広島では教育に専念した先生ではあるが、研究への思いは止みがたかつたのだろう。対象に選んだのは、研究が世界で始まって間もない油脂である。

しばらくして先生は欧米諸国を視察し、ドイツに留学した。このドイツ留学中の大正十二年九月一日に起きた関東大震災が、先生の研究者としての将来を奪うことになった。子息の俊英氏によると、この震災で研究データを焼失してしまい、研究者としての将来を諦め、昭和二年文部省督学官に転身したとのことである。歯車が順調に回り出した矢先、またしてもの不運である。

昭和四年、有為会の座談会に招かれた先生は、当時米沢から人材が出なくなつたのは教育に欠陥があるからではないかと取りざたされていることについて、教育の普及に伴い、勉学の意欲に乏しいものまでが親に頼まれるようにして高等教育を受けるようになってきているが、大学を出たらずくに要職につける時代ではなくなつたことを認識すべきであると、時代の変化に注意を促し、さらに自身の世代の勉学意欲について触れ、(廃藩置県で俸禄を失い貧窮した)士族の子弟が勉学して身を立てようとした。そもそも決心が違つていた。親も応援したが、それでも勉強ばかりしていられた訳ではなく、米を搗いたり畑を耕したり、家の手伝いをするのがあたりまえだつた、と語っている。(8) 幕末・明治前期生まれの目に映つた明治後期生まれの像が興味深い。時代の大きな変化が見て取れる。

昭和七年、長先生は浜松高等工業学校の第三代校長として教育の現場に戻つた。昭和十一年には広島高等工業学校に移り、第二代校長として七年間厳しい戦時体制下の高等教育に心を砕き、学生には紳士教育を徹底し、研究者としての自覚と自学自習の態度の養成を力説、得点主義を排し、実力主義時代に適合する人材の育成を主眼

として教育に当たつた。(1) 昭和十八年六月、在職中に六十一歳で急逝した。校誌は「(前略)強健にして記憶力の正確、透徹したる理性と相俟つて尚将来に期待せらるる処多大なるものありしに今や虚し。謹みて哀悼す。」と校長の死を悼んでいる。

このたび有為会誌への寄稿を思い立つたのは、久保田先生が亡くなられ、ウルシオール研究という日本の有機化学における歴史的研究に、米沢出身の長先生が携わつた事実を知る者が筆者だけになつてしまい、何もしないと、郷里の先人の足跡が埋もれてしまふと思つたからである。

眞島先生の下で、研究者として順調なスタートを切つた長先生は、何事もなければそのまま研究者の道を進んだものと思われる。巡り合わせにより教育者となつてその道を全うした先生ではあるが、眞島先生の東北大での直弟子から、文化勲章受章者二人を含む逸材が輩出していることを考えると、(2)もし最初の弟子である長先生が研究者の道を歩き続けていたら、との思いを禁じえない。

最後に、資料の収集に便宜を図っていたいただいた広島大学図書館、横浜国立大学付属図書館、日本化学研究会に感謝する。

(仙台支部長・東北大学名誉教授)

文献と注

- 1 松野良寅『興讓館人國記』米沢興讓館藩学創設三百年記念事業実行委員会 平成十年
- 2 明治四十四年三月東北帝国大学理科大教授。昭和八年一月大阪大学教授、十八年一月大阪帝国大学総長
- 3 昭和四十三年に明治百年を記念して文藝春秋と中央公論がそれぞれ近代日本の開拓者百人を選んでいるが、眞島先生はその両方で科学部門十人の中に選ばれている。また、平成二十三年に国立科学博物館が開いた化学者展には、桜井錠二、池田菊苗、鈴木梅太郎とともに、明治から昭和初期にかけて日本の近代化学、日本の学術研究体制を築き上げた四人として取り上げられている。
- 4 久保田尚志『日本の有機化学の開拓者 眞島利行』東京化学同人 平成十七年
- 5 不揮発性の有機化合物を空気を断って加熱分解すること。分解生成物を調べ、どのような部分構造が含まれるかを知る。
- 6 (a) Berihite、四十巻、四三九〇頁(一九〇七年) (b)『東京化学会誌』、二十八巻、一二二五頁(一九〇七年)
- 7 (a)『普通教育 化学教科書』…長俊一・大島鎮治…宝文館…明治四十三年、(b)『普通教育 化学教科書新訂3版』…一九一二年、(c)『参考近世化学講義』…長俊一・大島鎮治…東京宝文館…大正三年、(d)『化学要説高等受験参考』…長俊一・市村秀志…東京宝文館…大正三年、(e)『普通教育 化学新教科書2版』…長俊一・大島鎮治…東京宝文館…大正六年、(f)『女学校用 化学新教科書』…長俊一・大島鎮治…東京宝文館…大正七年
- 8 『米澤有為会雑誌』三八四号、一頁、昭和四年
- 9 直弟子の大学教授十四名のうち、二名(赤堀四郎 阪大、野副鉄男 北大)が文化勲章受賞者である。他にも有名教授が多い。因みに、孫弟子の教授は三百名を超え、ノーベル賞受賞者の鈴木章名誉教授(北大)もその一人である。山形大工学部にも西鉄之輔(直弟子)、笠原晃(孫弟子)、小原平太郎(孫弟子)の三教授がいた。

## 郷土の本紹介 (R元〜R2・10)

資料提供 ―― 市立米沢図書館

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内 容 等
1	米沢文化 第49号	米沢市芸術文化協会	米沢市芸術文化協会	K051	2020・3		米沢市芸術文化協会発行の広報誌。福王寺一彦氏と花田美穂氏の対談「福王寺法林生誕100周年 福王寺一彦氏 父を語る」や宮田直樹「田中俊雄とその研究について」等を収録。
2	米沢の神社・堂宮 14 ―愛宕地区―	市立米沢図書館	米沢市教育委員会	K175	2020・3		市立米沢図書館が平成17年から行っている各地区の神社・堂宮の調査報告書。令和元年度は愛宕地区の調査を行い、愛宕羽山両神社や遠山薬師堂・観音堂などを収録。
3	さかせわっさ	長井市	戎光祥出版	K210	2018・2		長井市の教育委員会が読み聞かせを普及させるために作った絵本。タイトルは「よみさかせ」と地元の方言「わっさおばけ」から付けている。
4	特別展 関東管領上杉謙信	米沢市上杉博物館	米沢市上杉博物館	K210	2020・4		2020年5月23日から6月21日まで、米沢市上杉博物館で開催された特別展「関東管領 上杉謙信」展の図版目録。
5	米沢史学 第35号	米沢史学会	米沢史学会	K210	2019・1		米沢女子短期大学日本史学科米沢史学会発行の学術誌。加藤晴美「明治前期の山形県における遊郭の展開と米沢―川井小路町貸座敷東楼を中心として―」等の論文を収録。
6	長井市史 地理・自然編 建築・都市・環境編 石 造文化財編 各論編 第1 巻	長井市	長井市	K212	2020・3		長井の地形・動植物等について解説した「地理・自然編」、建築分野・まちづくり・環境問題からみた長井の歩みを解説した「建築・都市・環境編」、庚申塔や板碑など、市内各所に残る石仏について解説した「石造文化財編」で構成した市史。
7	伊達政宗 戦国から近世へ	南奥羽戦国史研究会	岩田書院	K212	2020・4		2017年に、政宗生誕450年を記念して開催された3つのシンポジウムの記録。米沢時代における伊達氏の支配について触れている。
8	中世南奥羽の地域諸相	岡田清一／著	汲古書院	K212	2019・11		南奥羽通りを中心に山形県（南出羽）の事例を具体的に著す。鮎貝・荒砥地区（白鷹町）における長井氏、その後の伊達氏による支配の実態について考察されている。
9	懐風 第45号	御堀端史蹟保存会	米沢御堀端史蹟保存会	K212	2020・4		米沢御堀端史蹟保存会が発行する会誌。45号は、矢尾板探「故郷を愛した民法学者 我妻榮先生 松崎實受賞者会での講演」、渡邊敏和「上杉景勝公の正室「菊姫」について」等を収録。
10	山形県地域史研究 45号	山形県地域史研究	山形県地域史研究	K212	2020・2		白鷹町の蔵を事例として取り上げた、「阿部宇洋「山形県内の資料の行方―民衆資料はどこへゆくのか―」を収録。
11	桃川根古屋城の物語	佐藤耕太郎／著	新潟日報事業社	K214	2019・11		色部氏の御家風衆であった桃川氏の山城、「桃川根古屋城」についての調査研究書。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内容等
22	米沢女子短期大学所蔵『幼幼精義』初輯・巻之七 翻刻と訓注	小林文雄・渡部東一郎・加藤聰・新藤透・角屋由美子・山王堂・北村正敏／著	山形県立米沢女子短期大学	K490	2020・3		『幼幼精義』は米沢藩藩医をつとめた堀内素堂が漢文に翻訳・出版した小児科医学書。小児の原病総論および薬劑論を著した初輯を翻刻し、訓注を付した。
21	平清水・宮内・赤湯・上郷・長井の秘密	清野春樹／著	不忘出版	K388	2019・12		『山形歴史探訪シリーズ』の四冊目。置賜地方をテーマに地域の歴史を読み解いている。「田村麻呂と笹野観音」「飛騨工匠頭が開基となった上郷の瑞雲院」を収録。
20	山形民俗 32号	山形県民俗研究協議会	山形県民俗研究協議会	K380	2019		渡邊敏和「置賜地方在住の仏師たち」を収録。江戸中期に現在の米沢市域で暮らした仏師を含めた調査結果。
19	なせば成る！ 探究学習 言語活動実践ハンドブック	山本陽史・山形県立米沢興譲館高等専門学校国語科／編著	山形大学出版会	K3758	2020・3		山形大学と米沢興譲館高等専門学校が協力して言語活動に取り組んだ記録。レポート、ポスター作成等の国語指導のハンドブック。
18	令和2年7月最上川水害山形豪雨の記録特別報道写真集	山形新聞社	山形新聞社	K3693	2020・9		今年七月に山形県内を襲った豪雨による最上川の氾濫、浸水被害の記録。山形県内各地の当時の状況と今後の復興を報道写真により伝えている。「田村麻呂と笹野観音」。
17	上杉鷹山とイノベーション経営	田中宏司・水尾順一・蟻生俊夫／編著	同友館	K3361	2020・5		上杉鷹山の藩政改革を、ビジョンの明確化、人材の登用といった新しい仕掛けや制度を創った点から分析。鷹山の政策を、現在に生かすべく提案した一書。
16	大橋乙羽樋口一葉を世に出した男	安藤貞之／著	百年書房	K2981	2020・2		米沢出身の小説家・編集者である大橋乙羽。「日本初の編集者」とも評され、樋口一葉を世に送り出したことでも知られる乙羽について20年の調査成果をまとめた一書。
15	不撓不屈の戦国武将 本庄繁長	本庄繁長公の会	本庄繁長公の会	K289	2019・11		越後の国人領主で八十五戦不敗といわれる本庄繁長。存在する多数の古文書を整理して、書状等から歴史の実像を解説した。
14	上杉謙信	山田邦明／著	吉川弘文館	K289	2020・9		江戸時代以降、書物やメディアによって様々な形成されてきた上杉謙信像。「義の武将」と称された謙信の実像とは。近年の研究史や、数多く残された書状、発給文書から、その実像に迫った一書。
13	マンガで行く吉良氏 800年の旅	すずき孔／著	産地域活性化実行委員会	K288	2020・3		倉時代以前からの西尾市域統治から八百年を記念して制作。鎌倉時代以前からの名門の流れを汲み、やがて江戸幕府の儀式を担当する高家となる吉良氏の歴史を描いた。
12	縄文漆工芸のアトリエ 押出遺跡	水戸部秀樹／著	新泉社	K281	2019・2		高島町にある押出遺跡から、縄文時代の置賜地域の生活の実態に迫る。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	ページ数	内容等
23	ランドスケープの夢	高野文彰・高野ランドスケープランドニング株式会社編著	建築資料研究社	K5188	2020・3		自然・環境と建物の調和を考えた建設をしてきた高野ランドスケープと、米沢の自然の中で幼少期を過ごした高野文彰氏の軌跡を描いた。
24	史跡上杉治憲敬師郊迎跡保存修理工事報告書 普門院庫裏保存修理工事 第二集	米沢市教育委員会	米沢市教育委員会	K521	2020・3		令和八年度まで予定している史跡上杉治憲敬師郊迎跡保存修理事業の報告書。普門院の工事内容。発掘調査内容。所蔵資料などを収録。
25	特別展 米沢城 上杉氏の居城	米沢市上杉博物館	米沢市上杉博物館	K5218	2020・9		2020年9月19日から11月23日まで、米沢市上杉博物館で開催された「米沢城 上杉氏の居城」展の図録目録。
26	いいね！日本酒はじめの美味しい1杯	上杉孝久著	WAVE出版	K5885	2020・7		著者は上杉子爵家（米沢新田藩）九代目当主。お酒の苦手なしみ方を教える一冊。
27	米沢市伝統技術「原方刺し子」の詳細記録の作成と図案の研究	阿部宇洋・遠藤きよ子・宮田直樹著	山形大学阿部研究室	K594	2020・2		米沢藩の「原方染」と呼ばれた下級武士の妻たちが創始した、伝統ある原方刺し子。その技術や受け継いできた図案を調査・研究し、技術と思想の普及を目的とした一書。
28	羽前の石燈籠研究	加藤和徳著	蓬萊波形山文庫	K6296	2020・7		置賜地域の各地にある燈籠の研究記録。米沢市広幡成島町・成島八幡宮庭に造立する成島八幡宮層塔型石燈籠等を収録。
29	近世最上川水運と西廻航路幕藩領における廻米輸送の研究	横山昭男著	吉川弘文館	K684	2020・5		地域の史料を読み解き、藩領の舟運の変化と豪商の活動の関わりを流通史の視点から解き明かした長年の研究成果をまとめた。
30	山に向ひて 細谷信義作品集	細谷信義画	細谷信義	K723	2019・11		山々に囲まれた地・米沢で育った、著者による山の絵58作品を収録。
31	民藝第810号 田中俊雄と沖繩の織物	民藝編集委員会	日本民藝協会	K750	2020・6		米沢で生まれた沖繩織物の研究者、田中俊雄を特集した号。宮田直樹「田中俊雄と米沢」を収録。
32	心友 素顔の井上ひさし	小川莊六著	作品社	K9102	2020・7		井上ひさしの没後十年となる2020年に出版された本。大時代から五十四年来の心友が、知られざる素顔を明かしている。
33	続 独吟歌仙	高野 譲著	高野 譲	K911	2020・6		平成29年5月に発行した「独吟歌仙」の続編となる連句集。自身の詠んだ句の他に、歌人・俳人・小説作家等の忌日を採りあげ、作品例を紹介。著者は米沢市在住の元高校教師。
34	吉本隆明全集 21巻	吉本隆明著	晶文社	K918	2020・1		著者の米沢の思い出を記した「米沢の生活」、米沢の方言について語られた「わたしの地名挿話」を収録。

## お詫びと年表訂正・追加のお願い

昨年末、本会創立百三十周年記念特集号として『米沢有為会々誌』復刊第六十九号を発行いたしました。その後米沢有為会興讓館寄宿舎OB会会員のご指摘により、年表の「興讓館寄宿舎」欄等に間違いと不足が判明しましたので、誠に申し訳なくお詫びして訂正・追加させていただきます。

令和二年十二月十五日

公益社団法人 米沢有為会

文化広報部長 手塚宮雄

記

西暦	年号	年	月/日	興讓館寄宿舎
一九四五	昭和	20	4/13	(誤) 永井省三氏宅 (正) 永井忠兵衛氏宅
一九八九	平成	元	6/18	(誤) 米沢有為会興讓館寄宿舎 OB会を結成 OB会名簿発行
二〇一三	平成	25	10/25 (追加) 9月	(正) 米沢有為会興讓館寄宿舎 OB会を結成 OB会名簿発行 (追加) 米沢興讓館興讓館寄宿舎 OB会設立25周年

西暦	年号	年	月/日	興讓館寄宿舎
二〇一五	平成	27	(誤) 7月 (正) 8月	(追加) 平成25年の寄宿舎OB会設立25周年記念事業として『興讓館寄宿舎戦後70年の歩み』発刊
二〇一六	平成	28	5月	(追加) 「興讓館寄宿舎OB会通信」第一号発行
二〇一九	令和	元	10/7 (追加) 7月	(追加) 東京興讓館寄宿舎開館110周年 (追加) 仙台興讓館寄宿舎開設105周年

# 法人賛助会員名簿

(令和二年十一月二日現在)

公益社団法人米沢有為会の主旨にご賛同し、賛助会員としてご支援ご協力をいただきありがとうございます。ごぞいます。

## 東京支部

鈴木会計事務所

(有)アルックス

舟寿し

くさかり小児科

(株)向洋アドシステム

(株)羽黒洞

## 米沢支部

相田建設(株)

浜田(株)

(株)小嶋総本店

置賜建設(株)

(株)大清

(株)丸定

(代表者 敬称略)

鈴木 信之

宮坂 孝夫

深澤 和子

草刈 和章

金子 晃司

木村 品子

(代表者 敬称略)

相田 晃輔

清川 浩志

小嶋 健市郎

川野 敬典

中村 友彦

佐藤 良喜

米沢中央高等学校同窓会 権の実会

さの医院

中條医院

若松工業(株)

舟山 清

(財)宮坂考古館

鉄砲屋町町内会

精英堂印刷(株)

(株)タカハタ電子

(株)羽陽印刷

(株)山形新聞社米沢支社

中條齒科医院

東北警備保障(株)

(株)カワサキ印刷

米沢ヤクルト販売(株)

田中クリニック

米澤信用金庫

(株)さらやか銀行米沢支店

廣居建設(株)

(株)山形銀行米沢支店

(有)今泉商店

石橋医院

佐野 隆一  
中條 明夫  
片倉 尚

宮坂 直樹  
渋谷 賢一

井上 吉昭  
安房 毅

石田 一郎  
松本 昭弘

中條 良文  
武田 誠一郎

川崎 信一  
佐藤 大介

田中 雄二  
加藤 秀明

高橋胃腸科外科医院  
 山岸草木工芸(株)  
 (株)米澤新聞社  
 (株)本多建設  
 佐々木隆一司法書士事務所  
 (株)荘内銀行米沢中央支店  
 (株)平山孫兵衛商店  
 (株)米沢牛 黄木  
 村正運輸(株)  
 (株)ナウエル  
 (株)川島印刷  
 (株)タスクフーズ  
 (株)上杉コーポレーション  
 (株)データシステム米沢  
 金子建設工業(株)  
 米木建設(株)  
 (株)青葉堂印刷  
 太田建設(株)  
 (有)平田自動車工業  
 (株)エービーエム  
 (株)後藤組  
 (株)セゾンファクトリー

高橋秀昭  
 山岸幸一  
 保刈正男  
 本多作之助  
 佐々木隆一  
 荒井誠司  
 平山順一  
 黄木修太郎  
 村山正博  
 宮嶋敏郎  
 川島良範  
 宮坂宏  
 来次信彦  
 高橋孝二  
 金子尚人  
 前山郁朗  
 中村隆志  
 太田政往  
 平田憲二  
 赤間俊明  
 後藤茂之  
 齋藤雅一

ハイメカ(株)  
 (株)村山商工  
 (株)堤商店  
 (株)天元台  
 ジーエスデザイン(株)  
 東亜熱研工業(株)  
 (有)HYOコーポレーション  
 日台マシナリー(株)  
 (株)小島洋酒店  
 (株)ニューテックシンセイ  
 (株)我妻組  
 我妻建設工業(株)  
 吉田建設(株)  
 (有)東北データ通信機  
 米沢浜理薬品工業(株)

仙台支部  
 仙台環境科学(株)  
 東北オフィスマシン(株)  
 ・東京支部 六社  
 ・仙台支部 二社

横山千広  
 村山順彌  
 堤山孝雄  
 山田長一  
 福崎真知子  
 増村力  
 兵庫等  
 丹野信嗣  
 小島長五郎  
 乗原晃  
 我妻悦雄  
 我妻弘一  
 吉田浩人  
 加藤肇治  
 高美時郎

(代表者 敬称略)  
 加藤啓二  
 林崎まつ子  
 ・米沢支部 六十五社  
 合計 七十三社



○地域振興部

部長・若者フォーラム担当  
種村信次  
表彰・小論文担当

産業担当  
伊藤和夫  
理事  
鈴木幸一  
理事  
甲木信  
参事  
本多國彦

同  
佐藤多和彦  
同  
山本広明  
同  
柴田正孝  
同  
後藤穂  
同  
宮坂宏  
同  
金子周治  
同  
船山秀一  
同  
鈴木順讓  
同  
岸木一  
同  
山口昇一

○文化広報部

部長・会誌担当

会誌担当  
手塚宮雄  
H P担当  
菊地隆雄  
H P担当  
五雲卓  
参事  
梅津幸保  
同  
石田和弘  
同  
佐藤孝市

同  
戸田直博  
同  
近野久左門  
同  
佐藤広明

○文化大学

名誉学長  
米野宗禎  
学長  
大滝則忠

○東京支部長

鈴木信之

○米沢支部長

中川勝

○仙台支部長

甲國信  
矢尾板操

○北海道支部長

田村邦夫

○教育委員

岸藤順一  
齋藤裕司  
神保雅寿  
高橋善彦  
辻雅人

○産業振興委員

齋藤友久  
柴田正孝  
菅野紀生

学生寮興讓館

○東京興讓館

館長  
川合勝雄  
副館長  
大滝則忠  
運営チーム  
菅野憲幸  
同  
菊地隆雄  
同  
福田富卓

○仙台興讓館

館長  
滝口政彦  
副館長  
長澤健一  
寮母  
桶川幸江

○我妻榮記念館

名誉館長  
我妻学  
顧問  
上村勘二  
館長  
矢尾板勘  
管理人  
手塚正  
運営委員  
本多和彦

同  
安部敏彦  
同  
佐野隆一  
同  
高橋節子  
同  
柿崎悦子  
同  
山崎公彦  
同  
佐藤繁

東京支部役員

支部長  
鈴木信之

副支部長  
川合勝雄

理事  
宮坂孝夫

理事  
板垣史朗

理事  
太田ひろみ

理事  
加藤正憲

理事  
加藤正憲

理事  
菅野憲幸

理事  
倉田和卓

理事  
近藤郁子

理事  
佐藤好明

理事  
澤田美根子

理事  
鈴木吉助

理事  
羽田弘宣

理事  
林常子

理事  
平山三博

理事  
平山三博

理事  
渡邊和義

理事  
赤井忠義

理事  
赤井忠義

理事  
片平善造

理事  
小森善造

理事  
石原俊一

理事  
相談役

諮問委員

米野宗禎 安部壯一郎 安部洋司 安部麻矢 井上浩之介 今井麻子 岩瀬和隆 遠藤弘子 遠藤民夫 神野泰伸 金藤孝夫 佐藤孝夫 佐藤泰夫 橋本和毅 深澤享毅 舟山和子 村石国和 山田雅房 山田宏生

米沢支部役員

支部長 中川勝 副支部長

(理事) 種村信次 (理事) 伊藤和彦 (理事) 本多和彦

理事

(常務)

赤木義信 安部敏 安部友紀 遠藤善之 遠藤善一 遠藤英一 大貫庄士 小野悦子 柿崎悦子 金子周治 岸藤順一 後藤野左門 近野久工 佐藤孝由 佐藤知市 佐藤孝明 山宮光雄 白石悟 鈴木幸一 鈴木讓一 高橋昌節 塚屋伸子 土屋昌宏 手塚修宏 宮坂宏

監事

諮問委員

矢尾一郎 山木昇 山口良文 中山正孝 柴田弘 石田昭 磯部道弘 磯部修 稲村榮裕 井上村 漆山政 奥村政 川島良 川野裕 川野章 下野邦彦 後藤條 後藤仁 小藤圭 小野圭 近野圭 齋藤裕 齋藤裕 穴藤裕 島津一 島津一 庄司一 神保一 須崎一 高橋善志 武田誠一 辻雅人

顧問

相談役

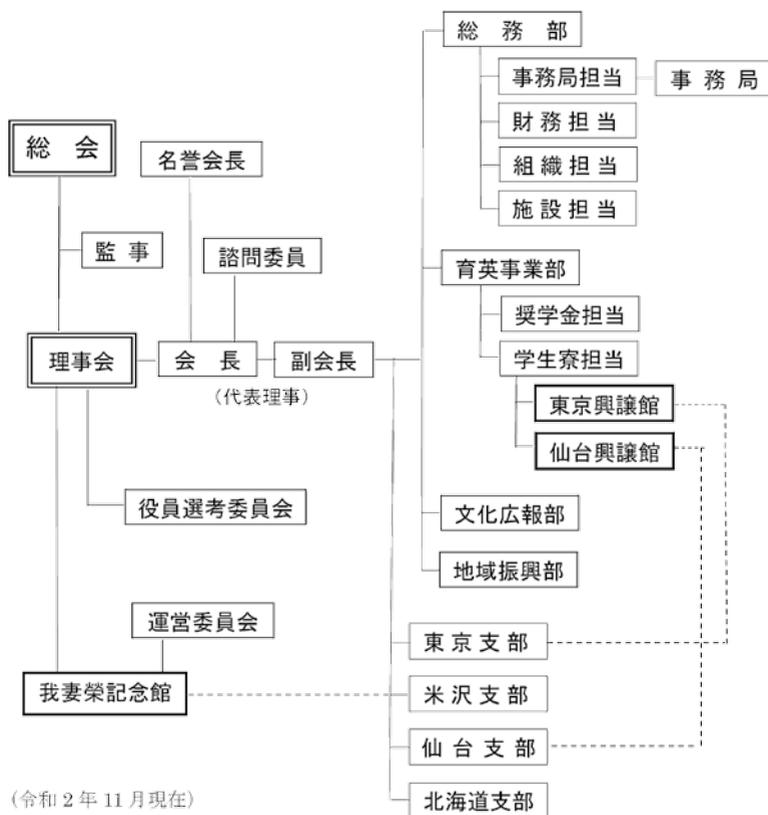
参事

(事務局長) 米宮本安吉大増原仁白佐寒後内渡本船福樋戸手  
(事務局) 村岡 浩秀 三十 真 俊洋孝誠 幸重秀 秀真哲直  
(事務局) 青木部 美由紀 学二行浩郎 徹樹力二一夫七信平治丈精一子弘博正  
(事務局) 木村美穂



# 公益社団法人 米沢有為会 組織一覽図

(意思決定し業務執行を分掌する理事会体制)



## 本部・各支部事務所所在地

### 本 部

☎18210004

東京都調布市入間町一丁目三六番地

東京興讓館内

電・FAX (03)(3309)3301

ホームページ (<http://www.yonezawa-yuikai.org/>)

### 東 京 支 部

☎18210004

東京都調布市入間町一丁目三六番地

東京興讓館内

電・FAX (03)(3309)3301

### 米 沢 支 部

☎99218501

山形県米沢市金池五丁目二一五

米沢市役所内 秘書広報課内

電(0338)(22)5111 FAX(0338)(22)5541

### 仙 台 支 部

☎98010874

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六一

仙台興讓館内

電・FAX (022)(22)4790

### 北 海 道 支 部

☎06610061

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T G 札幌ビル7F

(株)建社内 田村邦夫

電(011)(27)2585

## 米沢有為会設置施設

**東京興讓館** ☎182-0004 東京都調布市入間町1-36  
電・FAX (03)(3309)3302

**仙台興讓館** ☎980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21  
電・FAX (022)(222)4790

**我妻榮記念館** ☎992-0045 山形県米沢市中央3-4-38  
電・FAX (0238)(24)2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

## 米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正 会 員 年 会 費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年 会 費 三、〇〇〇円

賛助会員団体 年 会 費 一〇、〇〇〇円 以上です。

よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることもできますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

## 置賜地区の自治体所在地

米沢市	〒992-8501 米沢市金池五丁目2番25号	☎0238-22-5111
長井市	〒993-8601 長井市ままの上5番1号	☎0238-84-2111
南陽市	〒999-2292 南陽市三間通436番地の1	☎0238-40-3211
高島町	〒992-0392 高島町大字高島436番地	☎0238-52-1111
川西町	〒999-0193 川西町大字上小松1567番地	☎0238-42-2111
小国町	〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地	☎0238-62-2111
白鷹町	〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地	☎0238-85-2111
飯豊町	〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地	☎0238-72-2111

## 後記

☆二〇二〇年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、人々の生活が甚大な影響を被った年でした。二〇一九年十二月、中国湖北省武漢市で新型コロナウイルス感染者が発生して以来、感染は瞬く間に世界中に拡大し、三月十一日にはWHO（世界保健機関）がパンデミック（世界的な大流行）状態にあると表明しました。日本の累計感染者は十一月末現在約十四万九千人、死者数約二千百人。世界全体ではそれぞれ約六三〇〇万人、約百四十六万人となっています。コロナ禍について要点を記録しておくことは重要と思われまふ。

☆この影響により、日本では四月七日より五月二十五日まで四十九日間「緊急事態宣言」が出され、全国で社会経済活動やスポーツ・文化活動が大きく制約され、東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、会議・行事等の延期や中止、学校の臨時休校のほか、個人生活でも外出自粛やマスクの着用、手指の消毒、三密（密閉・密集・密接）の回避、社会的距離の確保等が要請されました。幸い、一月十一日（土）米沢での百三十周年記念事業「地域未来を拓く若人フォーラムin置賜」、十九日（日）東京での第六回理事会、七月二日（木）の表彰伝達式だけは何とか実施することができました。

☆今年四月、大滝会長の呼びかけに応じて、本会役員や会員、保護者等が東京・仙台の興譲館寮生の支援に乗り出しました。注意喚起やマスク、消毒液、食料の差し入れを行うなど、寮生から感染者を出さないための予防対策が取られました。両館長の様々な気配りに応えて、各寮長とも不安を感じながらも自覚して予防に努めています。お陰様で十一月末現在感染者は出ていませんが、なお油断なく感染防止に努めてほしいものです。

☆コロナ禍の影響により、四月以降定時総会をはじめ、本部・支部の理事会や総会などの会議はすべてメールや書面による議決権行使の方式が取られました。全国各地の企業や自治体、大学などでテレワークやオンライン授業が実施される中、本会の理事会や諸会議も対面式会議を開催できず、七月から事務局の五雲寺理事のお世話でズーム（Zoom）会議システムが導入されました。私も十一月一日（日）の第四回理事会で初めてこれを経験しましたが、その優れた利便性に驚嘆すると共にそれまでの対面式会議をやや懐かしく思った次第です。七月の完全には収束しない第二波を経て、十一月から最大の第三波が押し寄せ医療現場が逼迫しそうな中ですが、行政も社会も個人も一体となって最大限の防止対策を実行し、来る年にはコロナ禍が早く終息して、通常の生活を取り戻したいものです。

（文化広報部長 手塚宮雄）

# 広告掲載企業一覧

本会の主旨にご賛同してご協賛をいただき誠にありがとうございます。

(敬称略・五十音順)

上杉観光開発株式会社  
株式会社 上杉コーポレーション  
株式会社 羽陽印刷  
株式会社 エービーエム  
株式会社 川島印刷  
株式会社 小嶋総本店  
株式会社 スリーウッド・プロデュース  
仙台環境科学株式会社  
株式会社 タスクフーズ 鯉の宮坂・宮香本舗  
東北警備保障株式会社  
株式会社 ナウエル  
日本橋小舟町 舟寿し  
株式会社 日山  
株式会社 本多建設  
吉野石膏株式会社  
米沢牛銘柄推進協議会  
米沢商工会議所  
米沢信用金庫  
株式会社 ワイ・エム・ピー

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60  
電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）



株式会社

エービーエム

本 社  
〒992-0003

山形県米沢市窪田町窪田584-2  
☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

南陽営業所  
〒992-0472

山形県南陽市宮内4641  
☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

# お客様の商売繁盛を応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd



株式会社

川島印刷

〒992-0021

山形県米沢市大字花沢221-2

TEL 0238-21-5511・FAX 0238-21-5514

ホームページに事例多数掲載中！

川島印刷

←検索



清酒 東光 醸造元

株式会社 小嶋 総本店

米沢市本町2丁目2番3号東町上通り

TEL 〇二三八 一三二一 四八四八

フルーティー・芳醇なコク・後切れの良さ

三拍子揃った純米吟醸原酒



東光 純米吟醸原酒

三年連続金賞受賞

ワイングラスでおいしい  
日本酒アワード

〇お近くのお酒屋さんで買い求めください。 ※お酒は20歳になってから

# 株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種  
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

.....  
所属アーティスト

大泉逸郎「ありがてえなあ」(テイチク) 河北町  
浜 博也「一輪挿し」(テイチク) 飯豊町  
奥山えいじ「只見線恋歌」(テイチク) 尾花沢  
(カラオケで唄ってください)

代表取締役  
プロデューサー **木村尚武**

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10  
デューク桜上水 507  
PHONE 03 (5317) 4770  
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、  
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録

宮城県知事 第H7-001号(濃度)

**仙台環境科学株式会社**

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号

TEL (022) 263-1361

FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



創業百七十余年

**みやさかや**



株式会社 タスクフーズ

山形県米沢市相生町7-130

TEL:0120-25-7188

水曜日定休日有ります

URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元に愛されて48年。  
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



**東北警備保障株式会社**

山形県公安委員会認定第6号  
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17  
電話 0238-29-0005  
FAX 0238-29-0015  
URL <http://www.next-alert.co.jp>

- 営業品目
- ・ 機械警備
  - ・ 常駐警備
  - ・ 交通誘導業務
  - ・ イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
  - ・ 施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
  - ・ 清掃業務（法人契約）

**IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！**

日本橋

# 舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で  
培われた江戸前の技が活きる  
お寿司・お刺身と共に四季折  
々の御料理がご堪能いただけ  
ます。お座敷はさまざまな個  
室、カウンター、テーブル席  
もご用意いたしております。  
大小ご宴会から御家族、ご友  
人との御会食まで幅広くご利用  
頂けます。

深澤 和子

(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568  
〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2 深澤ビル  
<http://www.funazushi.info/>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30  
PM 4:30~PM10:00  
(PM9:30オーダーストップ)  
(土曜日の夜は、10名様前後で要前日予約)

【定休日】 日曜日、祝日、第四土曜日  
※ 座敷は全席、椅子席になります



家族を愛する  
ママを応援する家。



## 住宅の新築

- ♥ ママ応援住宅
  - ♥ 子育て世代応援住宅
- ママエール  
建替え、二世帯住宅など



## リフォーム

水まわり工事など  
小さな修繕から、増改築、  
全面リフォーム(新築二世)まで

不動産 土地の売買や  
中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ本多建設 [検索](#)



株式  
会社

# 本多建設

0238-21-5100

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

特定建設業許可番号:山形県知事許可(特-30)第500142号/一級建築士事務所登録:山形県知事登録(1604)第1715号/宅地建物取引業者免許番号:山形県知事(10)第1234号

いつも一緒に あなたのそばに



しんきん

大変  
お待たせ  
致しました

スマホを使いこなしたいあなたへ

## ドコモスマホ教室 再開いたしました!!

ドコモ以外の  
スマホをお使いの  
お客様も大歓迎!!



感染症対策のため、少人数制で開催しております。ご参加の際は、事前のご予約をお願い致します。

お手続きでご来店の際には「来店予約」が必要です

各種お手続きはWebのご利用もお願いいたします

ご不明な点やお問い合わせは 0120-609-111 (受付時間9:00~20:00)  
フリーダイヤルへ



ご来店予約・  
Web手続きは  
こちらから

ドコモショップ米沢春日店

☎ 0120-028-280

定休日: 毎月第2木曜日 駐車場あり

[住 所] 米沢市春日1-3-31  
[営業時間] AM10:00~PM7:00

ドコモショップ南陽店

☎ 0120-090-128

定休日: 毎月第2木曜日 駐車場あり

[住 所] 南陽市郡山624-1  
[営業時間] AM10:00~PM7:00



## グルメからお土産まですべて揃う 米沢観光のキーステーション



上杉神社御参拝や上杉博物館・上杉  
伯爵邸御見学など、上杉文化エリアを  
ご散策の際には、ぜひお立ち寄りください。  
米沢・山形の逸品をお取り寄せできる  
上杉城史苑ネットショップもご利用ください。



**上杉城史苑**

**TEL.0238-23-0700**

米沢市丸ノ内1丁目1-22

<https://uesugijoshien.jp>



株式会社

# 羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22  
T E L (0238) 23-0467(代)  
F A X (0238) 23-0480

企業を育て、地域を伸ばす



# 米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

URL:[www.ycci.or.jp](http://www.ycci.or.jp) E-mail:[yone-cci@ycci.or.jp](mailto:yone-cci@ycci.or.jp)



☎でのお問い合わせは ☎ **0238-22-1238**

[www.grand-hokuyo.com](http://www.grand-hokuyo.com)

# グランドホクヨウ

山形県米沢市金池2丁目3-7 / TEL: (0238)22-1238 / FAX: (0238)21-1067

日本全国、

ホルムアルデヒド退治の

虎の巻。

タイガーハイクリンボードは  
シックハウス症候群の主な原因物質の  
ホルムアルデヒドを吸収・分解するので  
日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性・施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

High-Clean Board

**タイガーハイクリンボード**

ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード

(特) 日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物削減建材」として認定されました。(認定番号: BCG-AIBT-7)



**YOSHINO**  
安全で快適な住空間を創る **吉野石膏**

[本社] 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005  
<http://www.yoshino-gypsum.com/>  
代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊  
昭和27年8月2日復刊  
第70号  
令和2年12月10日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 大 滝 則 忠  
編集 文化広報部長 手 塚 宮 雄  
東京調布市入間町1丁目36番地 電話・FAX 03-3309-3302  
印刷 ㈱羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467